342.1
M448
Mm

0030513003

0030513-003

342.1-M448-Mm

明治財政史

明治財政史編纂会・編

明治財政史発行所

1927-1928

AEA

ハエ-2G-53

大藏省內
明治財政史編纂會編纂

明治財政史

第六卷 租稅(二)

東京 明治財政史發行所

明治財政史

第六卷　目次

第六編　租稅　一

第一章　內國稅　一

第四節　所得稅　一

第一款　所得稅ノ第一期　一

第二款　所得稅ノ第二期　一

第五節　營業稅　三

第六節　酒稅　七

第一款　酒造稅　七

第一項　酒造稅ノ第一期　七

第二項　酒造稅ノ第二期　七

第三項　酒造稅ノ第三期　八

第四項　酒造稅ノ第四期　一〇

第五項　酒造稅ノ第五期　一八

342.1
M448
Mm

財團法人
40.6.-9
書籍圖書

贈寄
野田俊作殿

669239

第二款　自家用酒税　二二一
第三款　混成酒税　二三二
第四款　酒精及酒精含有飲料税　二三七
第五款　麥酒税　二五一
第六款　酒精營業税　二六〇
第七款　沖繩縣酒類出港税　二七一
第七節　醋麴營業税　二七九
第八節　醬油税　二八六
第一款　醬油造石税　二八六
第一項　醬油造石税ノ第一期　二八七
第二項　醬油造石税ノ第二期　二九八
第二款　自家用醬油税　三三一
第九節　煙草税　三三六
第一款　煙草税ノ第一期　三三六
第二款　煙草税ノ第二期　三四六
第三款　煙草税ノ第三期　三六二

第十節　菓子税　三八五
第十一節　砂糖消費税　四〇〇
第十二節　登錄税　四一七
第十三節　印紙税　四四八
第一款　印紙税ノ第一期　四四九
第二款　印紙税ノ第二期　四七七
第三款　印紙税ノ第三期　五〇二
第四款　印紙税ノ第四期　五一六
第十四節　祿税　五二四
第十五節　僕婢税　五五五
第十六節　狩獵税　五五七
第一款　狩獵税ノ第一期　五五七
第二款　狩獵税ノ第二期　五六三
第三款　狩獵税ノ第三期　五六五
第四款　狩獵税ノ第四期　五六七
第十七節　車税　五七四

第十八節　船稅　五八五
第一款　船稅ノ第一期　五八五
第二款　船稅ノ第二期　六〇〇
第十九節　馬稅　六一〇
第二十節　駕籠稅　六一二
第二十一節　骨牌稅　六一五
第二十二節　專賣特許稅　六二八
第二十三節　鑛業稅及鑛區稅　六三〇
第一款　鑛業稅及鑛區稅ノ第一期　六三〇
第二款　鑛業稅及鑛區稅ノ第二期　六三三
第三款　鑛業稅及鑛區稅ノ第三期　六三七
第二十四節　賣藥稅　六四三
第一款　賣藥稅ノ第一期　六四三
第二款　賣藥稅ノ第二期　六五一
第二十五節　度量衡稅　六五五
第二十六節　牛馬賣買免許稅　六六九

第二十七節　蠶種生絲稅　六七七
第二十八節　絞油稅　六九五
第二十九節　國立銀行稅　六九九
第三十節　兌換銀行券制限外發行稅　七〇二
第三十一節　兌換銀行券發行稅　七〇五
第三十二節　取引所稅　七〇八
第一款　取引所稅ノ第一期　七〇八
第二款　取引所稅ノ第二期　七一五
第三款　取引所稅ノ第三期　七二二
第三十三節　港灣碇泊稅　七二六
第三十四節　北海道水產稅　七三五
第一款　北海道水產稅ノ第一期　七三五
第二款　北海道水產稅ノ第二期　七六一
附錄
印紙制度　七七五
內國稅務機關沿革表

明治財政史第六卷目次 終

明治財政史 第六卷

第六編 租稅

第一章 內國稅

第四節 所得稅

第一款 所得稅ノ第一期

我國所得稅ノ制度ハ明治二十年三月勅令第五號所得稅法ノ制定ヲ以テ創始トス當時國家歲入ノ大部分ハ地租竝ニ酒稅等ニ資リタリト雖モ國家ノ進運ニ伴ヒ諸般ノ經費大ニ增額ヲ來セルノミナラス國際ノ現狀ハ特ニ海軍擴張ノ急務ヲ告クルモノアリ又北海道物產稅輕減ハ軍備充實ノ件ト共ニ明治二十年度ヨリ施行スルコトハ閣議ヲ以テ決セラレタル所ナリ然ルニ當時ノ稅法タル維新創業ノ際制定セラレシモノニアラサレハ卽チ封建ノ餘風未タ全ク消ヘサルノ時ニ當リ民情ノ適度ヲ量リテ制定シタルモノニシテ國情ノ推移ト權衡ヲ得サルモノ多ク且其稅率亦輕重宜ヲ失シ富者ノ負擔甚タ輕ク貧者頗ル其過重ニ苦ムモノアリ是ヲ以テ現行各稅ヲ以テシテハ單ニ稅率ヲ增シテ歲入增加ヲ求ムルヲ得サルノミナラス租稅制度革新ノ機運漸ク迫レルモノアルヲ以

テ外國ノ制度ヲ參酌シテ新ニ所得稅ヲ起シ以テ如上ノ必要ニ應スルコトヽセリ

所得稅法案ハ明治二十年一月閣議ニ提出セラレ次テ元老院ノ議定ヲ經テ多少ノ修正ヲ加ヘ同年三月十九日勅令第五號ヲ以テ公布セラレタリ而シテ同法ハ全文二十九條及附則ヨリ成リ各人一箇年三百圓以上ノ所得アル者ニ對シ累進稅率ヲ以テ所得稅ヲ課シ其等級ヲ五種ニ分チ同居家族ノ收入ハ戶主ノ所得ニ合算シ法人ニ對シテハ課稅セサルノ主義ヲ採リ所得稅調査委員會ヲ設ケテ所得稅ニ關スル調査ヲ掌ラシメ而シテ北海道沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ニ於テハ官ヨリ受クル俸給手當年金及恩給金ノ所得ノ外ハ當分之ヲ施行セサルコトヽセリ其全文左ノ如シ

勅令第五號（明治二十年三月十九日）

所得稅法

第一條　凡ソ人民ノ資產又ハ營業其他ヨリ生スル所得金高一箇年三百圓以上アル者ハ此稅法ニ依テ所得稅ヲ納ム可シ

但同居ノ家族ニ屬スルモノハ總テ戶主ノ所得ニ合算スルモノトス

第二條　所得ハ左ノ定則ニ據テ算出ス可シ

第一　公債證書其他政府ヨリ發シ若クハ政府ノ特許ヲ得テ發スル證券ノ利子營業ニアラサル貸金ノ利子株式ノ利益配當金官私ヨリ受クル俸給手當金年金恩給金及割賦賞與金ハ直ニ其金額ヲ以テ所得トス

第二　第一項ヲ除クノ外資產又ハ營業其他ヨリ生スルモノハ其種類ニ應シ收入金高若クハ收入物品代價中ヨリ國稅地方稅區町村費備荒儲蓄金製造品ノ原質物代價販賣品ノ原價種

代肥料營利事業ニ屬スル場所物件ノ借入料修繕料雇人給料負債ノ利子及雜費ヲ除キタルモノヲ以テ所得トス

第三　第三項ノ所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算出ス可シ但所得收入以來未タ三年ニ滿タサルモノハ月額平均其平均ヲ得難キモノハ他ニ比準ヲ取リテ算出ス可シ

第三條　左ニ掲クルモノハ所得稅ヲ課セス

第一　軍人從軍中ニ係ル俸給

第二　官私ヨリ受クル旅費傷痍疾病者ノ恩給金及孤兒寡婦ノ扶助料

第三　營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

第四條　所得稅ノ等級及稅率左ノ如シ

等級	稅率
第一等　所得金三萬圓以上	百分ノ三
第二等　所得金貳萬圓以上	百分ノ二半
第三等　所得金壹萬圓以上	百分ノ二
第四等　所得金千圓以上	百分ノ一半
第五等　所得金三百圓以上	百分ノ一

但所得金高ハ圓位未滿ノ端數ヲ算セス

第五條　所得稅ハ前半年分ヲ其年九月ニ後半年分ヲ翌年三月ニ納ム可シ

第六條　此稅率ニ依リ稅金ヲ納ム可キ所得アル者ハ其年所得ノ豫算金高及種類ヲ記シ每年四

月三十日マテニ居住地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ屆出ヘシ

第七條　各郡區役所管轄內ニ七名以下ノ所得稅調査委員ヲ置キ每年調査委員會ヲ開キ所得稅ニ關スル調査ヲ爲サシム

調査委員定數ノ外五名以下ノ補缺員ヲ置キ缺員ノ補充ニ備フヘシ

調査委員及補缺員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第八條　調査委員ハ其郡區內ノ選擧ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　調査委員ノ選擧人被選人ハ二十五歲以上ノ男子ニシテ其郡區內ニ現住シ所得稅ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ルル者ハ被選人タルコトヲ得ス同條第一款第二款第三款ニ觸ルル者ハ選擧人タルコトヲ得ス

第十條　郡區長ハ各町村內ニ五名ヨリ多カラサル町村選擧人ノ員數ヲ定メ其町村人民中第九條ノ資格ヲ有スル者ヲシテ互選セシム但便宜ニヨリ數町村ヲ合シテ五名ヨリ多カラサル選擧人ヲ定ムルコトヲ得

町村選擧人ハ第九條ノ範圍內ニ於テ調査委員及補缺員ヲ選擧スヘシ

第十一條　調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年每ニ全數ノ半ヲ改選ス但第一回ノ改選ハ抽籤ヲ以テ其退任者ヲ定ム

第十二條　調査委員ノ手當旅費其他調査ニ關スル費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

第十三條　郡區長ハ第六條ノ屆書ニ據リ所得金高下調書ヲ製シ其屆書ト共ニ調査委員會ニ附スヘシ

第十四條　郡區長ハ納稅者ト認ムル者ニシテ第六條ノ期限ヲ過キテ其屆出ヲ爲ササル者アルトキハ所得金高ノ見積ヲ立テ之ヲ調査委員會ニ附スヘシ

第十五條　調査委員會ハ郡區長ノ招集ニ由リ之ヲ開ク調査委員會ノ會長ハ郡區長ヲ以テ之ニ充ツ郡區長缺席スルトキハ會員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　調査委員會ハ會員過半數出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス會議ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ可否スル所ニ依ル但自己ノ所得ニ關スルトキハ其會議ニ與ルコトヲ得ス

第十七條　郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ據リ各納稅者ノ所得稅等級金額ヲ定メ之ヲ納稅者ニ達スヘシ

第十八條　郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ府縣知事ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第十九條　納稅者ニ於テ所得稅ノ等級金額ヲ不當トスルトキハ其達ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ所得金高明細書及ヒ其憑證トナルヘキモノヲ添ヘ府縣知事ニ申出ルコトヲ得但此場合ニ於ケルモ其稅金ハ達ヲ受ケタル金額ニ從テ之ヲ納ムヘシ

第二十條　府縣知事ハ第十八條第十九條ノ場合ニ於テハ府縣常置委員會ニ付シテ調査セシメ其決議ニ據テ之ヲ處分スヘシ但其處分納稅後ニ涉ルトキハ稅額ノ不足アルモノハ之ヲ追徵シ過剩アルモノハ之ヲ還附スヘシ

第二十一條　調査委員會又ハ常置委員會ハ此稅法ニ關シ調査上必要ト認ムルトキハ納稅者ニ尋問スルコトヲ得

第二十二條　調査委員其他所得稅ノ調査ニ關スル者ハ納稅者ノ資產及所得ニ係ル事件ヲ他ニ漏洩スヘカラス

第二十三條　納稅者其納期前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シタルトキハ郡區長ニ申出ルコトヲ得郡區長ハ事實ヲ審査シテ其稅額ヲ減シ所得金高一箇年三百圓ヲ下ルモノハ之ヲ免稅スヘシ但既納ノ稅金ハ之ヲ還附セス

第二十四條　所得金高ヲ隱蔽シテ逋稅シタル者ハ其逋稅金高三倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其稅金ヲ追徵シ其罪ヲ問ハス

第二十五條　第二十二條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　第六條ノ屆出ヲ爲サヽル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條　此稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條　此稅法施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十九條　此稅法ハ明治二十年七月一日ヨリ施行ス

但北海道沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ニ於テハ官府ヨリ受クル俸給手當金年金及恩給金ノ外ハ當分ノ間之ヲ施行セス

附則

本法第六條ノ屆書ハ本年ニ限リ七月三十一日マテニ差出スヘシ

所得稅法制定ノ結果五月五日省令第八號ヲ以テ所得稅法施行細則ヲ制定シ以テ該稅法施行ニ關スル件ヲ定メタリ其細則ノ全文ハ左ノ如シ

所得稅法施行細則

第一條　戶主ニ所得ナクシテ同居ノ家族ノミニ所得アル場合ニ於テモ一家內ニ屬スルモノハ總テ合算ノ上其戶主ノ名ヲ以テ屆出テ納稅スヘキモノトス

第二條　稅法第二條第三項ニ依リ所得ヲ算出スルハ其年所得ヲ生スヘキ現在ノ資產又ハ現在ノ業務ニ應シ前三ヶ年平均若クハ月額平均ノ步合ニ依リ又ハ他ノ比準ニ依ルヘキモノトス

第三條　物品ニテ收入スル所得ハ其相當價格ヲ以テ代金ヲ算出スヘシ

第四條　稅法第六條ノ屆書ハ第一號書式ニ依ルヘシ

第五條　左ニ揭クル者ハ一定ノ地ニ其納稅管理人ヲ定メ戶長ヲ經テ郡區長ニ屆出此稅法施行ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

一　此稅法ヲ施行セサル地ニ居住シ本法施行ノ地ニ於テ生スル所得金一箇年三百圓以上ヲ收入スル者

一　內外國ヲ旅行シ又ハ外國若クハ此稅法ヲ施行セサル地ニ寄留スル納稅者

第六條　一人ニシテ數箇所ニ於テ所得ヲ收入スル者ハ其居住地ノ郡區長ニ屆出ヲ爲スト同時ニ別紙第二號書式ニ依リ其所得ヲ收入スル各地ノ郡區長ニ屆出ヘシ

第七條　郡區長第六條ノ屆出ヲ受クルトキハ之ヲ其納稅地ノ郡區長ニ送付スヘシ但其屆出高ニ對シ意見アルトキハ別ニ其意見ヲ附スヘシ

第八條　納稅者其他ノ郡區役所所轄內ニ轉居セントスルトキ及轉居シタルトキハ各其地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ屆出ヘシ

第九條　郡區長第八條ノ他ニ轉居セントスル者ノ屆出ヲ受ケタルトキハ直ニ轉居者ノ所得稅ニ係ル一切ノ事項ヲ其轉居先ノ郡區長ニ通報スヘシ

第十條　郡區長ハ其管內ニ於テ納稅者ト認ムルモノヽ所得ニ關シ調査上必要ナル場合ニ於テハ各地方ノ會社若クハ一個人ニ對シ其事項ノ問合ヲナスコトヲ得

第十一條　郡區長ハ調査委員選擧ノ爲メ稅法第六條ノ屆出ニ依リ毎年五月納稅者ノ住所姓名ヲ其管內ニ公告スヘシ

第十二條　調査委員會及調査委員選擧ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ム

第十三條　調査委員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ郡區長ニ於テ已ムヲ得スト思料スル事故アルモノニ限ル

第十四條　調査委員會ノ決議書ハ會長及委員二名以上之ニ署名スヘシ

第十五條　所得稅ノ等級金額ハ別紙第三號書式ニ依リ毎年八月十日迄ニ之ヲ達スヘシ

第十六條　區長ニ於テ直ニ戶長ノ事務ヲ行フ區內ニ在テハ府縣知事ノ見込ヲ以テ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ一區內ヲ數部ニ劃シ每部ニ五名以下ノ臨時取調掛ヲ置キ區長ノ指揮ニ從ヒ所得稅調査ニ關スル下調ヲ爲サシムルコトヲ得

第十七條　稅法第二十九條但書ノ所得ニ關スル等級金額ハ北海道廳長官東京府知事沖繩縣知事之ヲ査定ス可シ

第十八條　査定委員招集ニ應セサルカ又ハ會員過半數出席セス若クハ其他ノ事故ニ依リ第十五條ノ等級金額達期限マテニ調査ヲ了セサルトキハ郡區長ニ於テ等級金額ノ意見ヲ付シ府縣知事ニ差出シ府縣知事ハ之ヲ大藏大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第十九條　第五條ニ違ヒ又ハ第六條第八條ノ屆出ヲ怠リタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

本年ニ限リ第十一條ノ公告ハ九月第十五條ノ達ハ十一月ニ之ヲ爲スヘシ

而シテ右附則ハ同年九月十五日大藏省令第十三號ヲ以テ改正ヲ加ヘ第十一條ノ公告ハ十月末日迄ニ第十五條ノ達ハ十二月末日迄ニ之ヲ爲スヘキモノトセリ

斯クテ所得稅法ハ同年七月一日以降實施セラレタリシカ納稅者其屆出タル書面中ニ誤謬ノ點ヲ發見シ其訂正方ヲ申出タル場合ニ於ケル處分ノ規定不明ナリシヲ以テ翌二十一年七月九日大藏省訓令第三十五號ハ之ニ關シテ左ノ如ク取扱方ヲ定メタリ

所得稅納稅者屆出タル書面ニ誤謬ノ廉アルヲ以テ訂正方申出タルトキハ郡區長之ヲ審査シ其事項明確ト認ル者ニ限リ左ノ區別ニ從テ之ヲ取扱フヘシ

第一項　調査委員會開會以前ニ申出ル者ハ郡區長ニ於テ之ヲ訂正セシムヘシ

第二項　屆出ノ重複ニ涉レル者及課稅外ノ所得ヲ算入シタルモノハ郡區長ニ於テ之ヲ訂正スルコトヲ得

第三項　第二項ノ場合ヲ除クノ外其申出ノ調査委員會決議後ニ係ル者ハ所得稅法第十八條及第二十條ニ據リ處分スヘシ

尋テ又甲郡區ニ於テ所得稅調査委員會閉會後ニ際シ其未タ調査會ヲ開カサル他府縣又ハ他郡區

ヨリ轉住シ來レル者ノ所得屆又ハ屆漏ノ者ヨリ追屆ニ係ル分ノ處分方ニ關シテハ同年八月六藏省訓示ヲ以テ郡區長ニ於テ直ニ其屆出額ニ據リ稅法第十七條ニ準シテ該稅額ヲ達ス可キモノトセリ翌二十二年四月ニ至リテハ市制町村制ノ實施アリ從來區ト稱シタルモノハ改メテ市ト稱セラレ戶長ハ町村長トナル等爲メニ稅法省令達告示等ノ明文ニ牴觸ヲ來セルモノ少ナシトセス又市ニ關シテハ特別ノ規定ヲ定ムルノ必要アリ仍テ同月二十二日法律第十四號ヲ以テ市町村制施行地ノ所得稅ニ關スル件ヲ定メタリ即左ノ如シ

法律第十四號（明治二十二年四月二十二日）

市制町村制施行ノ地ニ在テハ所得稅第六條屆書ハ町村ニ於テハ町村長ヲ經テ郡長ニ市ニ於テハ市長ヲ經テ府縣知事ニ之ヲ差出シ第七條第八條ノ調査委員ハ郡役所管轄內及市ニ東京市京都市大阪市ハ區ニ置キ其區域內ニ於テ之ヲ選擧シ第九條ノ調査委員ノ選擧人被選擧人ノ現住ハ調査委員會設置區域內トシ第十條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ市ニ東京市京都市大阪市ハ區ニ郡長ハ町村ニ若干名ノ選擧人ヲ定メ第十七條ノ區長ノ職務ハ府縣知事之ヲ行ヒ調査委員ノ決議ニ關シ意見アルトキハ第二十條ニ依リ處分スヘシ又第十三條第十四條第十五條第二十三條ノ區長ノ職務ハ府縣知事之ヲ行フヘシ但第十五條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ部下ノ官吏ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

右勅令ノ發布ニ伴ヒ同年五月大藏省令第七號ヲ以テ市町村制施行地ニ於ケル所得稅其他諸稅ニ關スル取扱方ヲ左ノ如ク定メタリ

大藏省令第七號（明治二十二年五月七日）

市制施行ノ地ニ於テハ所得稅法施行ニ關シ府縣知事大藏大臣ノ認可ヲ受ケ若干名ノ臨時取調掛ヲ置キ所得稅調査ニ關スル下調ヲ爲サシムルコトヲ得

市制施行ノ地ニ於テハ諸稅ニ關スル當省令達告示中郡區長又ハ郡區役所トアルハ府縣知事又ハ府縣廳郡區及郡區役所所轄トアルハ市東京市京都市大阪市ハ區戶長又ハ戶長役場トアルハ市長又ハ市役所ト心得ヘシ

町村制施行ノ地ニ於テハ諸稅ニ關スル當省令達告示中戶長又ハ戶長役場トアルハ町村長又ハ町村役場ト心得ヘシ

明治廿四年ニ及ヒ府縣制ノ施行着々進捗シ府縣常置委員會ヲ廢シテ府縣參事會ヲ組織スルモノ少ナカラス仍テ同年九月勅令第百九十六號ヲ以テ所得稅法第二十條及第二十一條所定ノ府縣常置委員會ノ事務ハ府縣制ヲ實施シタル府縣ニ於テハ府縣參事會之ヲ行フヘキモノトセリ

明治二十年四月二十二日大藏省訓令第十八號ヲ以テ明治二十一年訓令第三十五號所得稅納稅者ヨリ屆出書面ノ誤謬訂正等申出タルトキノ取扱方ニ改正ヲ加ヘ同法第二項中「ハ調査委員會決議後ト雖トモ」トアルヲ「及課稅外ノ所得ヲ算入シタルモノハ」ト改メ不當申立期限ト誤謬訂正期限トノ區別ヲ明ナラシメタリ

第二款　所得稅ノ第二期

明治二十年始メテ所得稅法ヲ制定セラレテヨリ既ニ十有餘年世運ノ推移頗ル大ニシテ從來ノ制度ニ對シ根本的改革ヲ加フルノ必要ヲ生セリ即チ明治二十七八年日清戰役ノ結果戰後經營ニ伴

フ歳入補塡ノ爲メ巨額ノ財源ヲ得ルノ必要アリ又改正條約實施ノ結果稅法上海外ノ關係ヲ規定スルノ必要アリ而シテ民間起業ノ增進ト共ニ商事會社漸ク物興セルヲ以テ法人所得ニ課稅ノ必要ヲ生シ其他稅率ノ改正、課稅方法ノ變更ヲ爲スノ要アルヲ以テ明治三十一年十一月第十三期帝國議會ノ開會セラルヽヤ政府ハ所得稅法改正法律案ヲ議會ニ提出シ其協贊ヲ求メタリ而シテ改正所得稅法ニ依リ增收スヘキ金額ハ約百五十萬圓ノ豫定ナリキ而シテ兩院ハ重要ナル改正ヲ加フル事ナクシテ之ヲ可決シ明治三十二年二月十日法律第十七號ヲ以テ收正所得稅法ヲ公布シタリ改正所得稅法ノ要點ヲ擧レハ納稅義務者ノ範圍ヲ明定シ帝國內所得稅法施行地ニ住所ヲ有スル者及一箇年以上帝國內ニ居所ヲ有スル者ハ國籍ノ如何ニ拘ラス納稅ノ義務ヲ負ハシメ又同法施行地ニ資產、營業又ハ職業ヲ有スル者ハ其所得ニ付テノミ納稅ノ議務ヲ負フモノトセリ而シテ從來個人ニノミ課稅シタルヲ改メ第一種法人ノ所得第二種公債社債ノ利子第三種個人ノ所得ノ三種ト爲シ其稅率ハ第一種千分ノ二十五第二種千分ノ二十トシ第三種ハ累進法ニ依リ千分ノ十以上千分ノ五十五ノ間ニ於テ十二種ニ區別セリ又所得金額ヲ調査スル爲メ各稅務署所轄內ニ所得調査委員會ヲ置キ調査委員ハ複選法ニ依リ之ヲ選ヒ又納稅義務者ヨリ政府ノ通知シタル所得金額ニ異議ヲ申出タルトキハ收稅官吏ト調査委員トヲ以テ組織シタル審査委員會ニ於テ審査セシメ以テ從來ノ府縣常置委員會ノ審査ニ代ヘタリ其改正所得稅法ノ全文左ノ如シ

法律第十七號（明治三十二年二月十日）

所得稅法

第一條　帝國內此法律施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一箇年以上帝國內ニ居所ヲ有スルモノハ此法律ニ依リ所得稅ヲ納ムルノ義務アルモノトス

第二條　前條ニ該當セサル者此法律施行地ニ資產營業又ハ職業ヲ有スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第三條　所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

第一種　法人ノ所得　千分ノ二十五

第二種　此法律施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子　千分ノ二十

第三種　前各種ニ屬セサル所得

十萬圓以上　千分ノ五十五
五萬圓以上　千分ノ五十
三萬圓以上　千分ノ四十五
二萬圓以上　千分ノ四十
一萬五千圓以上　千分ノ三十五
一萬圓以上　千分ノ三十
五千圓以上　千分ノ二十五
三千圓以上　千分ノ二十
二千圓以上　千分ノ十七
千圓以上　千分ノ十五
五百圓以上　千分ノ十二

三百圓以上　千分ノ十

戶主及其同居家族ノ所得ハ第三種ニ限リ之ヲ合算シ其總額ニ依リ本條ノ稅率ヲ定ム戶主ト別居スル家族二人以上同居スルトキ亦同シ

第四條　所得ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ算定ス

一　第一種ノ所得ハ各事業年度總益金ヨリ同年度總損金、前年度繰越金及保險責任準備金ヲ控除シタルモノニ依ル但第二條ニ該當スル法人ノ所得ハ此法律施行地ニ於ケル資產又ハ營業ヨリ生スル各事業年度ノ益金ヨリ同年度損金ヲ控除シタルモノニ依ル

二　第二種ノ所得ハ其支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

三　第三種ノ所得ハ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル豫算年額ニ依ル但シ此法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケサル公債社債ノ利子營業ニ非サル貸金預金ノ利子此法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル法人ヨリ受ケタル配當金、俸給、給料、手當金、割賦賞與金、歲費、年金、恩給金ハ其收入額ノ豫算年額ニ依リ田畑ヨリノ所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算出スヘシ

前項第一號ノ場合ニ於テ益金中此法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケタル配當金及此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債社債ノ利子アルトキハ之ヲ控除ス

第五條　左ニ掲クル所得ニハ所得稅ヲ課セス

一　軍人從軍中ニ係ル俸給

二　扶助料及傷痍疾病者ノ恩給

三　旅費學資金及法定扶養料

四　營利ヲ目的トセサル法人ノ所得

五　營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

六　外國又ハ此ノ法律ヲ施行セサル地ニ於ケル資產營業又ハ職業ニ依ル所得

但シ此法律施行地ニ本店ヲ有スル法人ノ所得ヲ除ク

七　此法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受クル配當金

第六條　第三種ノ所得ハ三百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ課セス但シ第三條第二項ノ場合ニ於テ其合算額三百圓ニ滿ツルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條　納稅義務アル法人ハ各事業年度毎ニ損益計算書ヲ政府ニ提出スヘシ但シ第二條ニ該當スル法人ハ各事業年度毎ニ此法律施行地ニ於ケル資產又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シ其計算書ヲ政府ニ提出スヘシ

第八條　第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ毎年四月中ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ

第九條　第一種ノ所得金額ハ損益計算ヲ調査シ政府之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府之ヲ決定ス

第十條　稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其調査書ヲ製シテ之ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

第十一條　各稅務署所轄內ニ所得調査委員會ヲ置ク

調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　調査委員ハ調査委員選擧人之ヲ選擧ス

第十三條　調査委員ノ選擧區域ハ稅務署ノ管轄區域ニ依ル

調査委員選擧人選擧區域ハ市町村ノ區域ニ依リ東京市京都市大阪市札幌區函館區ニ在テハ區ノ區域ニ依ル

第十四條　選擧區域內ニ住居シ第八條ノ申告ヲ爲シタル者ハ調査委員選擧人ヲ選擧シ又ハ調査委員若ハ調査委員選擧人ニ選擧セラルヽコトヲ得但シ左ニ記載スル者ハ此限ニアラス

一　無能力者

二　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ルマテノ者

三　國稅滯納處分ヲ受ケタル後一箇年ヲ經サル者

四　剝奪公權者及停止公權者

五　禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其裁判確定スルニ至ルマテノ者

六　第四十六條ニ依リ處罰セラレタル後五箇年ヲ經サル者

第十五條　調査委員選擧人ノ定數ハ其選擧區域內ニ於ケル第八條ノ申告ヲ爲シタル者十人ニ付一人トス但申告者二百人以上ナルトキハ二十人ニ止メ申告者十人未滿ナルトキハ一人トス

第十六條　調査委員選擧人ノ選擧事務ハ市區町村長又ハ戶長之ヲ執行シ調査委員ノ選擧事務ハ稅務署長之ヲ執行ス

第十七條　稅務署長ハ調査委員選擧人ノ選擧期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戶長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選擧期日前其旨ヲ公示スヘシ

第十八條　選擧ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

第十九條　選擧ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　調査委員選擧人ノ選擧終了シタルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十一條　稅務署長ハ選擧期日ヲ定メ少ナクトモ七日前ニ公示シ調査委員及之ト同數ノ補缺員ノ選擧ヲ行ハシムヘシ

前項ノ選擧ニ關シテハ第十八條第十九條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條　調査委員及補闕委員ノ選擧終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十三條　調査委員及補闕委員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第二十四條　調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ其半數ヲ改選ス但第一回ノ改選期ニ於テハ抽籤ヲ以テ其退任者ヲ定ム

補缺員ハ二年毎ニ之ヲ改選ス

調査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ投票ノ數最モ多キ補闕委員ヨリ順次之ヲ補充ス但シ投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

補闕員ヨリ調査委員トナリタル者ノ任期ハ前任者ノ殘期間トス

第二十五條　調査委員會ハ遲クトモ毎年八月一日マテニ開會スルヲ要ス

第二十六條　調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第二十七條　調査委員會ハ毎年開會ノ始メニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選擧スヘシ

第二十八條　調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス　議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十九條　調査委員ハ自己ノ所得金ニ關スル議事ニ與カルコトヲ得ス

第三十條　八月三十一日マテニ調査委員會成立セサルカ又ハ調査結了セサルトキハ所得金額調査未濟ノ者ニ付テハ政府其所得金額ヲ決定ス

第三十一條　政府ハ調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ再調査ニ付ス仍其決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査ニ付シタル日ヨリ十五日以內ニ調査結了セサルトキハ政府所得金額ヲ決定ス

第三十二條　稅務署長又ハ其代理官ハ調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十三條　調査委員ニハ日當及旅費ヲ支給ス

第三十四條　稅務署長又ハ其代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ對シ其所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第三十五條　政府ハ第一種及第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十六條　納稅義務者政府ノ通知シタル所得金高ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル

日ヨリ二十日以內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ申出テ審査ヲ求ムルコトヲ得

第三十七條　前條ノ請求アリタルトキハ審査委員會ヲ開キ其決議ニ依リ政府之ヲ決定ス

審査委員會ハ收稅官吏三人調査委員四人ヲ以テ之ヲ組織ス

審査委員會ノ所屬區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

審査委員會ハ前條ノ申立ヲ爲シタル者ニ對シ其所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第三十八條　納稅義務者ハ第三十六條ノ審査ヲ求メタル場合ト雖トモ通知ヲ受ケタル所得金額ニ依テ稅金ヲ納ム可シ

第三十九條　所得金額ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第四十條　第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者所得金額四分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ申出所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得但翌年一月三十一日ヲ過クルトキハ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得ス

第四十一條　前條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其所得金額ヲ査覈シ決定額ニ對シ四分ノ一以上ノ減損アリタルトキハ所得金額ヲ更訂ス

第四十二條　第一種ノ所得ニ付テハ各事業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス

第二種ノ所得ニ付テハ其金額支拂ノ際支拂者其所得稅ヲ徵收シ其都度之ヲ政府ニ納ムヘシ

第三種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額ヲ二分シ其年九月及翌年三月之ヲ徵收ス但納稅者納稅管理人ヲ定メスシテ帝國外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ其際ニ直ニ其所得稅ヲ徵收スルコトヲ得

第四十三條　第四十條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其確定ニ至ルマテ稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十四條　第三種ノ所得ニ依ル所得稅ハ本人住所ノ地ヲ以テ納稅地トシ住所ナキトキハ居所ノ地ヲ以テ納稅地トス但納稅者ハ申告シテ住所又ハ居所以外ノ地ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ得

此法律施行地ニ住所又ハ居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

申告ナキトキハ政府其納稅地ヲ指定ス

第四十五條　納稅義務者納稅地ニ現住セサルトキハ其所得稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メニ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

第四十六條　所得金額ヲ隱蔽シテ逋稅シタル者ハ其逋稅金高三倍ノ罰金ニ處ス但シ自首スル者ハ其稅金ヲ追徵シ其罪ヲ問ハス

第四十七條　所得ノ調査又ハ審査ニ關與スル者其調査又ハ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩シタルトキハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其官職ヲ失フモノトス

附則

第四十八條　此法律ハ明治三十二年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

第四十九條　明治二十年勅令第五號所得稅法ハ明治三十一年分所得稅ニ限リ廢止ス

第五十條　此法律ハ沖繩縣小笠原島及伊豆七島ニ當分之ヲ施行セス

斯クテ稅法ノ改正ニ伴ヒ其取扱上ノ手續等ヲ畫一ニスルノ必要アルニ仍リ三月三十日勅令第七十八號ヲ以テ所得稅法施行規則ヲ制定シ稅法施行上ノ取扱方ヲ定メタリ右勅令ノ全文左ノ如シ

勅令第七十八號（明治三十二年三月三十日）

所得稅法施行規則

第一條　所得稅法第四條第一項第三號ニ依リ總收入金額ヨリ控除ス可キモノハ種苗蠶種肥料ノ購買費家畜其他ノ飼養料仕入品ノ原價原料品ノ代價場所物件ノ修繕費其借入料場所物件又ハ業務ニ係ル公課雇人ノ給料其他其收入ヲ得ルニ必要ナル經費ニ限ル但シ家事上ノ費用及之ト關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第二條　第三種ノ所得金額ハ申告調査又ハ決定當時ノ現況ニ依リ所得稅法第五條ノ所得ヲ除キ之ヲ算出スヘシ

第三條　納稅義務アル法人ハ每事業年度通常總會後七日以內ニ損益計算書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第四條　第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ所得ノ種類及金額ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

所得稅法第三條第二項ニ依リ同居者ノ所得ヲ合算スヘキ場合ニ於テハ其所得ヲ區分シ同時ニ之ヲ申告スヘシ

第五條　所得調査委員ノ定數ハ五人トス但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ大藏大臣ハ之ヲ增減スルコトヲ得

第六條　稅務署長ハ調査委員選擧人ノ選擧前選擧資格ヲ有スル者ノ住所氏名ヲ其市區町村長

又ハ戶長ニ通知ス可シ

第七條　調査委員選擧人ノ選擧ヲ執行スルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ其選擧資格ヲ有スル者二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第八條　調査委員ノ選擧ヲ執行スルトキハ稅務署長ハ調査委員選擧人二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第九條　調査委員選擧人及調査委員ノ選擧ニ於テ投票ニ記載シタル人員其選擧スヘキ定數ニ超エタルトキハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次棄却スヘシ

第十條　調査委員又ハ補缺員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ稅務管理局長ニ於テ已ムヲ得スト認ムル者ニ限ル

第十一條　調査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル調査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第十二條　調査委員會ノ決議ハ會長ヨリ之ヲ稅務署長ニ通知スヘシ

第十三條　稅務管理局長ハ所得稅法第九條第三十條第三十一條ニ依リ所得金額ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十四條　所得稅法第三十六條ニ依リ審査ヲ求メムトスル者ハ事由ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ稅務管理局長ニ申立ツヘシ

第十五條　各稅務管理局所轄內ニ審査委員會ヲ開ク

第十六條　收稅官吏ヲ以テスヘキ審査委員ハ大藏大臣之ヲ命シ調査委員ヲ以テスヘキ審査委員ハ稅務管理局所轄內ノ調査委員每年之ヲ選擧ス

第十七條　審査委員ノ選擧事務ハ稅務管理局長之ヲ執行ス

第十八條　審査委員ノ選擧ヲ執行セムトスルトキハ稅務管理局長選擧期日ヲ定メ所轄內調査委員ノ氏名ト共ニ之ヲ調査委員會ニ通知スヘシ

第十九條　選擧ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ稅務管理局ニ差出ヘシ

第二十條　稅務管理局長ハ所轄內調査委員二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第二十一條　選擧ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條　審査委員ノ選擧終了シタルトキハ稅務管理局長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十三條　審査委員會ハ稅務管理局長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第二十四條　審査委員會ハ每年開會ノ始メニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選擧スヘシ

第二十五條　審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル處ニ依ル

第二十六條　審査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル審査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第二十七條　審査委員ハ自己ノ所得金ニ關スル議事ニ與カルコトヲ得ス

第二十八條　稅務管理局長又ハ其ノ代理官ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十九條　審査委員會ノ決議ハ會長ヨリ之ヲ稅務管理局長ニ通知ス可シ

第三十條　稅務管理局長ハ所得稅法第三十七條ニ依リ所得金額ヲ決定シテ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十一條　納稅義務アル法人損益計算書ヲ提出セサルトキハ政府其損益ヲ調査シ其所得金額ヲ定ム

第三十二條　所得稅ハ所得稅法第九條第三十條第三十一條ニ依ル決定金額ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ決定金額ハ所得稅法第三十七條第三十九條第四十一條ノ結果ニ依ルノ外之ヲ變更セス

第三十三條　所得稅法第三條第二項ノ場合ニ於テ同居者所得金額決定後別居スルモ所得金額決定當時ノ稅率ニ依リ其ノ年ノ所得稅ヲ納ムヘシ

第三十四條　公ニ募集シタル公債社債ノ利子ヲ支拂フ者ハ支拂ノ際所得稅金額ヲ控除スヘシ

第三十五條　營利ヲ目的トセサル法人ニシテ無記名ノ公債證券又ハ社債券ヲ所得シルタトキハ其發行者又ハ讓渡人ノ證明ヲ得テ之ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知シ其所有ヲ證明スヘシ但シ從來無記名ノ公債證券又ハ社債券ヲ所有スル者ハ本令施行ノ際利子支拂ノ取扱所ニ通知シ便宜ノ方法ニ依リ其所有ヲ證明スヘシ

第三十六條　府縣郡市區町村其他公共ノ團體若クハ組合又ハ會社ニ於テ公債社債ノ利子ニ付所得稅ヲ徵收シタルトキハ直チニ拂込書及ヒ計算書ヲ添ヘ之ヲ其所在地ノ金庫ニ拂込ムヘシ

國債利子支拂ノ取扱銀行ニ於テ國債ノ利子ニ付所得稅ヲ徵收シタルトキハ大藏大臣ノ命令ニ依リ之ヲ本店所在地ノ金庫ニ拂込ムヘシ

第三十七條　所得稅法第四十條ノ申出アリタルトキハ稅務管理局長ハ其年所得ノ實況ヲ調査

シ所得金額四分ノ一以上ノ減損アルトキハ所得金額ヲ更訂シテ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十八條　前期納稅後所得金額ノ變更ニ因リ所得稅金額ヲ減シタルトキ既納ノ稅金全額以上ナルトキハ其超過額ヲ還附シ全額以下ナルトキハ後納期ニ於テ其不足額ヲ徵收スヘシ

第三十九條　第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者納稅地ノ稅務署管轄以外ニ於テ所得ヲ取得スルトキハ納稅地ヲ其地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第四十條　納稅義務者住所又ハ居所以外ノ地ニ於テ所得稅ヲ納メムトスルトキ又ハ所得稅法施行地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅地ヲ定メ其地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第四十一條　納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其旨新納稅地ノ所轄稅務署ニ申告ス可シ

第四十二條　納稅義務者帝國外ニ住所若ハ居所ヲ移ストキハ其旨稅務署ニ申告スヘシ

第四十三條　納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキハ其氏名及住所又ハ居所ヲ納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

右所得稅ニ關スル諸法規ノ改正ニ伴ヒ稅務機關ノ事務取扱方ヲ一定ナラシメン爲メ同年四月各稅務管理局ニ向テ左ノ訓令ヲ與ヘタリ

大藏省內訓祕第三二六號（明治三十二年四月一日）

稅務管理局

所得稅法施行上取扱方左ノ通心得ヘシ

第一條　第一種ノ所得ヲ算出スルトキ純益金ヨリ前年度繰越金ヲ控除スルハ前年所得稅ヲ課セラレタルモノニ再ヒ所得稅ヲ課セサルノ旨趣ニ出テタルモノナルヲ以テ前年度ニ於ケル

益金中ニ包含セラレサルモノハ之ヲ控除スルニ及ハサルモノトス

第二條　第三種ノ所得稅ヲ算出スルニハ申告調査又ハ決定ヲ爲ス時ノ現況ニ依テ各種ノ所得ヲ推定シ所得稅法第五條ニ該當スル所得ヲ除キ之ヲ定ムヘキモノナルヲ以テ所得金額決定以後ニ於テ所得中第五條ニ該當スルモノヲ生スルニ至ルモ所得金額ノ變更ヲ爲スヘキモノニアラス

第三條　第三種ノ所得ヲ計算スル爲メ總收入金額ヨリ控除スヘキ經費ハ其收入ヲ得ル必要ナルモノニ限ル旨趣ナルヲ以テ家事用ニ兼用スル場所物件ノ修繕費借入料公課家事用ニ使用スル雇人ノ給料又ハ所得ノ起因ニアラサル負債ノ利子ノ如キハ之ヲ控除ス可カラサルモノトス

第四條　田畑ヨリノ所得ハ前三ケ年間所得平均高ヲ以テ田畑ノ增減ニ應シ之ヲ算出スヘキモノナリト雖トモ其前三ケ年間ニ田畑ヨリノ所得ナキモノハ總テ豫算當時ノ現況ニ依リテ算出スヘキモノトス

第五條　所得金ノ調査ヲ爲スニ當テハ各人ノ生活ノ狀況等ニ依リ所得ノ全體ニ著眼シ大體ニ於テ其所得ノ實ヲ得ムコトヲ期ス可ク徒ラニ些細ノ點ニ關スル計算ニ重キヲ置キ全體ニ於テ所得ノ實額ヲ得サルカ如キ調査ヲ爲サヽルヲ要ス

第六條　第三種ノ所得ニ關スル申告書ハ所得決定ノ參考ニ過キサルヲ以テ收稅官吏ハ申告ノ如何ニ拘ハラス常ニ各人ノ所得ニ注意シ申告ニ脫漏又ハ誤記アリト認ムルトキハ別ニ申告書ヲ訂正セシムルニ及ハス其見込ヲ以テ所得金額ヲ調査シテ調査委員會ニ送附スヘキモノ

トス

第七條　土地ノ廣狹納稅者ノ多少其他特別ノ事由アリテ調査委員ノ定數ヲ減スルヲ必要トスルトキハ事由ヲ具シテ稟申スルモノトス

第八條　所得金額決定シタル後ハ所得ヲ重複ニ計算シ又ハ所得稅法第五條ニ該當スル所得ヲ計算シタル場合ト雖モ所得稅法第三十七條第三十九條第四十一條ノ結果ニ依ルノ外ハ之ヲ變更スヘカラサルモノトス

第九條　所得稅法第四十條ノ申告アリタルトキハ其年所得ノ全般ニ涉リテ實況ヲ調査シ之ヲ決定所得金額ニ對比シ四分ノ一以上ノ減額アルコトヲ確認シタル上ハ所得金額更正ノ手續ヲ爲スモノトス

第十條　各稅務署長ハ其管轄以外ニ於テ納稅地ヲ有スルモノニシテ其管轄內ニ於テ第三種ノ所得ヲ取得スルトキハ其所得ニ關スル事項ヲ納稅地ノ稅務署長ニ通報スルモノトス

第十一條　納稅義務者ノ住所又ハ居所以外ノ地ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ申告シタルトキハ納稅地ノ稅務署長ハ納稅義務者ノ住所又ハ居所ノ稅務署長ニ其旨ヲ通知スルモノトス

第十二條　納稅地變更ノ申告アリタルトキハ稅務署長ハ舊納稅地ノ稅務署長ニ通牒シテ所得事項ノ通知ヲ求ムルモノトス舊納稅地納稅義務者ノ住所又ハ居所ノ稅務署ニモ納稅地變更ノ通知ヲ爲スモノトス

所得稅法施行規則第五條但書ニ依リ所得稅調査員ノ定數ヲ定ムルノ必要アルニ依リ明治三十二年四月大藏省令第十三號ヲ以テ左ノ如ク定メタリ

所得稅法施行規則第五條但書ニ依リ調査委員ノ定數ヲ定ムルコト左ノ如シ

東京稅務管理局

幸橋稅務署所轄內	九人
四谷稅務署所轄內	九人
萬世橋稅務署所轄內	九人
新大橋稅務署所轄內	九人
厩橋稅務署所轄內	九人
千葉稅務署所轄內	六人
銚子稅務署所轄內	六人
前橋稅務署所轄內	七人
高崎稅務署所轄內	六人

京都稅務管理局

上京稅務署所轄內	九人
下京稅務署所轄內	九人
伏見稅務署所轄內	八人
周山稅務署所轄內	四人
峯山稅務署所轄內	六人
大津稅務署所轄內	七人
草津稅務署所轄內	六人
愛知川稅務署所轄內	六人
長濱稅務署所轄內	六人

大阪稅務管理局

船場稅務署所轄內	九人
中ノ島稅務署所轄內	九人
堺稅務署所轄內	七人
奈良稅務署所轄內	七人
松山稅務署所轄內	四人
五條稅務署所轄內	四人
和歌山稅務署所轄內	七人

横濱稅務管理局

横濱稅務署所轄內	九人
神奈川稅務署所轄內	六人
藤澤稅務署所轄內	六人
松田稅務署所轄內	四人
厚木稅務署所轄內	四人

中野稅務署所轄內	四人
靜岡稅務署所轄內	七人

神戸稅務管理局

神戸稅務署所轄內	七人
三木稅務署所轄內	四人
加古川稅務署所轄內	六人
姫路稅務署所轄內	七人
佐用稅務署所轄內	四人
出石稅務署所轄內	四人

長崎稅務管理局

長崎稅務署所轄內	七人
武生水稅務署所轄內	四人
嚴原稅務署所轄內	四人
佐賀稅務署所轄內	七人

新潟稅務管理局

新發田稅務署所轄內	六人
津川稅務署所轄內	四人
高田稅務署所轄內	六人
宇都宮稅務署所轄內	七人

宇都宮稅務管理局

宇都宮稅務署所轄內	七人
矢板稅務署所轄內	四人
水戸稅務署所轄內	七人
笠間稅務署所轄內	四人
松原稅務署所轄內	四人
鉾田稅務署所轄內	四人

名古屋稅務管理局

名古屋稅務署所轄內	八人
小折稅務署所轄內	六人
津島稅務署所轄內	六人
足助稅務署所轄內	四人
田口稅務署所轄內	四人
新城稅務署所轄內	四人
富岡稅務署所轄內	四人
四日市稅務署所轄內	七人
津稅務署所轄內	七人
相可稅務署所轄內	四人

尾鷲稅務署所轄內 四人
岐阜稅務署所轄內 七人
高須稅務署所轄內 四人
垂井稅務署所轄內 四人
御嵩稅務署所轄內 四人
高山稅務署所轄內 六人

松本稅務管理局

上田稅務署所轄內 六人
福島稅務署所轄內 四人
長野稅務署所轄內 七人
飯山稅務署所轄內 四人
甲府稅務署所轄內 七人
猿橋稅務署所轄內 四人

仙臺稅務管理局

仙臺稅務署所轄內 七人
吉岡稅務署所轄內 六人
古川稅務署所轄內 六人
石卷稅務署所轄內 六人
大河原稅務署所轄內 六人
角田稅務署所轄內 六人
盛岡稅務署所轄內 七人
盛稅務署所轄內 四人
久慈稅務署所轄內 四人
福岡稅務署所轄內 四人
山形稅務署所轄內 七人
新庄稅務署所轄內 四人
米澤稅務署所轄內 六人

郡山稅務管理局

福島稅務署所轄內 六人
桑折稅務署所轄內 六人
若松稅務署所轄內 六人

青森稅務管理局

青森稅務署所轄內 七人
弘前稅務署所轄內 七人
田名部稅務署所轄內 四人

秋田稅務管理局

秋田稅務署所轄內 七人

金澤稅務管理局

金澤稅務署所轄內 六人
飯田稅務署所轄內 四人
福井稅務署所轄內 七人
三方稅務署所轄內 四人
高濱稅務署所轄內 四人
富山稅務署所轄內 七人
高岡稅務署所轄內 七人

松江稅務管理局

松江稅務署所轄內 七人
大東稅務署所轄內 六人
掛合稅務署所轄內 四人
大森稅務署所轄內 六人
鳥取稅務署所轄內 七人
二部稅務署所轄內 四人

廣島稅務管理局

廣島稅務署所轄內 七人
尾道稅務署所轄內 七人
岡山稅務署所轄內 七人
勝間田稅務署所轄內 四人
英田稅務署所轄內 四人
弓削稅務署所轄內 四人
屋代稅務署所轄內 四人
山口稅務署所轄內 六人
大田稅務署所轄內 四人
深川稅務署所轄內 四人
長府稅務署所轄內 七人

丸龜稅務管理局

高松稅務署所轄內 七人
丸龜稅務署所轄內 七人
德島稅務署所轄內 七人
高知稅務署所轄內 七人

松山稅務管理局

松山稅務署所轄內 七人
西條稅務署所轄內 六人

久萬稅務署所轄內	四人	鹿兒島稅務管理局	
宇和島稅務署所轄內	六人	鹿兒島稅務署所轄內	七人
熊本稅務管理局		知覽稅務署所轄內	六人
熊本稅務署所轄內	九人	高岡稅務署所轄內	四人
御船稅務署所轄內	六人	高千穗稅務署所轄內	四人
福岡稅務署所轄內	九人	函館稅務管理局	
久留米稅務署所轄內	六人	函館稅務署所轄內	七人
小倉稅務署所轄內	六人	根室稅務管理局	
森稅務署所轄內	四人	紗那稅務署所轄內	四人

所得稅法施行規則ノ發布ニ伴ヒ同規則第三十六條ニ關スル納稅方ニ付稅金徵收者ト金庫トノ關係ヲ明確ニシ且ツ便利ヲ期センカ爲メニ明治三十二年四月大藏省令第十七號ヲ以テ左ノ如ク定メタリ

所得稅法施行規則第三十六條第一項ニ依ル拂込書ハ第一號書式ニ計算書ハ第四號書式ニ準シテ調製スヘシ金庫ニ於テ所得稅法施行規則第三十六條ニ依リ所得稅金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收證ヲ拂込書ニ交付シ第三號書式ノ通知書ヲ所屬稅務署ヲ經テ歲入徵收官ニ送付スヘシ其計算書アルモノハ通知書ニ添付シテ送付スヘシ

（書式略）

又國債利子ヨリ徵收スル所得稅金納付取扱方ニ關シ明治三十二年四月七日大藏省達第七百十六號ヲ以テ日本銀行、株式會社第一銀行、合名會社三井銀行ヘ對シ左ノ達ヲナシタリ

國債利子ヨリ徵收シタル所得稅金納付方左ノ通取扱フヘシ

一　本支店又ハ代理店ニ於テ徵收シタル所得稅金ハ公債利子ノ支拂ヲナシタル翌月末日マテニ之ヲ取纏メ所得稅徵收明細書ヲ添ヘ其金額ヲ本大臣ニ報告スヘシ

二　前項所得稅金ニ對シテハ納入令達書ヲ發スヘキニ由リ拂込書ヲ添ヘ之ヲ中央金庫ニ拂込ムヘシ

三　所得稅ヲ徵收セサル公債利子ニ對スル明細書ハ第一項ノ報告ト共ニ提出スヘシ尤其證明書ハ必要ノ場合ニ提出ヲ命スヘキニ付之ヲ整理シ置クヘシ

尙ホ第二種所得稅ノ過誤納ニ關シテハ之カ下戻ノ規定ナキヲ以テ其制定ヲ要シ而シテ其下戻方ハ下戻請求者ヲシテ利子仕拂者ヲ經由シテ其利子仕拂地ノ所轄稅務管理局長ニ下戻ヲ請求セシムルヲ簡便ナリトシ明治三十三年十二月十七日大藏省令第三十六號ヲ以テ之カ規定ヲナシタリ

大藏省令第三十六號

第二種所得稅ニ付所得稅ノ過誤納アリタルトキハ下戻請求者ハ公債社債ノ利子支拂者ヲ經由シテ其利子支拂地ノ所轄稅務管理局長ニ下戻ヲ請求スルコトヲ要ス

次テ明治三十四年三月大藏省々議ヲ以テ明治三十二年四月祕第三二六號所得稅法施行上取扱方同訓令第二條ニ左ノ但書ヲ追加セリ

但所得稅法第五條ニ該當スルニ至リタル所得ニシテ決定金額ノ四分ノ一以上ニ及フ場合ニ於テ所得稅法第四十一條ニ依リ所得金額更訂ノ請求アリタルトキハ此限リニ在ラス

所得稅法第四條法人ノ所得ヲ算定スルニ當リ賞與金交際費機械建物償却金ハ總損金ノ內ニ含蓄スルヤ否ニ就テ各稅務管理局ノ意見又ハ各地審査會ノ議決行政裁判所ノ判決等各其解釋ヲ異ニシ一事兩端ニ出ツルノ例少ナカラス又山林ノ所得ハ一定ノ據ルヘキ標準ナキカ故ニ各地ノ決定區々ニ涉ルノ弊アリ仍テ之ヲ矯正スルノ必要アルニ依リ明治三十四年四月二日法律第十七號ヲ以テ所得稅法中ニ左ノ改正ヲナセリ

法律第十七號（明治三十四年四月二日）

明治三十二年法律第十七號所得稅法中左ノ通改正ス

第二條中「職業ヲ有スルトキ」ヲ「職業ヲ有シ若ハ公債社債ノ利子支拂ヲ受クルトキ」ニ改ム

第四條第一項第三號中「割賦賞與金」ヲ削リ「田地ヨリノ所得」ヲ「山林ノ所得ハ前年ノ所得ニ依ル田畑ノ所得」ニ改ム

第五條第七號「配當金」ノ下ニ「及割賦賞與金」ヲ加フ

第九條ニ左ノ一項ヲ加フ

調査委員會閉會後第三種ノ所得アルモノ新ニ納稅義務アルコトヲ申出タルトキハ政府其所得金額ヲ決定ス

第三十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

第三十一條ノ規定ハ之ヲ審査委員會ノ決議ニ準用ス

第四十條　山林ノ所得ヲ除クノ外第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者所得金額四分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ申出テ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過クルトキハ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得ス

所得金額決定後贈與ヲ爲シタル爲所得金額ヲ減損シタル場合ニハ前項ヲ適用セス

第四十三條ヲ第四十三條ノ一トシ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四十三條ノ二　第三種ノ所得ニ付二箇以上ノ稅務署管內ニ於テ所得金額ノ決定アリタルトキハ政府ハ納稅者ノ住所地若住所ナキトキハ居所地以外ニ於ケル所得金額ノ決定ヲ取消スヘシ

附則

此ノ法律ハ明治三十四年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

是ヨリ先キ產業組合保護ノ爲メ明治三十年三月法律第三十四號產業組合法第六條ニ於テ產業組合ニハ所得稅ヲ課セサルコトヲ規定セリ

所得稅收入額

年度	金額
明治二十年度	五二七、七二四・四七七円
同　二十一年度	一、〇六六、八九四・六四三
同　二十二年度	一、〇五二、九八一・六〇六
同　二十三年度	一、〇八八、七九二・一三二
同　二十四年度	一、一一〇、五五四・二六三
同　二十五年度	一、一三二、三五九・三一五

同	二十六年度	一、二三八、七六三・〇六〇
同	二十七年度	一、三五三、五一八・〇二八
同	二十八年度	一、四九七、〇九四・八八五
同	二十九年度	一、八一〇、二二〇・六〇九
同	三十年度	二、〇九五、〇九一・六七五
同	三十一年度	二、三五一、四一九・八七八
同	三十二年度	四、八三七、三二〇・二六一
同	三十三年度	六、三六八、〇三九・〇〇八
同	三十四年度	六、八三六、八八九・八六八
同	三十五年度	七、四六〇、六九三・一四〇

第五節 營業稅

願フニ營業稅ノ淵源スル所ハ遠ク中古庸調ノ制ニ在リ後鎌倉時代ヲ經テ德川氏ノ代ニ至リ其種目大ニ增加シテ八百餘種ノ多キニ至レリ稱シテ雜稅ト云フ雜稅ハ商工其他ノ生業ニ課シ其賦課徵收ノ法地ヲ異ニスルニ從テ其制ヲ同フセス明治維新ノ初メ收稅ノ法一ニ舊ニ依リ當時未タ國稅ト地方稅トノ間ニ畫然タル分界アラサリシカ故ニ雜稅中營業稅ノ性質ヲ有スル收入モ亦仝シク國費竝ニ地方費ノ支出ニ充テラレタリ後チ明治八年二月二十日布告ヲ以テ從來ノ雜稅ヲ廢シ其內收稅セサレハ營業ノ取締ヲ爲シ難キモノハ姑ク地方ニ於テ適宜收稅スルコトヽナセリ次テ仝年九月八日布告ヲ以テ從來ノ租稅竝ニ賦金ヲ國稅及府縣稅ニ二分シ前者ハ全國一般ニ賦課シ大藏省ニ收入シテ國費ニ供スヘキモノトナシ後者ハ賦金ト稱シテ收入スルモノ及ヒ八年二月二十日布告ニ依リ地方ニ於テ收稅スルモノニシテ其地方ノ費用ニ供スルモノヲ謂フ但シ其賦課ノ方法及ヒ費途ハ地方官ニ於テ調査シ大藏省ノ許可ヲ得テ施行スルコトヽナセリ此他別ニ民費ノ名ヲ以テ徵收スルモノアリ是等ノ府縣稅及ヒ民費ハ各地其名ヲ異ニスルノミナラス其賦課ノ程度ニ至テモ亦大ニ相均シカラサルモノアリ是ニ於テカ明治十一年七月二十二日布告ヲ以テ地方稅規則ヲ定メ從來府縣稅及ヒ民費ノ名ヲ以テ徵收セル府縣費區費ヲ更ニ改メテ地方稅トシ地方稅ハ(一)地租五分一以內(二)營業竝雜種稅(三)戶數割ノ三種ニ限リ營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ムルコトヽセリ尋テ十二月二十日第三十九號布告ヲ以テ地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限ヲ定メタリ

地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條　營業稅ヲ分テ三類トス其稅額第一類ハ金拾五圓以內トシ第二類ハ金拾圓以內トシ第三類ハ金五圓以內トス其目左ノ如シ但シ國稅アルモノヲ除ク

第一類　諸會社及ヒ諸卸賣商

第二類　諸仲買商

第三類　諸小賣商及ヒ雜商

第二條　雜種稅ハ其種類ニ依リ各箇ニ稅額ヲ定ム其目左ノ如シ

船　明治七年第二十一號布告舟漁船云々ノ分

車（馬車、人力車、荷積馬車荷積、大七大八車、荷積中小車荷積牛車ノ類）

國稅ノ半額以內

諸市場演劇其他諸興行竝遊覽所 上リ高百分ノ五以內

諸遊技場（玉突、大弓、揚弓、射的、吹矢ノ類）

一箇年金二十圓以內

料理屋（西洋料理店共）待合茶屋、遊船宿、芝居茶屋、人寄席

一箇年金十二圓以內

質屋、兩換屋（爲替店共）廻漕店、

一箇年金十五圓以內

古著古金古道具類（書畫骨董商店共）

旅籠屋、諸飲食店（饅屋麥屋鮓屋蕎麥ノ類）

一箇年金十圓以內

湯屋、理髮床、雇人請宿

一箇年金五圓以內

遊藝師匠、遊藝稼人、相撲

一箇年金十二圓以內

俳優

一箇年金六十圓以內

幇間、藝妓

一箇年金四十二圓以內

水車

一箇年金五圓以內

乘馬（自用渡世共）

一 年一頭金壹圓以內

屠牛

一頭金五十錢以內

第三條 漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其例規ヲ改正シ又ハ新法ヲ創設セントセハ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ヘ稟議ス可シ

第四條 府知事縣令ハ府縣令ノ決議ヲ以テ類目中ニ於テ賦課スルモノヲ取捨スルコトヲ得

第五條 府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ視察シ府縣會ノ決議ヲ以テ制限內ニ於テ稅額ヲ査定スヘシ

第六條 一軒內ニ於テ數種ノ營業ヲ爲スモノ又ハ卸賣仲買小賣ヲ兼ヌルモノハ其稅額ノ最モ多キ一個ノミヲ徵收スヘシ

第七條 凡稅額ハ一年ヲ以テ其制限ヲ定ムト雖モ各地ノ便宜ニ依リ年額ニ準據シ日稅月稅トシテ之ヲ徵收スルコトヲ得

第八條 第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ヘ報告スヘ

シ

是レ實ニ各府縣ノ營業稅ニ關シ畫一ナル規定ヲ見ルノ初メナリ明治十三年四月八日布告第十七號ヲ以テ更ニ地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限ヲ改正セリ

第一條　營業稅目左ノ如シ其制限金十五圓以內トス但國稅アルモノヲ除ク

會社

卸賣商

仲買商

小賣商

雜商

第二條　雜種稅ハ其種類ニ依リ各箇ニ稅額ヲ定ム其目左ノ

製造所　一箇年金十五圓以內

船　明治七年第二十一號布告船舶漁船云々ノ分

車　馬車、人力車、荷積馬車、荷積大七大八車、荷積中小車、荷積牛車ノ類、

國稅ノ半額以內

市場演劇其他興行並遊覽所

上リ高百分ノ五以內

遊技場玉突、大弓、揚弓、射的、吹矢ノ類

一箇年金二十圓以內

料理屋西洋料理屋共待合茶屋、遊船宿、芝居茶屋、人寄席

一箇年金十二圓以內

質屋兩換屋爲替店共陸運又ハ廻漕ヲ以テ業トスル者

一箇年金十五圓以內

古著古金古道具類書畫骨董店共

旅籠屋、諸飲食店鰻屋、鮮屋、蕎麥屋ノ類

一箇年金拾圓以內

湯屋、理髮床、雇人請宿

一箇年金五圓以內

遊藝師匠、遊藝稼人、相撲

一箇年金十二圓以內

俳優

一箇年金六十圓以內

幇間、藝妓

一箇年金四十二圓以內

水車

一箇年金五圓以內

乘馬自用渡世共

一箇年一頭金一圓以內

屠畜

一頭金五十錢以內

第三條　漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若其例規ヲ改正シ又ハ新法ヲ創設セントスルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第四條　府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一條第二條類目中ニ於テ賦課スル者ヲ取捨スルコトヲ得

第五條　府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ視察シ府縣會ノ決議ヲ以テ稅額制限內ニ於テ各個ノ稅額ヲ査定スヘシ

第六條　凡ソ稅額ハ一箇年ヲ以テ其制限ヲ定ムト雖モ各地ノ便宜ニ依リ年額ニ準據シ日稅月稅トシ之ヲ徵收スルコトヲ得

第七條　凡ソ上リ高ヲ以テ稅額ヲ定ムルモノハ各地ノ便宜ニ依リ上リ高見積リヲ以テ日稅月稅トシテ之ヲ徵收スルコトヲ得

第八條　第四條、第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ報告スヘシ

第九條　第一條、第二條、第三條稅目ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スル者ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府縣知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

同年五月二十七日「東京府ノ營業稅雜種稅ハ府會ノ決議ヲ經テ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ其制限ヲ異ニスルコトヲ得」ル旨ヲ布告セリ

斯クテ明治十三年五月布告第二十七號ヲ以テ東京府ノ營業稅雜種稅ニ於テハ府會ノ決議ヲ經テ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ其制限ヲ異ニスルコトヲ得ルモノト爲リシカ明治十五年一月布告第三號ヲ以テ更ニ地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限ヲ改正セリ其全文ハ左ノ如シ

明治十三年四月第十七號布告營業稅雜種稅規則中左ノ通改正明治十五年七月一日ヨリ施行ス

第一條　營業稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ但國稅アルモノハ課稅ノ限ニアラス

商業

工業

第二條　雜種稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ

料理屋、待合茶屋、遊船宿、芝居茶屋、飲食店ノ類

湯屋

理髮人

傭人受宿

遊藝師匠、遊藝稼人、相撲、俳優、幇間、藝妓ノ類

市場

演劇其他與行遊覽所

遊技場（玉突、大弓、揚弓、射的、吹矢ノ類）

人寄席

船（舟、漁船、川船及五十石未滿ノ海船）車（馬車、人力車、荷積馬車、荷積大七八車、荷積中小車、荷積牛車ノ類）

但國稅ノ額ヲ超過スヘカラス

水車

乘馬

屠畜

漁業採藻ノ類

但漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其慣例ヲ改正シ又ハ新稅ヲ賦課セントスルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第三條 （削除）

第五條 府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ視察シ府縣會ノ決議ヲ以テ各個ノ稅額ヲ查定スヘシ

第六條 （削除）

第七條 （削除）

第九條 第一條第二條課稅種類ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府縣知事「縣令」ヨリ「內務大藏兩卿」ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

以上述ヘタル如ク營業稅ノ制度ハ維新以來種々ノ變遷ヲ經タリト雖モ要スルニ明治八年以前ハ

專ラ舊慣ニ依遵シ各地各〻制度ヲ異ニシ同年以降ハ單ニ地方稅トシテ各府縣限リ之ヲ課徵シ國稅トシテ一般營業者ニ課稅スルノ制無カリシナリ然ルニ明治二十七八年日清戰役ノ結果歲計俄然膨脹スルニ至レルヲ以テ歲入增加ノ新財源ヲ得ルノ必要ヲ生セリ是ニ於テ政府ハ課稅上彈力ニ富ミ其收入確實ナル營業稅ヲ以テ好箇ノ財源ト爲シ新ニ國稅中營業稅ヲ設ケテ歲入補塡ニ充ツルノ計畫ヲ定メタリ而シテ當時營業稅ヲ新設シタル理由ハ歲入增加ノ目的ヲ外ニシテ猶二三ノ理由ヲ存セリ卽チ其一ハ從來ノ地方稅中營業稅雜種稅ノ賦課ハ極メテ均一ヲ缺ケルヲ以テ國稅トシテ營業稅ヲ設ケ地方稅ハ其附加稅トシテ一定ノ率ニ依リ之ヲ徵シ負擔ノ公平ヲ期スルニアリ其二ハ國稅中徵收費巨額ニシテ之ヲ府縣稅ト爲スヲ便トスル船稅、車稅、菓子稅、牛馬賣買免許稅、煙草營業稅、醬麴營業稅等ヲ府縣ノ財源ニ移シ國稅ノ整理ヲ圖ルニアリ其三ハ從來商工業者ハ租稅負擔額ニ比シ公權ヲ享有スルコト少ク土地所有者ニ比シ頗ル不公平ナルノ嫌アリシヲ以テ此弊ヲ除ク爲メ營業稅ノ納稅者ハ衆議院議員選擧法竝ニ貴族院多額納稅議員互選規則等ニ於ケル參政權享有ノ資格ヲ有セシムルノ必要ニ由ルナリ營業稅法案ハ明治二十八年第九期帝國議會ニ提出セラレ些少ノ修正ヲ加ヘテ貴衆兩院ヲ通過シ明治二十九年三月二十七日法律第三十三號ヲ以テ之ヲ公布セリ營業稅法ハ課稅物件タル營業ノ種類二十四種ヲ列擧シ課稅ノ標準ヲ資本金賣上金高建物賃貸價格從業者職工勞役者報償金及請負金等ニ取レリ是レ一般納稅者ヲシテ負擔ヲ公平ナラシメンカ爲メニハ成ルヘク各種ノ點ヨリ比例ヲ取リテ其實相ヲ察知スルヲ要スレハナリ而シテ又一方ニ於テハ國稅トシテ營業稅ノ設定アリタルカ爲メ地方ノ財源ヲ涸渴セシムルノ虞ナキニアラサルヲ以テ販賣業ニアリテハ一箇年ノ賣上金額千圓以上ノ者又金錢貸付及物品貸

付等ニ於テハ資本金五百圓以上ノ者、製造業ニ於テハ資本金五百圓以上ニシテ而モ職工勞役者ヲ通シテ二人以上ヲ使用スル者、運送業ニ於テハ雇人二人以上ヲ使用スル者、印刷業寫眞業ニ於テハ職工雇人ヲ通シテ二人以上ヲ使用スル者、土木請負業勞力請負業ニ於テハ請負金額一箇年千圓以上ノ者、席貸業ニ於テハ建物賃貸價格五十圓以上ノ者、旅人宿業料理店業ニ於テハ雇人三人以上ヲ使用スルモノニ限リ國稅タル營業稅ヲ負擔セシメ其以下ニ在ルモノハ之ヲ地方ノ財源トシテ存セシムルコトヽセリ稅法ノ全文ハ左ノ如シ

法律第三十三號（明治二十九年三月二十七日）

營業稅法

第一條　左ニ揭クル營業ヲ爲ス者ニハ營業稅ヲ課ス

一　物品販賣業
一　銀行業
一　保險業
一　金錢貸付業
一　物品貸付業
一　製造業
一　運送業
一　倉庫業
一　運河業

一　棧橋業
一　船渠業
一　船舶碇繫場業
一　貨物陸揚場業
一　土木請負業
一　勞力請負業
一　印刷業
一　寫眞業
一　席貸業
一　旅人宿業
一　料理店業
一　公ナル周旋業
一　代辨業
一　仲立業
一　仲買業

第二條　營業稅ヲ課スヘキ物品販賣業ハ一定ノ店舗其他ノ營業場ヲ設ケ物品ノ卸賣又ハ小賣ヲ爲ス者ヲ謂フ

左ノ諸業ハ前項ニ該當セサルモ仍ホ物品販賣業ト看做ス

一 一定ノ製造場ナク職工ヲ使役スルコトナク原料ヲ供給シ工錢ヲ支拂ヒ物品ヲ製造セシメテ販賣スル者

二 一定ノ製造場ヲ設ケス店頭ニ於テ物品ヲ製造シ主トシテ小賣ヲ爲ス者

三 牧場ニアラサル場所ニ於テ飼料ヲ購求シ家畜又ハ家禽ヲ飼養シ之ヲ賣リ又ハ鷄卵牛乳等其產物ヲ販賣スル者

四 魚介類ヲ養殖シテ之ヲ販賣スル者

五 動植物其他普通ニ物品ト稱セサルモノヲ販賣スル者

一箇年ノ賣上金額千圓未滿ノモノニハ營業稅ヲ課セス

第四條 ノ營業者其製造場區域內ニ於テ製造品ヲ販賣シ及ヒ別ニ營業場ヲ設ケ其製造品ノ卸賣營業ヲ爲スモ物品販賣業トセス

第三條 營業稅ヲ課スヘキ金錢貸付業及物品貸付業ハ一定ノ店舗其他ノ營業場ヲ設ケ貸付ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ爲スモ亦同シ資本金額五百圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條 營業稅ヲ課スヘキ製造業ハ一定ノ製造場ヲ設ケ職工勞役者ヲ使役シテ物品ヲ製造シ又ハ物品製造ノ一部ヲ助成スルモノヲ謂フ

瓦斯電氣ノ供給ヲ爲ス者及ヒ器物器械ノ修理ヲ爲シ又ハ穀物ヲ精白搗碎シ又ハ染物洗濯ヲ爲ス者ハ前項製造業ト見做ス

資本金額五百圓未滿ノ者又ハ職工勞役者ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課

セス

第五條 運賃又ハ手數料ヲ受ケテ旅客貨物ノ運送ヲ爲シ又ハ其取扱ヲ爲スモノヲ運送業トシテ營業稅ヲ課ス但雇人二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第六條 倉庫ヲ備ヘテ貨物ヲ預リ倉敷料其他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受クル者ヲ倉庫業トシテ營業稅ヲ課ス

第七條 印刷業寫眞業ニシテ職工雇人ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者及ヒ土木請負業勞力請負業ニシテ請負金額一箇年千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第八條 貸料又ハ其他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケ客室又ハ集會場ヲ貸ス者ヲ席貸業トシテ營業稅ヲ課ス但建物賃貸價格五十圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第九條 營業稅ヲ課スヘキ旅人宿業ハ飲食物ヲ供スルト否トニ拘ハラス旅客ヲ宿泊セシメ又ハ人ヲ寄宿セシメ雇人三人以上ヲ使用スル者トス但木賃宿ニハ營業稅ヲ課セス

第十條 營業稅ヲ課スヘキ料理店業ハ雇人三人以上ヲ使用シ客室ヲ設ケテ飲食物ヲ販賣スルモノトス

第十一條 左ニ掲クル營業ニハ營業稅ヲ課セス

一 政府ヨリ發行スル印紙切手類ノ賣捌

二 自己ノ採堀又ハ採取シタル鑛物ノ販賣

三 度量衡ノ製作修復販賣

第十二條 營業稅ハ左ノ課稅標準及ヒ稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

業名	課稅標準	稅率
物品販賣業	賣上金額	卸賣ハ萬分ノ五 小賣ハ萬分ノ十五
	建物賃貸價格	千分ノ四十
	從業者	一人毎ニ金壹圓
銀行業、保險業、金錢貸付業、物品貸付業	資本金額	千分ノ二
	建物賃貸價格	千分ノ四十
	從業者	一人毎ニ金壹圓
倉庫業	資本金額	千分ノ二
	建物賃貸價格	千分ノ二十
	從業者	一人毎ニ金壹圓
製造業、印刷業、寫眞業	資本金額	千分ノ一半
	建物賃貸價格	千分ノ四十
	從業者	一人毎ニ金壹圓 從者ノ內職工勞役者一人毎ニ金三十錢
運送業、運河業、棧橋業、船渠業、船舶碇繫場業、貨物陸揚場業	資本金額	千分ノ二半
	從業者	一人毎ニ金壹圓
土木請負業、勞力請負業	請負金額	千分ノ二
	從業者	一人毎ニ金壹圓
席貸業、料理店業	建物賃貸價格	千分ノ六十

旅人宿業	從業者	一人毎ニ金壹圓
	建物賃貸價格	千分ノ四十
	從業者	一人毎ニ金壹圓
公ナル周旋業、代辨業、仲立業、仲買業	報償金額	百圓毎ニ金壹圓
	從業者	一人毎ニ金壹圓

第十三條　此稅法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ハ毎年一月三十一日迄ニ業名及ヒ課稅標準ヲ詳記シ政府ニ屆出ヘシ但新ニ開業シタル者ハ其際本條ノ屆出ヲ爲スヘシ營業者廢業シタルトキハ其際政府ニ屆出ヘシ

第十四條　同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ第十二條ノ課稅標準ニ依リ各別ニ營業稅ヲ課ス但課稅標準トナルヘキモノヲ共通シテ使用スルトキハ其一ニ就テ計算ス其稅率異ナルトキハ重キニ從フ

第十五條　物品販賣業、土木請負業、勞力請負業、席貸業、旅人宿業、料理店業、公ナル周旋業、代辨業、仲立業、仲買業ハ各店舗其他ノ營業場毎ニ營業稅ヲ課ス

前項ニ揭ケサル營業ニシテ店舗其他ノ營業場數箇所アルトキ其資本ヲ區分シタルモノハ各別ニ營業稅ヲ課ス其資本ヲ區別セサルモノハ合算シテ之ヲ課ス

第十六條　第十三條ニ依リ屆出ヘキ課稅標準ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ計算ス但新ニ開業シタル者ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

一　賣上金請負金及ヒ報償金ハ前年中ノ總額ニ依ル但前年中ニ開業シタルモノハ豫算ニ依

ル

二　資本金及建物賃貸價格ハ前年中ノ平均ニ依ル

三　從業者ハ前年ニ於ケル最多數ノトキニ依ル

資本金額ノ算定方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　營業者ノ申告シタル資本金額ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其營業ノ收入金額ヲ調査シ相當ノ營業費ヲ控除シ其殘額ノ二十倍ヲ以テ資本金額ヲ算定スルコトヲ得

第十八條　建物賃貸價格ハ店舗其ノ他營業用ノ土地家屋ノ借料ニ相當スルモノトス但住居ニ供スルモノ其他直接ニ營業ニ使用セサルモノアルモ同一區域內ニアリテ自己ノ所用ニ係ルモノハ營業用トシテ計算ス

借家ノ場合ニ於テハ何等ノ名義ヲ用フルニ係ハラス土地建物ノ貸借上借主ヨリ貸主ニ支拂フモノヲ以テ建物賃貸價格ヲ計算ス

借家ニ非サル場合ニ於テハ近傍借家ノ借料ニ照準シテ建物賃貸價格ヲ定ム近傍ニ照準スヘキ借家ナキトキハ其土地家屋ノ時價ヲ各別ニ算定シ土地ハ其百分ノ五家屋ハ百分ノ十ヲ以テ其賃貸價格ヲ定ム無償ノ借家ニ付テモ亦同シ

營業者ノ申告シタル賃貸價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ前項ノ算定方法ニ依リ其賃貸價格ヲ定ムルコトヲ得

第十九條　名義ノ何タルヲ問ハス總テ營業ニ從事スル者ハ從業者トシテ之ヲ計算ス但營業者ノ家族ヲ除ク

第二十條　營業稅ハ年額ヲ二分シ其年五月十一月ヲ以テ納期トス但廢業スルトキ未納ノ稅金ハ卽納トス

第二十一條　新ニ營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ其營業稅ヲ徵收ス

左ニ掲クル營業ヲ開始スルモノハ開業ノ翌年ヨリ尙三箇年間其營業稅ヲ徵收セス但此稅法施行以前ヨリ營業スル者ニシテ其開業ノ翌年ヨリ三箇年ニ滿タサルトキハ本項ニ準據スルコトヲ得

銀行業、保險業、倉庫業、製造業、印刷業、運送業、運河業、棧橋業、船渠業、船舶碇繫場業

第二十二條　同一ノ場所ニ於テ六箇月以內ニ前ノ營業者ト同一ノ營業ヲ開始スル者ハ其ノ月ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十三條　營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムヘキ事實アルトキハ納期ニ於テ現ニ營業スル者ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十四條　營業者廢業スルトキハ其廢業ノ月迄營業稅ヲ徵收ス但他ニ其營業ヲ繼續スルモノアルトキハ前條ニ依ル

第二十五條　第二十二條及第二十三條ノ場合ニ於テ前ノ營業者第廿一條ノ期間內ニアルトキハ其期間ハ後ノ營業者ニ及フモノトス

第二十六條　政府ニ於テ營業者ノ申告ヲ不相當ト認メ資本金額又ハ建物賃貸價格ヲ算定シタルトキハ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

第二十七條　前條ノ算定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ申立テ再

審査ヲ求ムルコトヲ得但此場合ニ於テ政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セス

第二十八條　第十八條第三項ノ建物賃貸價格算定ニ付テ異議ノ申立アリタルトキハ評價人ヲ定メ之ヲ評價セシム評價一致セサルトキハ其平均ヲ以テ之ヲ定ム

評價人ハ四人トシ二人ハ政府ヨリ之ヲ命シ二人ハ土地建物所在市町村長之ヲ選定ス但費用ハ本人ノ負擔トス

前項市町村長ノ職務ハ特別市制ヲ施行スル市ニ於テハ區長市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戶長沖繩縣ニ於テハ役所長之ヲ行フ

第二十九條　左ノ場合ニ於テハ營業者ハ政府ニ其由ヲ申立ツルコトヲ得

一　課稅ノ標準タル資本金額賣上金額請負金額報償金額又ハ建物賃貸價格半額以上ヲ減シタルトキ

二　課稅ノ標準タル從業者ノ人員屆出人員二分ノ一以下ニ減シタルトキ

第三十條　政府ハ前條ノ申出ニ由リ營業者ノ狀況ニ照シ營業稅ヲ減額スルノ必要アリト認ムルトキハ翌年一月迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十一條　政府ハ第二十九條ノ申出ニ對シ翌年一月ニ於テ課稅標準ヲ査覈シ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ稅金ヲ減額スルコトヲ得

一　課稅ノ標準タル賣上金額請負金額報償金額ハ前々年中ノ總額資本金額建物賃貸價格ハ前々年中ノ平均額ノ半額ニ達セサルトキ

二　課稅ノ標準タル從業者ノ人員其最多數ノ時ニ於テ屆出人員ノ二分ノ一ニ達セサルトキ

課稅標準ノ價格最低限以下ニ減シタル場合ニ於テモ仍ホ其割合ヲ以テ稅金ヲ徵收ス

第三十二條　第一條ニ揭クル營業者ハ貨物ノ仕入賣上受入貸付廻送從業者ノ人員及營業ニ關スル金錢ノ出納ヲ明ニスル爲メ帳簿ヲ備ヘ營業上一切ノ事實ヲ記載スヘシ

第三十三條　收稅官吏ハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢査シ又ハ營業者ニ尋問スルコトヲ得

第三十四條　第十三條ノ屆出ヲ爲サス若クハ虛僞ノ屆出ヲ爲シ又ハ故意ヲ以テ第三十二條ノ帳簿ノ記載ヲ怠リ若クハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其脫稅シタル者ハ脫稅金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十五條　此稅法ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不論罪減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用キス

第三十六條　府縣ハ此ノ稅法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ノ營業ニ對シ本稅十分ノ二以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス此附加稅ノ外府縣稅又ハ地方稅ヲ課スルコトヲ得

附則

第三十七條　此稅法ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

第三十八條　明治二十九年度ニ屬スル府縣稅又ハ地方稅ハ第三十六條ノ規定ニ依ルノ限ニ在ラス

明治二十九年度ニ屬スル府縣稅又ハ地方稅ノ賦課ヲ受ケタル業體ニ對スル此稅法ノ營業稅ハ明治三十年ニ限リ年額四分ノ三ヲ徵收ス

第三十九條　第二十條五月ノ納期ハ明治三十年ニ限リ七月トス

營業稅法ノ新設ニ伴ヒ稅法施行上其標準ヲ示スノ必要ヲ認メ七月二十日勅令第二百六十九號ヲ

以テ營業稅法施行細則ヲ制定セリ其全文ハ左ノ如シ

勅令第二百六十九號（明治二十九年七月二十日）

營業稅法施行規則

第一條　營業稅法第一條ノ營業ヲ爲ス者ニシテ同法第二條以下ノ規定ニ依リ營業稅ヲ課セラルヘキ者ハ其店舗其他ノ營業場所在地ノ地方長官ニ同法第十三條ノ屆出ヲ爲スヘシ

但同法第十五條第二項末段ノ場合ニ於テハ其主タル店舗其他ノ營業場所在地ノ地方長官ニ屆出ヘシ左ニ揭クル者ハ同法第十三條第一項但書ニ依リ開業後十日以內ニ地方長官ニ新規開業ノ屆出ヲ爲スヘシ

一　新ニ同法第一條ノ營業ヲ開始スル者

二　同法第十五條第二項末段ノ場合ニ該當セサル者ニシテ新ニ店舗其他ノ營業場ヲ增設スル者

三　新ニ營業ノ種類ヲ增加スル者

第二條　同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ店舗其他ノ營業場ノ同一ナルト否トヲ問ハス營業ノ種類竝ニ各店舗其他ノ營業場毎ニ區分シテ營業稅法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ但課稅標準トナルヘキモノヲ數種ノ營業ニ共通シテ使用スル場合ニ於テハ稅率ノ最モ重キ營業稅率等シキトキハ其重ナル營業ノ一方ニ其課稅標準ヲ計算スヘシ

第三條　同一人ニシテ數個ノ店舗其他ノ營業場ニ於テ同種ノ營業ヲ爲ストキハ各店舗其他ノ營業場毎ニ營業稅法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第四條　營業稅法第十五條第二項末段ニ依リ數個ノ店舗其他ノ營業場ヲ合セテ營業稅ヲ課セラルヘキ場合ニ於テハ總テノ店舗其他ノ營業場ヲ通シテ同法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第五條　株式會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中ノ各月末ニ於ケル拂込株式金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他ノ積立金ノ性質ヲ有スル資產金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第六條　合資會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル登記濟出資金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其他積立金ノ性質ヲ有スル資產金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第七條　合名會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル總社員ノ出資額及名義ノ何タルヲ問ハス各積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資產金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

前項總社員ノ出資額中勞力ノ出資アルトキハ其價格ハ會社契約ニ定メタル價格ニ依ル但會社契約ニ其勞力ノ價額ヲ定メサル時ハ各社員損益共分ノ割合ニ從ヒ之ヲ算定スルモノトス

第八條　一個人ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ他ヨリ借入シタルト否トヲ問ハス前年中各月末ニ於ケル固定資本及運轉資本ノ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

前項固定資本ハ直接ニ營業ノ用ニ供スル土地、建物、築造物、船舶、諸器具器械ノ價格ヲ計算ス其價格ハ時價相當ノ見積金額ニ依ル

第九條　課稅標準額ヲ豫算スルトキハ屆出當時ノ實況ニ依リ尙ホ過去將來ノ形情ヲ斟酌シテ之ヲ算出スヘシ

第十條　營業稅法第十七條ニ依リ控除スヘキ營業費ハ營業上直接ニ必要ト認ムヘキ費用ニ就テ算定スヘシ

第十一條　營業稅法第十八條第二項ノ場合ニ於テ借地料借家料ヲ支拂フニ金錢ニアラサル物品ヲ以テスルトキハ其物品ノ時價ニ依リ之ヲ定ムヘシ

營業者借地ニ於テ自己ノ建物ヲ所有スルトキハ其土地ハ營業稅法第十八條第二項ニ依リ建物ハ同條第三項ニ依リ其賃貸價格ヲ計算スヘシ

營業者借家中ニ於テ其建物ノ一部分ヲ所有スルトキハ自己所有ノ部分ハ營業稅法第十八條第三項ニ依リ其建物賃貸價格ヲ計算スヘシ建物中造作全部ヲ借主ニ於テ所有スルトキ亦同シ

第十二條　從業者ハ營業主ヲ始メ店舗其他ノ營業場ニ居住スルト否ト使役ノ常時タルト臨時タルトヲ問ハス總テ直接ニ營業ニ從事スル者ヲ計算スヘシ但營業主ト同一戶籍內ニ在ル者ハ計算セス

第十三條　相續讓渡其他原因ノ何タルヲ問ハス營業ヲ繼續スル者ハ其繼續後十日以內ニ地方長官ニ其旨ヲ屆出ヘシ

第十四條　營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ店舗其他ノ營業場ヲ移轉シタルトキハ十日以內ニ地方長官ニ其旨ヲ屆出ヘシ其移轉他ノ管轄地方ニ涉ルトキハ雙方ニ屆出ヘシ

第十五條　營業稅法第十五條第二項末段ニ該當スル場合ニシテ店舗其他ノ營業場ヲ增設シタル者ハ其增設後十日以內ニ其旨ヲ地方長官ニ屆出ヘシ

第十六條　地方長官ハ營業者ノ申告ヲ相當ト認ムルトキハ營業稅法第十二條ノ稅率ニ從ヒ其營業稅ヲ賦課スヘシ

營業者ノ申告ナキトキハ地方長官ハ營業稅法第十六條ノ算定方法ニ依リ其課稅標準ヲ計算シ其營業稅ヲ賦課スヘシ

第十七條　地方長官營業者ノ申告ヲ不相當ト認メ資本金額又ハ建物賃貸價格ヲ算定シタルトキハ其計算書ヲ添ヘ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

第十八條　前條ノ算定ニ對シ異議アルモノ再審査ヲ求メントスルトキハ其理由ヲ詳記シ營業稅法第二十七條ノ期限內ニ地方長官ニ申出ヘシ

第十九條　地方長官ハ資本金額再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ更ニ營業者ノ提出シタル理由書ニ依リ當初ノ算定ヲ再査シ其訂正スヘキハ之ヲ訂正シ決定書ヲ作リ之ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

第二十條　地方長官ハ建物賃貸價格再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ土地建物所在地ノ市町村長ニ通知シ評價人ヲ選定セシメ同時ニ政府ヨリ命スヘキ評價人ヲ選定スヘシ

第二十一條　評價人ハ滿二十歲以上ノ男子ニ就テ選定スヘシ

但異議申立人ノ親族其他當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者及治產ノ禁ヲ受ケタル者ハ之ヲ選定スルコトヲ得ス

土地建物ノ數市町村ニ在リテ其貸借價格ヲ合算スル場合ニ於テハ其所在市町村毎ニ評價人ヲ選定スヘシ

第二十二條　評價人定マリタルトキハ地方長官ハ場所期日ヲ定メ評價人ヲ會合シ其評價ヲ爲サシムヘシ

評價人評價ヲ終リタルトキハ直チニ評價書ヲ作リ評價金額竝ニ其理由ヲ記載シ地方長官ニ提出スヘシ

地方長官ハ前項評價書ニ依リ建物賃貸價格ヲ定メ其決定書ヲ作リ之ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

第二十三條　營業稅法第十五條第二項末段ニ該當スル場合ニ於テ營業者數個ノ店舗其他ノ營業場ヲ有シ其管轄地方ヲ異ニスルトキハ其資本金額、建物賃貸價格ノ算定審査ニ關スル事務ハ其主タル店舗其他ノ營業場所在地ノ地方長官之ヲ爲スヘシ但建物賃貸價格ノ評價ニ關スル事務ハ之ヲ土地建物所在地ノ地方長官ニ囑託スヘシ

第二十四條　營業稅法第二十八條第二項但書ニ依リ異議申立人ノ負擔スヘキ費用ハ評價人ノ手當及評價人集會ノ費用トス

第二十五條　前條評價人ノ手當ハ毎事件一人金壹圓五十錢トシ評價人集會ノ費用ハ會場借料竝ニ會場雜費ニ限ル

第二十六條　營業者ヨリ營業稅法第二十九條ノ申出アリタルトキハ地方長官ハ課稅標準額算定ノ方法ニ依リ其年營業ノ實況ヲ調査シ同法第三十一條第一號又ハ同條第二號ニ該當スル

トキハ其課稅標準額ノ全部ヲ改算スヘシ

第二十七條　營業者店舗其他ノ營業場外ニ居住シ又ハ旅行シ店舗其他ノ營業場ニ不在ナルトキハ營業稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲ニ納稅管理人ヲ定メ地方長官ニ屆出ヘシ

第二十八條　營業稅法第三十三條ニ依リ收稅官吏營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢査スルトキハ地方長官ノ檢査章ヲ其營業者ニ示スヘシ

附則

第二十九條　營業稅法第二十一條第二項但書ニ該當スル營業者ハ同法第十三條ノ屆書ニ要スル事項ヲ詳記シタル書類ヲ添ヘ明治三十年一月三十一日迄ニ地方長官ニ其開業年月日ヲ屆出ヘシ

明治二十九年七月三十一日大藏省祕第六四七號ヲ以テ左ノ內訓ヲ發セリ蓋シ營業稅ノ如キ其調査甚タ複雜ニシテ其取扱區々ニ流レ易ク隨テ彼是公平ヲ缺キ紛擾ヲ來スノ虞アルヲ以テ豫メ其取扱上畫一ヲ圖ルノ必要アリタルニ由ルナリ

營業稅法施行上取扱方

第一條　營業稅法ニ於ケル營業ノ種類ハ稅法第一條ニ揭ケタル區分ニ依リ類別スルモノトス

但稅法第二十二條ニ於テ同一ノ營業ト稱スルハ營業ノ種類ニ依ラス營業實體ノ符合スルモノニ限ル

第二條　各種營業ノ類別ハ名義ノ如何ニ拘ハラス其性質ニ依テ判定スヘシ性質不明ナルモノハ其重ナル點ニ就テ之ヲ判定シ仍ホ其類別ニ入ラサルモノハ强テ類推スルヲ要セス

第三條　各種ノ營業稅ヲ課スルニハ店舗其他ノ設備アルモノニ止メ一定ノ場所ヲ有セスシテ隨時業務ヲ行フモノヽ如キハ課稅ノ範圍外トシテ取扱フヘシ

第四條　農業漁業其他ノ採集業ニシテ其就業區域內又ハ市場ニ於テ收獲品又ハ製造品ヲ販賣スルモノヽ如キハ營業稅ヲ課スヘキモノニアラス但別個ノ賣場ヲ設ケタルモノハ物品販賣業ト爲シ又ハ製造ノ爲メ一定ノ築造物等ヲ有シ相當ノ設備ヲ爲シタルモノハ製造業ト爲スヘシ

第五條　小賣店ヲ開キ物品販賣ヲ爲スモノ其同一建物內又ハ附屬建物內ニ於テ物品ノ製作ヲナスモ獨立ノ製造場ト認メ難キモノハ渾テ物品販賣業トシテ取扱フヘシ

第六條　公ナル營業場ヲ設ケ物件ノ賣買貸借男女ノ雇傭就業負債ノ督促取立等他人ノ依賴ニ應シ媒介取次用辨ヲ爲スノ類ヲ周旋業トシ代理店其他ノ名義ヲ以テ他人ノ商取引ヲ代理スルモノヲ代辨業トナシ取引所其他ノ場所ニ於テ他人間ノ商取引ヲ媒介スルモノヲ仲立業トシ問屋受托販賣其他ノ名稱ヲ以テ自己ノ名義ニテ他人ノ爲メニ商取引ヲ爲スモノヲ仲買業トス

第七條　資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル現在價格ヲ合計シ其月數ヲ以テ之ヲ除シ其平均額ヲ求ム

第八條　會社ノ積立金額其他積立金ノ性質ヲ有スル資金金額ハ大約左ノ種類ヲ含ム

一　積立金又ハ準備金ノ名稱ヲ付スルモノ

二　積立金又ハ準備金ノ固定資本ニ變シタルモノ

三　營業費其他何等ノ名義ヲ用フルニ拘ハラス營業上ノ利益ト認ムヘキ收入ヲ支辨シタル固定資本

四　繰越金其他ノ名義ヲ以テ益金ノ割賦殘額ヲ翌年度ニ繰入ルヽモノ

第九條　營業上直接ニ必要ナリト認ムヘキ營業費ハ大凡ソ物品ノ仕入、保存費、雇入給料、職工勞役者ノ賃銀、運搬荷造費、營業用建物賃貸價格、固定資本ノ維持修理費、營業主及ヒ其家族ノ營業ニ從事スル者ノ給料ニ相當スルモノ其他業體ニ從ヒ營業ヲ爲ス爲メニ支出ヲ要スルモノヲ以テ目安トスヘシ

第十條　建物賃貸價格ハ一年ニ滿タサルトキハ前年中ニ於テ實際使用シタル各月ノ賃貸價格ヲ合計シ之ニ十二箇月ヲ乘シ前年中使用ノ月數ヲ以テ除シタルモノヲ平均額トス

第十一條　建物賃貸價格ヲ不當ト認ムヘキ場合大約左ノ如シ

一　賃貸契約ヲ以テ定メタル借料普通ノ價格以下ニシテ其理由判明ナラス申告以外ニ報償ヲ受クルノ疑アルトキ

二　故ラニ金錢外時價ノ低キ物品ヲ以テ仕拂ノ契約ヲ爲シ價格ヲ低クスルノ疑アルトキ

三　照準トナシタル借家又ハ借地ヲ不當ナリト認ムルトキ

四　土地家屋ノ時價不當ナリト認ムルトキ

第十二條　從業者中職工ハ職人工女ノ類ニシテ專ラ製作ノ勞ニ服スルモノ勞役者ハ一般ノ力役ニ服スルモノトス

第十三條　營業主ニ於テ勞力ノ必要アルニ際シ勞力請負者ヨリ供給シタル勞力者ノ如キ個人

ノ關係ナク單ニ勞力ノ量ヲ使用スルニ止ルモノ又ハ船車等ヲ雇入ルヽトキ其船車等ニ附屬スル勞力者ノ數ハ從業者ニ含包セス

第十四條　同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲シ營業稅ノ課稅ヲ受ケサル營業ヲ兼ヌル場合ニ於テ課稅標準共通ニシテ區別シ難キトキハ其課稅ヲ爲スヘキ營業ノ分ニ計算スヘシ

第十五條　同一人ニシテ數箇所ノ店舗其他ノ營業場ニ於テ同一ノ營業ヲ爲スモノ營業稅法ノ施行セラレサル地方ニ店舗其他ノ營業場ヲ有シ資本ヲ區分セサルトキハ其資本金額ハ總額ニ就テ計算スヘシ

第十六條　稅法第二十二條ノ場合ニ於テハ豫算ニ依リ一箇年ノ營業稅額ヲ算定シ之ニ營業ノ月數ヲ乘シ十二分シテ得タル金額ヲ以テ課稅額ヲ定ムヘシ

前項稅金ハ之ヲ二分シ各納期ニ於テ之ヲ徵收スヘシ開業ノ納期後ニ在ルモノハ其際之ヲ徵收スルモノトス

第十七條　營業者廢業ノ申告アルトキハ其年ノ營業稅ニ營業ノ月數ヲ乘シ十二分シテ得タル金額ヲ以テ其年ノ課稅額ヲ定ムヘシ

前項稅金ハ直ニ之ヲ徵收スヘシ但既納ノ稅金アルトキハ差繼計算スルモノトス

第十八條　營業者其他ノ管轄地方ニ移轉スルモノアルトキハ前官廳ハ後ノ官廳ニ其營業者ニ關スル事務ノ引繼ヲ爲シ徵稅上缺漏ナキコトニ注意スヘシ

第十九條　營業者數個ノ營業場ヲ有シ其管轄地方ヲ異ニスル場合ニ於テ稅法第十五條末段ニ該當スルトキハ其重ナル營業場所在地ニ於テ營業稅ノ賦課徵收ヲ爲スヘキカ故ニ其他ノ營業場所在地ノ官廳ハ常ニ營業上視察シタル事項ヲ重ナル營業場所在地ノ官廳ニ通報スヘシ又營業稅ニ附加スル地方稅又ハ府縣稅ノ賦課ニ關シ明治二十九年十二月大藏省主稅局長竝ニ內務省縣治局長ヨリ各府縣知事ヘ左ノ通牒ヲ發シタリ

一　營業稅ニ附加スル府縣稅又ハ地方稅ハ其會計年度內ニ於ケル國稅ノ賦課額ニ附加スヘシ

二　附加稅ハ十分二以內ヲ附加スル外府縣稅又ハ地方稅ヲ課スルコトヲ得サルモノナルニ依リ附加稅ニ非サル府縣稅又ハ地方稅ヲ賦課徵收シタル營業者ニシテ營業稅法第二條乃至第五條及第七條乃至第十條ノ規定ニ依リ國稅ノ賦課ヲ受クルニ至ルトキハ過納ニ係ル府縣稅又ハ地方稅ハ下戾スヘシ

三　營業稅法第三十一條ノ規定ニ依リ國稅金額ヲ減額セラレタル者ニ對シテハ其附加稅タル府縣稅又ハ地方稅モ其割合ニ應シ減額シ徵收スヘシ

四　營業稅法第三十條ニ依リ國稅ノ徵收ヲ猶豫セラレタル者ニ對シテハ其附加稅タル府縣稅又ハ地方稅ノ徵收ヲモ猶豫シ國稅ノ納額確定ノ上附加稅ヲ徵收スルヲ便トス但府縣稅ニ付テハ府縣制第七十條ニ依リ本縣參事會ノ議決ヲ經ルヲ要ス

五　附加稅ノ徵收ヲ猶豫シ又ハ減額シテ徵收スル等取扱上便宜ノ爲メ營業稅ニ附加スル府縣稅又ハ地方稅ハ稅法第二十條ニ定メタル國稅ノ納期ト同一又ハ其以後ニ納期ヲ定メ徵收スルヲ可トス

明治三十年二月一日大藏大臣ハ各稅務管理局ニ對シ營業稅法ニ據リ營業者ヨリ申告シタル書類ニ關シテハ一切祕密ヲ保チ他ニ漏洩セサル樣注意スヘキ旨ヲ訓示ス蓋シ營業者ノ申告ハ事營業

ノ祕密ニ屬スルモノ少カラス之ヲ他人ニ漏洩スルアラハ個人ノ損害測ラレサルヲ以テ特ニ稅務官吏ヲ戒飭セルモノナリ

同月十三日大藏省令第二號ヲ以テ營業稅法施行規則第二十八條ニ依リ稅務管理局長ノ交付スヘキ檢査樣式ヲ定ム是レ各局ヲシテ統一ナラシムル目的ニ外ナラサルナリ

營業稅法ニ於テハ資本金額ヲ標準トシテ營業稅ヲ課スヘキモノニシテ內外國ニ涉リ又ハ營業稅法ヲ施行シタル地方ト之ヲ施行セサル地方トニ跨リ營業場ヲ有スルモノニ對スル規定不備ナリシヲ以テ改正條約實施ノ結果外國人ニ課稅スルニ當リ法律ノ適用上困難ヲ生スヘキカ故ニ明治三十二年三月一日法律第三十二號ヲ以テ稅法中ニ左ノ改正ヲ加ヘタリ

明治二十九年法律第三十三號營業稅法中左ノ通改正第十五條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但內國ト外國トニ涉リ店舗其他ノ營業場數箇所アルトキ資本ヲ區分セサルモノハ內國ニ於ケル各店舗其他ノ營業場ニ於テ使用スル資本金額ヲ見積リ內國ノ分ニ限リ各別ニ之レヲ課ス

第三十九條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四十條　第十五條第二項但書ノ規定ハ此法律施行地ト此法律ヲ施行セサル地トニ涉リ店舗其他ノ營業場數箇所アル場合ニ之ヲ準用ス

明治三十三年三月法律第三十四號ヲ以テ產業組合法ヲ制定シ同法第六條ニ於テ產業組合ニハ營業稅ヲ課セサル旨ヲ規定セリ蓋シ產業組合奬勵ノ目的ニ外ナラサルナリ明治二十九年法律第三十三號營業稅法ノ規定ニ依レハ政府カ營業者ノ申告シタル資本金額ヲ不相當ト認メ自ラ資本金額ヲ算定スルニ當リ營業ノ種類ニ拘ラス營業ノ收入金額ヨリ營業費ヲ控除シ其殘額ノ二十倍ヲ以テ資本金額ト爲シ又傍ラ照準スヘキ借家ナキトキハ都市ノ繁閑ニ拘ラス其土地家屋ノ時價ヲ各別ニ算定シ土地ハ其百分ノ五家屋ハ其百分ノ十ヲ以テ其賃貸價格ヲ定ムルカ如キハ甚タ其當ヲ得ス故ニ營業ノ種類若ハ都市ノ繁閑ニ依リテ算定率ヲ區別セサルヘカラサルカ故ニ明治三十五年三月十日法律第十八號ヲ以テ營業稅法中左ノ改正ヲナセリ

法律第十八號（明治三十五年三月十日）

明治二十九年法律第三十三號營業稅法左ノ通改正ス

第一條　第十三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一　鐵道業

第五條ヲ第五條ノ一トシ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第五條ノ二　私設鐵道法ニ依リ運送ノ業ヲ營ム者ヲ鐵道業トシテ營業稅ヲ課ス

第十條ヲ第十條ノ一トシ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十條ノ二　營業稅ヲ課スヘキ公ナル周旋業、代辨業、仲立業、仲買業ハ一箇年報償金額百圓以上ノ者トス

第十二條業名、課稅標準及稅率表中、運送業、運河業、棧橋業、船渠業、船舶碇繫場業、貨物陸揚場業ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

鐵道業	收入金額	千分ノ十
從業者		一人每ニ金一圓

同條中「公ナル周旋業、代辨業、仲立業、仲買業」ノ稅率「百圓每ニ金壹圓」ヲ「千分ノ十五」ニ改ム

第十六條 第一項第一號中「賣上金」ノ下ニ「收入金」ヲ加フ

第十七條 納稅義務ヲ有スル營業者第十三條ノ屆出ヲ爲サヽルトキ又ハ其懈出タル課稅標準ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其課稅標準ヲ算定スルコトヲ得

第十八條 第四項ヲ削ル

第二十一條 第二項中「船舶碇繫場業」ノ下ニ「鐵道業」ヲ加フ

第二十六條中「營業者」ノ申告ヲ不相當ト認メ資本金額又ハ建物賃貸價格ヲ「課稅標準」ニ改ム

第二十七條中「再審査」ヲ「審査」ニ改ム

第二十八條ヲ左ノ如ク改ム

第二十八條ノ一 前條ノ請求アリタルトキハ營業稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ政府之ヲ決定ス

第二十八條ノ二 各稅務管理局所轄內ニ營業稅審査委員會ヲ置ク

審査委員ノ定數及審査委員會ノ會議ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

審査委員ハ商業會議所代表者及納稅義務ヲ有スル營業者中ヨリ大藏大臣之ヲ命ス

第二十八條ノ三 收稅官吏ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十八條ノ四 營業者第二十八條ノ一ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十九條第一號中「賣上金額」ノ下ニ「收入金額」ヲ加フ

第三十一條第一項第一號中「賣上金額」ノ下ニ「收入金額」ヲ加フ

附則

本法ハ明治三十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右營業稅法中改正ニ伴ヒ同施行規則中改正ヲ施ス必要アルヲ以テ明治三十五年十月六日勅令第二百二十號ヲ以テ左ノ如ク改正公布セリ

勅令第二百二十號（明治三十五年十月六日）

營業稅法施行規則中左ノ通改正ス

第五條ニ左ノ但書ヲ加フ

但保險會社ニ於ケル保險責任準備金ハ之ヲ除算ス

第六條ヲ第六條ノ一トシ「登記濟」ヲ削ル

第六條ノ二 株式合資會社ニ於テ課稅標準ト爲スヘキ資本金額ハ前年中ノ各月末ニ於ケル出資金額、拂込株式金額及ヒ名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其他積立金ノ性質ヲ有スル資產金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第七條ヲ第七條ノ一トシ第一項中「出資額」ヲ「出資金額」ニ改メ第二項ヲ削ル

第七條ノ二 株式會社、合資會社、株式合資會社又ハ合名會社ニ於テ營業稅法第一條ニ掲クル營業ト同條ニ掲ケサル營業トヲ兼營スルトキハ前四條ニ依リ算定シタル資本金額中ヨリ營業稅法第一條ニ掲ケサル營業ニ對スル見積資本金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅標準ト爲スヘキ資本金額トス

第十條 削除

第十四條中「雙方」ヲ「移轉先ノ稅務署」ニ改ム

第十六條 納稅義務アル營業者第一條ノ屆出ヲ爲ササルトキ又ハ其屆出タル課稅標準ヲ不相當ト認ムルトキハ稅務管理局長ハ營業稅法第十六條ノ算定方法ニ依リ其課稅標準ヲ算定スヘシ

第十七條 稅務管理局長前條ニ依リ課稅標準ヲ算定シタルトキハ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル營業者ハ稅務署ニ申出テ其算定ノ說明ヲ求ムルコトヲ得

第十八條中「再審査」ヲ「審査」ニ改ム

第十九條中 稅務管理局長課稅標準審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ營業稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ課稅標準ヲ決定シ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第十七條第二項ヲ準用ス

第二十條 審査委員ノ定數ハ五人トス

第二十一條 審査委員會ハ稅務管理局長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第二十二條 審査委員會ハ每年最初ノ開會ノ時ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選擧スヘシ

第二十三條 審査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル審査委員中年長者之ヲ代理スヘシ

第二十四條 審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十五條 審査委員ハ自己又ハ自己カ代表スル會社ノ課稅標準ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第一條、第十三條、第十四條、第十五條、第十八條、第二十一條、第二十七條及ヒ第二十八條中「地方長官」ヲ「稅務署」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

而シテ營業稅法ニ關シテハ爾後別段ノ變更ヲ生セス

營業稅收入額

年度	金額
明治二十九年度	五二、二九五円
同 三十年度	四、四一六、二四八、五八六
同 三十一年度	五、四七八、〇二〇、一六六
同 三十二年度	五、五〇七、一四六、九〇一
同 三十三年度	六、〇五一、五一五、〇九二
同 三十四年度	六、四八一、〇四五、一九六
同 三十五年度	六、七七七、〇四七、二九二

第六節 酒稅

第一款 酒造稅

第一項 酒造稅ノ第一期

酒稅ノ制度ハ其由テ來ルヤ久シ而シテ其史乘明ニ見ユルニ至レルハ後光嚴天皇ノ應安四年足利義滿カ酒戶ニ壺別二百文ヲ課シタルヲ以テ嚆矢トス是ヨリ先キ源賴朝府ヲ鎌倉ニ開キ北條氏其政權ヲ執レルノ頃ニアリテハ酒類ノ釀造ハ或ハ之ヲ禁止シ或ハ之ヲ制限スルノ法令相踵テ出テ爾來足利氏ノ初年ニ至ル迄前後數回同一趣旨ノ禁令ヲ發シタルコトアリシモ未タ課稅ノ事アラサリキ惟フニ當時此ノ如キ禁令ヲ發シタル所以ハ往古諸外國トノ交通未タ頻繁ナラス一國生產ノ米穀ヲ以テ一國人民ノ常食ニ供シタル時代ニ在リテハ年ノ豐凶米價ノ昂低ハ直ニ國民ニ至大ノ影響ヲ及ホスヘク隨テ米穀ヲ以テ唯一ノ原料トナス酒類ニ對シテハ時ノ政府ハ勢ヒ之カ禁止制限ヲ爲サヽルヲ得サリシニ因ルナリ爾來德川氏ノ初年ニ至ルマテ臨時ノ歲入ヲ要スル每ニ隨時酒造業者ニ對シテ或ハ運上ノ賦課ヲ强制シ或ハ冥加獻金ヲ爲サシメ其誅求ノ手段課金ノ厚薄ノ如キハ固ヨリ一定セス而シテ此時代ニアリテハ斷然酒類ノ釀造ヲ禁止シタルニハ非サレトモ亦勉メテ之ヲ抑制シ唯國庫臨時ノ需要ヲ滿足スル一方便ト爲シタリシノミ元祿年間ニ至リテ幕府ハ酒類營業者ニ對シ清酒ノ賣價ヲ標準トシテ其三分ノ一ヲ徵シ殆ト禁止的ノ重稅ヲ賦課シタリシカ後幾クモナクシテ之ヲ廢止シ其後ハ單ニ歲ノ豐凶米價ノ高低ニ伴ヒ造石數ノ制限ヲ斟酌シ以テ米穀ノ消糜ニ關スル取締ヲ爲スニ過キサリシナリ安永年間ニ至リテハ凡テ酒類ニ對シ冥加金ヲ納メシメ次テ寬政年間ニハ其營業戶數ヲ制限シ又從來繼續營業シ來レル特權ヲ以テ株ト

名ツケ其株ノ賣買讓與ニ付テモ亦制限ヲ加ヘタリ而シテ課率ノ高低ハ時代ニヨリ一樣ナラサリキ天保年間造石數ヲ標準トシテ課稅スルノ方法ヲ定メ造石高百石ニ付稅金三分トシ酒造業者ニ對シテハ營業鑑札ヲ下付シテ其造石高ヲ限定シ其他營業ノ取締ニ付テモ亦規定スル所アリタリ然レトモ當時未タ酒稅ヲ以テ重要ナル一財源ト認メタルノ形跡ナク他ノ雜稅ト共ニ之ヲ小物成ト稱シテ收納セシニ止マレリ斯クテ明治維新ニ至リテモ未タ兵馬倥偬ノ際ナリシヲ以テ依然從來ノ法制ヲ繼承シタリシモ諸國法ノ適用ニ付テ寬嚴其度ヲ異ニセルノミナラス往々ニシテ過製密造ノ弊アリ是ニ於テカ其弊ヲ防キ併セテ從來ノ稅率ヲ高メテ時需ニ應セシムルノ目的ヨリ明治元年五月二十七日會計官布達ヲ以テ酒造規則五箇條ヲ定メ一時冥加高百石ニ付二十兩ト爲セリ是レ實ニ明治維新以來酒造稅ニ關シテ規定ヲ設ケタルノ嚆矢トナス其全文左ノ如シ

布告（元年五月二十七日）

定

一 酒造之儀ハ古來ヨリ定法モ有之處今般御一新ニ付鑑札御改被　仰出候間早々差出可申事

一 規定之外增造之儀ハ堅被禁候條於其筋可遂吟味事

但增造之儀其筋ヲ以願出候得ハ御糺之上其品々ニヨリ可及沙汰事

一 凶年ニハ分割ヲ以テ減造可致事

一 造酒百石ニ付金貳拾兩宛上納被　仰付候事

一 前年心得違ニテ規定之外增造致シ鑑札取揚ニ相成候者共悔悟之上願出候ハヽ百石ニ付金五拾兩上納被差免候事

（雛形略）

右雛形ニ準シ夫々其支配所ニテ割印燒印共取極メ鑑札相渡百石ニ付金貳拾兩宛取立之上上納可有之事

但其支配所ニテ酒造米高竝名前書共委細帳面ニ認鑑札料相添上納之事

然レトモ當時草創ノ世政令未タ全國ニ洽ネカラス此布達ノ及フ所僅ニ洛中洛外山城國中寺社領ニ止マリ其他ノ諸國ニ至テハ酒造家ハ何等ノ制限ヲ受クルコトナクシテ盛ニ釀造販賣シ鑑札面ノ造石高ハ殆ント一ノ形式ニ過キサリキ然ルニ酒造ノモノタル固ト民生ニ須要ナル米穀ヲ消糜スルモノナルヲ以テ明治元年七月二十七日民政裁判所ヨリ先ツ關東諸縣ニ布達シテ事實ノ造石高ヲ申告セシメ願出ノ上ハ更ニ之ニ對スル鑑札ヲ附與スヘキコトヲ示シ且濁酒製造ニ付テモ從來ノ自由釀造ヲ許サス一樣ニ免許ヲ願出ツヘキ旨ヲ達シ尋テ八月十三日行政官布告ヲ發シテ當年ノ酒造石高ヲ免許造石高ノ三分ノ一ニ減額セシメタリ是レ蓋シ當時兵革相踵キ之ニ加フルニ風害水災並ヒ臻リ米價頻ニ昂騰セシヲ以テナリ又同月二十日更ニ會計官ヨリ布達ヲ發シ本年ハ凶歲ニ加フルニ軍事上ノ課役モ少カラサルノ故ヲ以テ特ニ一時冥加金卽營業免許料ヲ減額シテ酒造ノ分高百石ニ付金拾兩濁酒ノ分高百石ニ付金十二兩ト爲スヘキ旨ヲ達セリ其全文左ノ如シ

此度　朝政御一新ニ付テハ酒造等之儀高百石ニ付金二十兩ツヽトノ於京都被　仰出ニ付關東筋國々之儀モ同樣觸示候處當年柄水災凶作ノ聞モ有之或ハ軍事等ノ課役疲勞モ不少出格ノ御仁恤ヲ以一時冥加金酒造ノ分高百石ニ付金十兩濁酒之分同斷十二兩醬油造之分ハ同斷七兩ツヽ減少被　仰付候條其旨一同難有可有心得候尤年々冥加金之分ハ追テ可及沙汰候

十一月二十七日會計官達ヲ以テ特ニ關東諸國ニ限リ一時冥加金ノ外別ニ年々冥加卽チ一期營業稅百石ニ付金五兩ヲ併課セリ是レ關東ハ畿內ト其事情ヲ異ニシ他國ニ輸出セサルカ故ニ損害少ク運搬費ヲ要セス利潤隨テ多カルヘシト認メタルニ因ルナリ其布達ノ全文ハ左ノ如シ

酒造竝濁酒醬油造共假鑑札相渡置候分本鑑札相渡候間右三造人組合大總代外兩三人一同ノ印行持參會計官ヘ罷出候樣可被申渡候尤年々冥加金ノ儀酒造濁酒造ハ百石ニ付五兩宛醬油造ハ同斷金三兩宛當辰年分此節上納申付候ニ付右金子持參武藏國ハ十二月二日ヨリ出府可致其外國々ハ追テ出府日限可相達旨可被申渡候

而シテ右年々冥加ノ收納方ニ付テハ十二月三日會計官達ヲ以テ年々十月限リ大總代ヨリ取纏メ會計官ニ上納スヘキモノト爲セリ二年七月大藏省達ヲ以テ特ニ關東諸縣ニ對シ酒稅ニ關シテ稍〻詳密ナル規定ヲ置キ以テ其監督ヲ嚴ニセリ其規定左ノ如シ

今般關八州竝伊豆國御領私領社寺領共酒造濁酒造醬油造免許鑑札相渡候間最寄縣知事ニテ進退ノ筈ニ付取締差圖可請事

但樋尺員數相改其所役人竝村役人組合大小總代立合燒印据可申事

一　年々冥加金取集上納竝造方ノ儀ニ付都テ願筋等爲相任候總代大總代ハ是迄ノ通寄場村々組合親村ニテ觸元相心得右寄場村村內ニテ酒造濁酒兩造ニテ一ト組合醬油造一ト組合ト相定造人共ニテ人撰イタシ組合限一同ノ連印ヲ以總代名前取極可申出候事

但大小組ニ寄人別ニ應シ總代人數取調可申立代リ合候節モ前同樣其組合限造人連印ニテ名前申立藩縣添翰ヲ以可差出候尤大小總代共權威ケ間敷儀且願筋等ニテ出府其外組

合ヨリ過分失脚料爲出候儀於相聞ハ急度咎申可付事

一 過造隱造清酒ニ紛敷濁酒造致候モノ組合村々限遂穿鑿疑敷モノ於有之ハ早々最寄知縣事エ可申出候若隱シ置他ノ組合ヨリ名差於相顯ハ當人ハ勿論其組合一同ノ落度ニ候間村役人ニ至迄嚴重ノ咎可申付事

右三ケ條ノ趣竝御一新ニテ被　仰出候御觸ノ趣堅可相守モノ也

右ノ趣竝鑑札株高樋造藏間敷三造賣前直段共家內見安キ所ニ張出紙致置可申候事

曩ニ明治元年米價昂騰ノ故ヲ以テ酒造石高ヲ免許造石高ノ三分一ニ止メシメタリシカ明治二年亦諸國一般不作ノ爲メ米價愈昂騰セルヲ以テ酒造石高ノ三分一ニ低減スヘキ旨十一月三日民部省ヨリ全國ニ布達シタリ又同年十二月三日民部省ハ更ニ布達ヲ以テ全國ニ酒造竝濁酒造株鑑札渡方竝冥加上納方ヲ令達シ以テ酒造株鑑札冥加高年々百石ニ付各金十兩濁酒造株鑑札冥加高年々百石ニ付金七兩上納ノコトヽ爲セリ是他ナシ從來當稅法ノ行ハルヽ所ハ僅ニ近畿及關東諸縣ニ止マリ爾餘ノ諸國ハ依然各藩ノ舊規ヲ墨守シ其結果納稅額ノ如キ各地區々ニ亘リタルヲ以テ此ノ弊ヲ改メントセシニヨル其達文左ノ如シ

民部省達（明治二年十二月三日）

御國內酒造竝濁酒竝醬油造共株鑑札渡方並冥加上納等東京西京區々ノ規則ニ有之而已ナラス藩々ニ依リ候テハ無鑑札ニテ自造イタシ候向モ有之哉ニ相聞御體裁ニモ拘ハリ候儀ニ付今般御國內一途ノ法則左ノ通御確定相成候ニ付自今無鑑札ニテ製造一切停止被　仰付候間府藩縣ニ於テ其營轄所造高竝造人名前共早々取調通商司ヘ來午六月限リ可申立尙又冥加上納ノ義ハ

府藩縣

例年十一月限同司ヘ相納可申事

但別紙國割ノ通可相心得事

一 酒造株鑑札冥加高百石ニ付金十兩ツヽ上納ノ事

一 同斷年々冥加高百石ニ付金十兩ツヽ上納ノ事

一 濁酒造株鑑札冥加高百石ニ付金十兩ツヽ上納ノ事

一 同斷年々冥加高百石ニ付金七兩ツヽ上納ノ事

右之趣小前末々迄無遺漏可觸示候事

畿內　山城　大和　河內　和泉　攝津

南海道　紀伊　淡路　阿波　讚岐　伊豫　土佐

山陰道　丹波　丹後　但馬　因幡　伯耆　出雲　石見　隱岐

山陽道　幡磨　美作　備前　備中　備後　安藝　周防　長門

西海道　筑前　筑後　豐前　豐後　肥前　肥後　日向　大隅　薩摩　壹岐　對馬

右三十八箇國ハ大坂出張通商司ヘ可申立事

東海道　伊賀　伊勢　志摩　尾張　三河　遠江　駿河　甲斐　伊豆　相模　武藏　安房　上總　下總　常陸

東山道　近江　美濃　飛驒　信濃　上野　下野　磐城　岩代　陸前　陸中　陸奥　羽前　羽後

北陸道　若狹　越前　加賀　能登　越中　越後　佐渡

右三十五箇國ハ東京通商司ヘ可申出事

而シテ之カ取締方法ニ付テハ曩キニ關東諸縣ニ對シテ嚴密ノ規定ヲ設ケタリト雖モ當時戰亂ノ餘燼尙未タ全ク消失セス且各藩施設ノ政令民俗ニ浸染シ容易ニ一定ノ檢束法ヲ設クル能ハサルノ時勢ニ際會セルヲ以テ十二月二十日民部省布達ヲ以テ藩縣其管轄所限リ適宜取締方法ヲ設クヘキ旨ヲ令セリ而シテ又釀造高ニ付テハ前兩年共米價騰貴ノ故ヲ以テ免許高ノ三分一ニ限定シタリシカ明治三年ニ至リ米穀豐熟ナリシヲ以テ同年九月二十七日太政官布告ヲ以テ免許高ノ皆造ヲ差免セリ

第二項　酒造稅ノ第二期

前段述フル如ク維新以降政府ハ諸種ノ法令ヲ發シテ酒造稅ニ關スル規定ヲ設ケタリト雖モ主トシテ年ノ豐凶米價ノ高低ニ從ヒ造石高ニ制限ヲ加ヘ濫釀密賣ノ弊ヲ矯ムルヲ以テ目的トシ未タ之ヲ以テ好箇ノ一財源ト爲スノ域ニ達セス隨テ酒造業ヲ以テ株ヲ有スル者ノ專業ト爲シ株ノ賣買並ニ新規營業ノ如キハ勉メテ之ヲ抑制スルノ主義ヲ採レリ殊ニ明治二年十二月民部省布達ハ稅法ノ大體ヲ定メタルニ止マリ其取締ノ細目ノ如キ各地ノ適宜ニ一任シタルヲ以テ其適用全國畫一周到ナラサルノ虞アリ是ニ於テカ明治四年七月太政官布告ヲ以テ「清酒濁酒醬油鑑札收與並ニ收稅方法規則」ヲ制定シ以テ全國畫一ノ規定ヲ布キ併テ財源ノ涵養ヲ圖レリ今該規則ノ大要ヲ述フレハ舊來ノ株鑑札ヲ廢シ兼テ造石高ノ制限ヲ解キ新ニ免許ヲ受クル者ハ免許料トシテ清酒ハ十兩濁酒ハ五兩(但シ味淋白酒其外銘酒類ハ清酒ニ準ス燒失又ハ盜難等ノ爲メ再渡ヲ受クル者

ハ免許料ノ半額又其鑑札ヲ賣買スル者ハ證印稅トシテ賣價百分ノ二ヲ納メシメ別ニ免許稅及ヒ釀造稅ヲ定メ免許稅ハ造石數ノ多少ヲ問ハス稼人一人ニ付每年清酒ハ金五兩濁酒ハ金一兩二分釀造稅ハ清酒ハ其代金ノ五分(百兩ニ付五兩濁酒ハ其代金ノ三分(百兩ニ付三兩)トシ其他檢査法及ヒ罰則等ヲ定メタリ酒稅ニ關スル法規茲ニ至リテ稍ヽ備ハルヽニ至レリ該規則ノ全文左ノ如シ

布告(明治四年七月日闕)

清濁酒醬油釀造株鑑札渡方竝ニ稅則ノ儀是迄一定ノ成規無之間々無鑑札ニテ自釀爲致候向々モ有之哉ノ趣元來收稅ハ其事ヲ修治スルノ要費ニ供スルノ儀ニ候處右樣稅則及ヒ取締方法紛雜致シ候テハ其弊害不少ニ付今般改テ國內齊一ノ規則別紙ノ通確定相成候條自今以後無鑑札ニテ釀造不相成ハ勿論總テ成規ニ遵ヒ違犯無之樣各管轄廳ニ於テ取締可致候事

別紙

今般清濁酒其外銘酒類竝ニ醬油釀造御定稅則御改正被仰出從前ノ株鑑札都テ廢止致シ更ニ免許鑑札大藏省租稅司ヨリ引替可相渡間是迄渡シ置候鑑札ハ不殘府縣管轄廳ニ於テ取纏當未年十月限ニ同省ヘ可差出事

但鑑札一枚每ニ造人國郡村名前書小切ニ認メ且其管轄廳印ヲ押シ鑑札相添可差出事

一　是迄分ケ株ト唱ヘ一株ヲ二所或ハ三所ニ分ケ候者有之趣右ハ自今禁止候事

一　右分ケ株ヲ以テ釀酒致シ居候モノ今般改メテ相願候ハヽ新規鑑札下ケ渡候間願人姓名書相添前同樣可差出候事

一　向後新規稼致シ度望ノ者ハ其管轄廳ヘ願出次第姓名其外前同樣取調可差出事

一 右免許鑑札所持ノ者以來石數ノ定限無之釀造ノ手續ハ其年造込凡積石數銘々ノ力ニ應シ造主ヨリ八月晦日限リ爲申立各管轄廳ニ於テ其年柄勘辨ノ上釀造石數差定造高免許鑑札相渡シ置總體取纏石數名前等巨細認分ケ十月中大藏省租稅司ヘ可相屆事

但當未年ハ免許鑑札引換以前ノ儀ニ付從前ノ株鑑札ヲ以テ造込石數可爲申立事

一 造高免許ノ鑑札年々稼人ヘ下ケ渡方ハ各管轄廳ニ於テ造込石數聞屆候節別紙雛形ノ通認メ相渡可申事

一 免許料造高免許稅其外都テ各管轄廳ニ於テ綿密ニ簿冊ニ記入シ稼人幾個免許料何程造込石數何程造高稅何程ト各造人名面明細ニ認譯候調書右收稅金ニ相添年々十二月限リ府縣共直ニ大藏省ヘ相納可申事

一 管內若シ濫造ノ者有之候ハヽ別紙規則ニ從ヒ科料可申付尤モ右手續ハ調書ヲ以テ其節可相屆事

清酒濁酒醬油鑑札收與竝ニ收稅方法規則

第一則

一 新規免許鑑札願受候モノハ爲免許料清酒ハ金拾兩濁酒ハ金五兩醬油ハ金壹兩一分宛可相納尤モ味淋白酒其外銘酒類ハ清酒ノ通タルヘキ事

但右鑑札引替ノ分ハ免許料ニ不及候事

一 免許鑑札ハ來申年ヨリ每年八月其管轄廳ニ於テ相改メ可申萬一燒失或ハ盜難等ニテ失ヒ候者有之候節ハ事實取糺シ手續書ヲ以テ其段租稅司ヘ申立更ニ鑑札相下可申事

但燒失等ニテ更ニ鑑札相下ケ候ヘハ新規願受ケ候節ノ免許料ノ半高上納可致候事

一 造高ノ多少ニ不拘清酒ハ稼人一個ニ付金五兩濁酒ハ金一兩二分醬油ハ金二分ツヽ當未年ハ十月來申年ヨリ每年八月鑑札改ノ節免許稅トシテ可相納候事

但味淋白酒其外酩酒類ハ清酒ノ通タルヘキ事

一 造方休業致シ候者モ當未年ハ十月來申年ヨリ每年八月鑑札ノ改メヲ可申受其節御定則ノ免許稅可相納事

一 休業致シ候者免許鑑札返納相願候ハヽ免許稅ニ不及候事

第二則

一 免許鑑札賣買致シ度者ハ双方村町役人トモ連印ヲ以テ其管轄廳ヘ願出不相當無之候ハヽ其廳ニ於テ別紙雛形ノ通繼紙證文致シ免許可致事

但買請人國郡村名前書相添管轄廳ヨリ租稅司ヘ可相屆事

一 右鑑札賣買ノ節證印稅トシテ賣代金百分ノ二（但拾兩ニ付永二百文）相納可申事

第三則

一 每年八月免許鑑札改ノ節其年ノ造高申立造高免許ノ鑑札可相願事

但當未年ハ免許鑑札引替以前ノ株鑑札ヲ以テ可申立來申年以來ハ今年渡置候造高免許鑑札ヘ其年ノ造高ヲ別紙雛形ノ通小切ニ認糊付致シ可差出事

附昨年ノ造高免許鑑札燒失等ノ節ハ別段書面ヲ以可願出事

一 右ノ如ク當年造込願高認添候昨年ノ造高免許鑑札八月限リ差出候ヘハ各管轄廳ニ於テ其

年柄ヲ察シ國內ノ總造高ニ見比ヘ詮議ノ上相定メ九月限リ別紙雛形ノ通造高免許鑑札可相渡事

但本文鑑札ハ其管轄廳ニ於テ製造致シ候儀ト可心得候事

第四則

一 清酒ハ造高改トシテ時宜見計管轄廳ヨリ巡見造高相改可申事

但醬油ノ儀ハ五拾石以上造ヨリハ出役ノ上可相改事

一 濁酒ハ時々釀造可致ニ付支配役人ノ見分ニ不及尤造込ノ郡度釀造人ノ村町役人トモニ於テ見分致シ綿密ニ相改造高免許鑑札ノ數ニ不過樣可取締事

第五則

一 清酒并ニ酷酒類味淋白酒等生酒代金ノ五分（但金百兩ニ付金五兩）其所前年ノ酒價平均ヲ以テ爲釀造稅每年八月造高免許鑑札相願候節金高爲書出十月中可相納事

一 濁酒ハ右同斷ノ三分（但金百兩ニ付金五兩）前同樣ノ振合ヲ以テ可相納事

一 醬油ハ前同斷ノ五厘（但金百兩ニ付金二分）右同樣ノ振合ヲ以テ可相納事

第六則

一 免許鑑札無之自己ノ利益ヲ計リ商賣ノ爲メ密釀致シ候者於相顯ハ都テ其品取上ケ清酒酷酒ハ造高百石ニ付金七拾五兩（一石ニ付金三分）濁酒竝ニ醬酒ハ造高百石ニ付金二十五圓（一石ニ付金三分）ノ割ヲ以科料可申付候

一 其年ノ造高免許鑑札不願請自儘ニ釀造致シ候モノ於相顯ハ其釀造品ハ勿論兼テ相渡シ置

候免許鑑札ヲモ取上ケ且爲科料清酒酷酒類ハ造高百石ニ付金二拾五兩（一石ニ付金一分）濁酒竝ニ醬油ハ造高百石ニ付金拾兩（一石ニ付永百文ノ割ヲ以テ取立可申事

一 過造致シ候者ハ其過造ノ分ヲ取上ケ清酒酷酒類ハ造高百石ニ付金五十兩（一石ニ付金二分）濁酒竝ニ醬油ハ造高百石ニ付金二十五兩（一石ニ付金一分）ノ割ヲ以テ科料可申付事

但取上候諸品竝ニ釀造ノ分共入札拂可申付事

第七則

一 右樣取締相立候ニ付テハ向後規則ニ背キ候取計有之候者ハ都テ定則ノ科料金可申付若シ又村町役人等ニテ釀造人ノ賴ニ寄リ不正筋取計候カ又ハ不正筋ト乍存見遁シ候事共有之於相顯ハ相當ノ咎可申付事

一 稼人共不正筋有之候ヲ見付訴出候者ヘハ其品ニ從ヒ相當ノ賞譽可有之事

一 科料金竝ニ取上ケ品拂代總高百兩迄ハ五分通百壹兩以上ハ三分通（但百一兩ナレハ百兩迄ノ五分ト一兩ノ三分ヲ合セ五兩永三十文ノ割）取扱候者又ハ訴出候者ヘ褒美竝ニ爲手當被下候ニ付管轄廳ニ於テ相當ニ配給可致事

右之通規則相定候間各管轄廳ニ於テ成規ニ照準シ取締可致且收稅及ヒ科料金等ノ儀年々精細ニ調譯籍冊ニ記載シ其年十二月中府縣共大藏省ヘ可相納候事

但本文規則相立候ニ付テノ諸入費ハ府縣トモ一箇年試ノ上可申立事（書式略）

後幾許モナク十月十四日大藏省達ヲ以テ右規則第五則中ニ左ノ如ク增補セリ蓋シ該則ノ意義稍明亮ヲ闕キタルヲ以テナリ

酒造其外取締稅則第五則中增補

一 生酒代金五分ノ稅其所前年ノ酒價平均ト有之候者前年釀造致候生酒ノ稅ヲ當年取立候儀ニ有之卽チ當未年免許ヲ請釀造致候五分之稅者來申年八月前同樣之手續ニテ取立候事

但酒價平均ノ儀ハ前九月ヨリ翌年二月迄ノ平均ト可心得且其最寄相場相立候市町ニ於テ二ケ所或ハ三ケ所ノ相場平均可致儀ニ付兼テ其市町相定置可申事

一 生酒トハ卽チ釀成ノ上全ク賣出シ候升高ヲ以石數何程ト取調候儀ニ有之候事

譬ハ米高百石造込候ヘハ生酒何程ニ當ル哉ハ其管轄廳ヨリ造高改トシテ時宜見計巡見之節巨細相分可申事

右之手續ニ付當未年ハ規則之通免許稅而已取立候儀ト可相心得事

但清酒其外味淋白濁酒並醬油等總テ右ニ準候事

一 造高免許鑑札表面並其年造高免許願ノ認方左ノ通改定致事

（書式略）

德川氏ノ末葉以來諸國並近在ヨリ江戸ニ回送スル酒類ニ對シ酒樽拾駄ニ付二兩宛ノ冥加金ヲ市中酒問屋ノ取次ヲ以テ上納セシメタル慣例ハ延キテ維新ノ後ニ及ヒタリシカ今ヤ酒造稅法漸ク備ハルニ至レルヲ以テ此ノ如キ重複ノ課稅ハ須ラク之ヲ廢止セサル可カラス是ニ於テカ明治四年十一月二十二日太政官布告ヲ以テ自今右冥加金上納ヲ廢止スル旨ヲ令セリ越ヘテ明治六年一月十九日附開拓使伺ニ對スル同二月八日ノ太政官指令ヲ以テ前記規則中收稅ニ係ル分ハ北海道ニ限リ當分便宜ノ處置ニ任カスコトヽ爲セリ蓋シ北海道ノ地タル百事草創ニ屬シ內地ト同視ス

可カラサルモノアルヲ以テナリ尋テ同年十二月十二日大藏省達第百七十四號ヲ以テ酒造規則中鑑札下付及ヒ稅金上納期等ヲ左ノ如ク改正セリ

大藏省達第百七十四號（明治六年十二月十二日）

酒造規則中揭載有之候稅金其外上納期月ノ儀今般左ノ通

毎年

府縣廳ニ於テ免許鑑札改並造高免許鑑札下渡期月

十月中

新規免許料

造高免許稅

十月三十一日限府縣廳ヘ收入

十一月三十日限當省ヘ上納

但右期限後新規免許候者免許料並造高免許稅其年末ニ取纏上納致スヘシ尤モ上納帳內譯帳差出候後免許候者ハ翌年ヘ組込候儀ト可相心得事

清酒其外釀造諸稅內譯上納帳

清酒其外釀造石高帳

十二月二十五日限リ當省ヘ差出

但右期限後新規免許候者ノ釀造高並增減等有之候ハヽ其時々可屆出事

清酒其外平均相場期月

十月一日ヨリ六月三十日マデ九箇月間平均相場
八月三十一日限リ當省ヘ右相場書差出

醸造稅

四月三十日限前年平均相場之比例ヲ以醸造高之內凡半方府縣廳ヘ收入取計六月三十日迄ニ當省ヘ上納殘金之儀ハ七月ニ至リ平均相場確定決算之上收入取掛リ九月三十日限リ當省ヘ皆濟上納可致事

右之通改正相達候條本年ヨリ右期月之通相心得無遲滯差出可申此旨更ニ相達候事

而シテ腐敗酒ノ取締ニ付テハ從來ノ規則中別ニ明文ナカリシヲ以テ七年四月四日島根縣ヨリ大藏省ニ伺出タルニ對シ同月十九日腐敗酒中賣却ノモノニ限リ凡テ賣價ノ五分ヲ收稅スルモノトセリ

第三款　酒造稅ノ第三期

酒造稅ニ關スルノ規定ハ明治四年ヲ以テ大ニ其面目ヲ改メ爾來同年ノ發令ニ係ル規則ニ基キ種々實施ニ關スル令達ヲ爲シ以テ勉メテ稅法ノ改善ヲ圖リタリト雖モ之ヲ實績ニ徵スルニ未タ缺點ナキ能ハス卽チ從來ノ規定ニ於テハ免許料免許稅ノ兩者重複スルノミナラス夫ノ貧民ノ飲料ニ供スル濁酒ニ課稅スルニ拘ラス酒類請賣業者ニ至テハ未タ何等ノ負擔スルモノナク彼此頗ル權衡ヲ得サルモノアリ加フルニ連年酒造石高增加ノ傾向アリテ益々稅則改正ノ必要ヲ生セリ是ニ於テカ明治八年二月二十日布告第二十六號ヲ以テ更ニ酒類稅則ヲ制定シ免許料ヲ廢シ免許稅

ヲ倍課シテ之ヲ酒造營業稅ト改メ濁酒ノ課稅ヲ免シテ酒類請賣業者ニ營業稅ヲ賦課シ從來追加又ハ伺指令等ニ依リ僅ニ增補シ來レル事項ニシテ明定ノ必要アルモノハ之ヲ該稅則中ニ網羅セリ而シテ本稅則ニヨル稅額ハ酒造營業稅酒類一種ニ付一期金拾圓酒類受賣營業稅一期金五圓醸造稅賣捌代價ノ十分一ナリトス稅則ノ全文左ノ如シ

太政官布告第二十六號（明治八年二月二十日）

明治四年七月布告酒造取締竝ニ稅則及ヒ追々增補等ノ條共本年九月三十日限リ相廢シ更ニ酒稅規則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但濁酒醬油醬麴ノ稅ハ本文同日ヨリ相廢シ候事

酒類稅則

第一則　營業稅　醸造稅

第一條　清酒味淋燒酎白酒酪酒（米雜穀果實何品ニ限ラス醸造シ又ハ蒸溜シテ酒トナスモノ一切）酒造營業又ハ請賣（他ヨリ受賣候モノ）營業致度者ハ其管轄廳ヘ申立免許鑑札ヲ受ケ一期ノ營業稅トシテ一期毎ニ左ノ通上納可致事

酒造營業稅　壹種ニ付　金拾圓

酒類請賣營業稅　金五圓

但營業免許ノ期限ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以一期ト相定候條右一期中何月ニ新規營業候共營業免許ノ節其一期分ノ金額ヲ直ニ納稅可致事

第二條　酒造營業ノ者ハ酒類賣捌代價拾分ノ一（金壹圓ニ付拾錢）醸造稅トシテ年々上納可致事

但價額ハ前年十月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ平均相場ヲ以管轄廳ニ於テ相定候事

第三條　釀造稅納期ハ毎年四月三十日限リ凡半方前年平均相場比例ヲ以テ定ム管轄廳ヘ上納殘金ハ七月ニ至リ平均相場確定ノ後上納九月三十日限リ管轄廳ヘ皆濟可致事

第四條　酒造營業ノ者ハ其一期造石高見込ノ石數毎年十月中管轄廳ヘ可屆出事

但營業初年ハ免許鑑札ヲ受候節直ニ其一期中造高見込ノ石數可屆出事

第五條　請賣營業ノ者ハ酒類請賣所ト書タル看板ヘ免許鑑札ノ番號ヲモ書加ヘ戶外ニ揭ケ可申事

第二則　鑑札檢査　釀造檢査

第一條　免許鑑札ハ毎年十月中管轄廳ニ於テ檢査ヲ遂ケ其一期免許濟ノ證トシテ鑑札裏面ニ干支ノ印ヲ押シ可相渡候條管轄廳ヨリ相達次第鑑札差出檢査ヲ受ケ營業稅上納可致事

但廢業ノ者ハ其節鑑札返納致可事

第二條　免許鑑札若シ水火盜難等ニテ失却候節ハ其旨管轄廳ヘ屆出新規鑑札可申受事

但手數料トシテ金貳拾錢可相納事

第三條　免許鑑札ハ貸借決シテ不相成事

但免許鑑札賣買讓與又ハ改名代替轉居等ノ節ハ其旨管轄廳ヘ申立候ハヽ鑑札引換可相渡尤前條手數料金貳拾錢可相納事

第四條　酒類拾石以上釀造高檢査トシテ時宜見計管轄廳主任ノ官員巡視可致候條檢査前ハ一切賣捌不相成事

但釀造高拾石以下並ニ拾石以上タリトモ季節ニ不拘釀造蒸溜ノ酒類ハ官員巡視ヲ待ニ及ハ

ス區戶長ニ於テ精覈檢査ヲ遂ケ其時々石數屆出候上ハ賣捌不苦事

第五條　釀造稅管轄廳ヘ上納皆濟期限前非常ノ災害或ハ腐敗等ノ儀有之節ハ其旨直ニ管轄廳ヘ屆出主任ノ官員檢査ノ上他ノ品類ニ變製シ販賣スル者ハ其賣代價拾分ノ壹ヲ上納シ全ク廢棄ニ至ル者ハ其石數ニ係ル釀造稅上納ニ不及事

但檢査濟ノ腐敗酒ヲ以テ有稅ノ酒類ニ變製候共其酒類ニ屬スル營業稅ハ別段上納ニ不及事

第六條　若シ非常ノ災害或ハ腐敗等ノ儀其節屆出スシテ檢査ヲ受ケサル者ハ既ニ屆出タル石數ヲ以テ釀造稅上納可致事

第三則　賞罰例

第一條　免許鑑札ヲ受ケス密造營業致シ候者ハ其酒類ハ勿論器械共取上ケ一石ニ付金七拾五錢ノ割ヲ以テ科料可申付事

但密造酒既ニ賣捌候ハヽ其代金取上ケ可申事

第二條　免許鑑札借受酒造營業致シ候者ハ前條密造同樣處分致シ貸渡候者ハ鑑札取揚ケ借受候者ト同樣ノ科料可申付事

第三條　釀造高檢査ヲ受ケス又ハ檢査ノ際釀造高ヲ隱蔽シ賣捌候者ハ其賣代金取上ケ密造同樣ノ科料可申付事

第四條　免許鑑札ヲ受ケス請賣營業致シ候者ハ一期營業稅五倍ノ科料可申付事

第五條　免許鑑札ヲ借受ケ請賣營業致シ候者ハ前條同樣ノ科料申付貸渡シ候者ハ鑑札取揚ケ借受候者ト同樣ノ科料可申付事

第六條　區戶長ニ於テ檢査ノ節不正ノ取計致シ候歟或ハ不正ノ情ヲ知リ見遁シ候儀有之ニ於テハ律ニ照シ處分可致事

第七條　前條々ニ揭ケタル處ノ犯則人ヲ見屆訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ科料金竝取上品拂高金拾圓ニ付壹圓宛下サルヘキ事

尋テ五月二十九日大藏省達乙第七拾六號ヲ以テ右改定稅則ニ基キ酒類稅則取扱心得書ヲ定メ葡萄酒麥酒ノ類ニ限リ當分釀造稅ヲ免シテ營業稅ヲ徵シ酒類受賣營業稅等ニ關スル件ヲ規定セリ其全文ハ左ノ如シ

大藏省達乙第七拾六號（明治八年五月二十九日）

本年二月第二十六號ヲ以テ酒類稅則御布告相成候ニ付別紙取扱心得書相達候各府縣區々無之樣可取計此旨相達候事

酒類稅則取扱心得書

第一條　酒造營業免許鑑札竝酒類請賣營業免許鑑札ハ凡積ヲ以テ租稅寮ヘ受取方可申出事

第二條　酒造營業稅之儀ハ其釀造セル種類ニ應シ壹種每ニ金拾圓宛ノ營業稅ヲ課シ請賣營業稅之儀ハ一家幾種類ヲ請賣候共金五圓ヲ課シ何レモ年々收稅可致事

第三條　酒造營業ノ者ハ酒類賣捌代價ノ拾分ノ壹釀造稅トシテ年々上納スル成規ニ候處葡萄酒竝麥酒（ビール、ポーター、エール）之類ニ限リ右釀造稅之分ハ追テ相達候迄當分免除之積リ取計可申候尤營業稅ハ成規之通收入可致事

第四條　酒類受賣ハ內外國產ニ不拘一切他ヨリ買取賣捌營業候者ヘハ假令他ノ業體相兼候分

トモ總テ受賣免許鑑札相渡可申事

但藥店ニ於テ藥用ノ爲メ賣買候分竝飲食店ニ於テ相用候分ハ此限ニ非ス

第五條　釀造稅收入ニ相用フル酒價平均之儀ハ土地ノ景況ニ寄リ酒價高低ノ類別ヲ以テ豫テ管內ヲ二部或ハ三部ト適宜ニ組合相定置新酒古酒ヲ問ハス甲年十月一日ヨリ乙年六月三十日迄賣却スル處ノ上酒眞價ヲ以月々相場書差出サセ一組每ニ平均シ一期釀造稅收入ニ用フル相場ヲ定メ酒造人ヘ相達スヘシ且右平均相場ハ八月三十一日限リ租稅寮ヘ可屆出事

但月々差出ス處ノ相場書若シ其當ヲ得サルモノアレハ賣買仕切書ヲ臨時檢査シテ其價額ヲ定ムヘシ

第六條　酒造桶類卽今所持ノ分ハ勿論自今新調竝輸換減縮等ノ分共爲屆出主任官員巡廻調査之上其側面ヘ左之件々ヲ揭載可致事

一　番號

二　口徑何程

三　底徑何程

四　深サ何程（但地震用心ノ爲メニ三寸ヲ減ス）

五　石數何程

六　調査ノ年號月日

七　調査人官姓名

八　縣廳燒印

第七條　每年釀造高檢査ノ節ハ每桶揭載ノ石數ヲ以テ總テ石數ヲ定ムル事

第八條　蒸溜酒類ニ用フル瓶之類ハ第六條ニ準シ調査方實際適宜ヲ以取極ムヘキ事

第九條　桶類ノ石數ニ充タサル減石ヲ造込シ分ハ其現實石數ヲ豫メ酒造人ニ爲申立尙實際ニ於テ檢査ヲ遂クヘキ事

第十條　營業稅ハ十月三十一日限リ各廳ヘ收入十一月三十日限リ租稅寮ヘ相納メ手數料ハ鑑札書換引替之都度取立翌月々末限リ租稅寮ヘ可相納事

第十一條　釀造稅ハ規則之通凡半方四月三十日限リ收入五月三十一日限リ租稅寮ヘ相納メ殘金ノ儀ハ九月三十日限リ收入十月三十一日限租稅寮ヘ可相納事

第十二條　酒類釀造請賣諸稅帳ハ十一月三十日限リ酒類營業人員竝釀造元石高帳ハ十二月二十五日限リ租稅寮ヘ可差出事

但一旦屆濟ノ石高增減有之分竝右期限後新規免許候者ノ釀造元石高ハ其時々屆出ヘシ

第十三條　免許鑑札檢査シ營業稅取立之節相用フル干支ノ印ハ乙亥收稅調ノ如ク各廳ニ於テ彫刻致置相用可申事

第十四條　免許鑑札每年檢査ヲ遂ケ其年々相當セル干支ノ印ヲ裏面ヘ押印シ餘白盡キタル上ハ更ニ新鑑札引換相渡スヘシ尤手數料取立ニ及サル事

第十五條　酒類釀造請賣免許鑑札元拂計算帳ハ十一月三十日限リ租稅寮ヘ可差出事

但廢業竝引換ノ舊鑑札ハ甲年十月ヨリ乙年九月迄ノ分取纏メ租稅寮ヘ返納致スヘシ

然ルニ右規則取扱心得書中第十二條ニ每年十二月二十五日限リ釀造元石高帳ヲ租稅寮ニ差出ス

可キ旨ヲ規定シタルモ元來釀造元高ヲ屆出テシムルハ之ニ因リ製成石高ヲ窺知セントスルニ外ナラサルヲ以テ寧ロ直ニ製成見込石高ヲ申告セシムルノ便宜ナルニ若カスト爲シ同年七月十九日大藏省達乙第九十九號ヲ以テ同條中釀造元石高トアル「元」ノ字ヲ削除セリ尙ホ心得書第五條ノ意義ヲ明瞭ナラシメンカ爲メ同年九月十二日大藏省達乙第百二十二號ヲ以テ同條中新酒古酒ノ下ニ「卸賣小賣」ノ四字ヲ加ヘ又三十日迄ノ下ニ「酒造家ニ於テ」ノ六字ヲ加ヘタリ而シテ又改定稅則中酒造營業者カ釀造場ニ於テ買入酒ヲ賣捌キ若クハ釀造場外ニ於テ其釀造酒ヲ賣捌キタル場合又酒造營業者カ一構釀造場ノ外更ニ釀造場ヲ設ケ或ハ受賣營業者カ一個ノ賣酒店ノ外別ニ賣酒店ヲ設クル場合ニ於ケル明文ヲ缺キタルヲ以テ之カ明定ノ必要ヲ認メ同年七月二十二日布告第百二十二號ヲ以テ稅則第一則中ニ左ノ如キ追加ヲ爲セリ

布告第百二十二號（明治八年七月二十二日）

本年二月第二十六號布告酒類稅則第一則中左ノ通追加候條此旨布告候事

第六條　酒造營業免許ノ者自己釀造ノ外他ヨリ買受釀造場ニ於テ賣捌クトモ更ニ受賣營業稅上納ニ不及事

第七條　酒造營業免許ノ者一構釀造場ノ外別ニ釀造場ヲ設クル時ハ其場所每ニ更ニ酒造營業免許鑑札相受可申事

第八條　酒造營業免許ノ者釀造場外ニ開店シ右釀造ノ酒類ヲ賣捌ク時ハ受賣ニ準シ受賣營業免許鑑札相受可申事

第九條　酒類受賣營業免許ノ者一箇賣酒店ノ外別ニ賣酒店ヲ設クル時ハ其店每ニ更ニ受賣營

業免許鑑札相受可申候事

斯クテ改定稅則ハ是年十月一日以降實施セラレタリシカ該則ニ於テハ濁酒稅ハ特ニ小民ノ快樂ヲ奪フノ虞アルヲ以テ斷然之ヲ免稅シタリ然ルニ時勢ノ進歩ト共ニ製法モ亦進化シ粗惡ナル精酒トハ殆ント逕庭ナク課稅上彼此權衡ヲ失スルノミナラス濁酒ノ釀造益々多キヲ加フルト共ニ精酒ノ販路漸ク狹塞セラレ隨テ財政上ニ影響ヲ及ホスニ至リタルニ因リ明治十年十二月五日布告第八十一號ヲ以テ濁酒ニ課稅スルノ件ヲ定メ併セテ從來受賣營業稅ハ卸小賣ノ區別ヲ爲サス一樣ニ同額ヲ課シ隨テ其負擔甚タ權衡ヲ得サリシヲ改メテ之ニ差等ヲ附スルコトヽ爲セリ該布告ノ全文左ノ如シ

布告第八十一號（明治十年十二月五日）

明治八年二月第二十六號布告酒類稅則中左ノ通改正追加候條此旨布告候事

一 濁酒釀造營業ノ者ハ免許鑑札申受ケ營業稅每一期ニ付金五圓釀造稅賣捌代價貳拾分ノ壹（金壹圓ニ付金五錢）年々上納可致事

一 酒類受賣營業ノ者從來卸小賣ヲ論セス金五圓ツヽ課稅候處向後卸賣ハ金拾圓小賣ハ金五圓年々營業稅トシテ上納可致事

但卸賣營業鑑札ヲ受ケ小賣ヲ兼候者ハ別段小賣營業鑑札ヲ願受クルニ及ハスト雖モ小賣營業鑑札ヲ受ケ卸賣ヲ兼候者ハ不相成候事

一 酒類營業人ノ中行商ヲナス者ハ行商鑑札其管轄廳ヨリ申受ケ必ス提携可致尤一戶一枚ニ限ラス願ニ依リ何枚ニテモ可相渡候鑑札料ハ每枚ニ付金拾錢ツヽヲ上納可致事

一 酒類ヲ請賣スル者ハ假令飲食店ト雖モ請賣鑑札申受ケ營業稅上納可致事

一 行商鑑札ハ貸借決シテ不相成候條若貸借スル者アルトキハ其鑑札取上枚數ニ應シ鑑札料拾倍ツヽノ科料可申付右鑑札ヲ所持セスシテ行商ヲナス者ハ鑑札料貳拾倍ノ科料可申付事

右酒類稅則中改正ニ伴ヒ其取扱方ヲ定ムル必要アリ四月十三日左ノ如ク之ヲ布告セリ

大藏省達乙第四十二號（明治十年十二月十三日）

今般第八十一號ヲ以テ酒類稅則中改正追加公布相成候ニ付取扱方左ノ通可相心得此旨相達候事

一 明治八年五月乙第七十六號達酒類稅則取扱心得書第四條但書除去候事

一 濁酒營業免許鑑札ハ製調之上追テ相渡候條凡積ヲ以テ租稅局ヘ受取方可申出尤差向各廳ニ於テ適宜假鑑札ヲ製シ相渡置本鑑札受取之上引換相渡可申事

一 酒類行商鑑札ハ第一號圖ノ如ク各廳ニ於テ木札ヲ製シ相渡可申事

但本文鑑札失却スル歟又ハ改名代換リ等ニテ引換願出候ハヽ更ニ鑑札相渡定規ノ鑑札料每一枚ニ付金十錢ツヽ可收入事

一 酒類受賣鑑札ニハ第二號圖ノ如ク各廳ニ於テ彫刻シ受賣鑑札表面ノ右側ヘ加押シ相渡可申事

一 各酒釀造稅ニ用フル酒相場之儀ニ付曾テ組合相定何郡々々ト一組ニ相成居候分每組何號トナシ其地名等委詳可屆出又實際ノ都合ニ因テ組合變更候節者其都度可屆出事

一 明治八年六月乙第八十四號達中酒類營業人員並釀造石高帳內譯認方ハ第三號書式之通リ

酒類醸造受賣諸稅帳之內酒類受賣營業稅之廉內譯認方ハ第四號書式之通リ改正候事

一 各酒醸造稅ニ用フル每一石平均相場伺出之節ハ第五號書式ニ照準可致事

但自家醸造之酒類ヘ他醸之酒類ヲ調合賣出シ候分ト雖モ本文平均相場ヘ算入可致事

一 酒類受賣所看板之儀ハ卸賣小賣之區別判然ト認替戶外ヘ掲ケサセ可申事

（書式略）

上來叙述シタルカ如ク酒類ノ課稅方法ニ付テハ明治四年及ヒ八年ノ兩度ニ於テ大ニ改正ヲ施シタリト雖モ其標準ヲ賣買價格ニ取ルコトニ至テハ依然トシテ易ルコトナカリキ然ルニ課稅標準ヲ賣買價格ニ取ルハ醸造稅トシテハ決シテ其宜シキヲ得タルモノト云フ能ハス蓋シ酒類賣買價格ハ各地固ヨリ相當時價ナキニ非ラスト雖モ品位ノ如何ニヨリ均等ナラサルヲ以テ勢ヒ營業者ノ申告ヲ以テ憑據ト爲サヽルヘカラス然ルトキハ虛陳百端容易ニ其實ヲ得サルノ結果自然歲入上ニ減額ヲ來スノ憂アルノミナラス價格ノ高低常ニ其變動ヲ免レサルヲ以テ國庫收入ノ豫算額ヲ知ルノ上ニ於テ甚シキ不便ヲ來スヘシ是ニ於テ明治十一年九月二十八日布告第二十八號ヲ以テ酒類稅則中ヲ改正シ醸造稅ヲ賣買價格ニ比例セシムルノ法ヲ廢シ其造石高ニ對シテ課稅スルノ法ニ革メタリ殊ニ從來取締ノ方法ニ就テモ行政機關ノ不備ナルカ爲メ檢査自ラ周密ヲ缺キ拾石以下ノ小酒造家ノ檢査ハ擧テ之ヲ各町村區戶長ニ委シ尙且相互訐告ノ法ヲ設ケ兼テ當局官吏ノ煩勞ヲ省キタルヲ以テ其間事情纏綿逋稅ノ獘百出セルヲ以テ併セテ之ヲ改メ向後ハ凡ヘテ主任官吏之ヲ檢査スルコトヽシ器具機械ノ使用檢査未濟ノ酒類處分方ニ付テモ詳細ナル檢束法ヲ設ケタリ此改正ハ實ニ酒造稅ニ一大革新ヲ與ヘタルモノニシテ其改正布告ノ全文ハ左ノ如シ

布告第二十八號（明治十一年九月二十八日）

明治八年二月第二十六號布告酒類稅則同年七月第百二十二號布告同則追加十年十二月第八十一號布告同則追加共更ニ左ノ通改正追加シ本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

明治八年第二十六號布告酒類稅則

第一則中

第二條 酒造營業免許ヲ受ケタル者ハ其造石數ニ應シ醸造稅トシテ年々左ノ通上納可致事

一 清酒 壹石ニ付 金 壹 圓

一 濁酒 同 金 參拾錢

一 白酒 同 金 貳 圓

一 味淋 同 金 貳 圓

一 燒酎 同 金壹圓五拾錢

一 銘酒 同 金 參 圓

第三條 醸造稅ハ每年四月三十日限リ見込屆石數ニ相當スル稅金ノ半額ヲ上納シ殘餘ハ九月三十日限リ皆納可致事

第二則中

第四條 造酒ハ地方廳主任官員檢査可致候條其時宜可屆出候事

但本文檢査ノ外主任官員臨時巡回シ酒もと並ニもろみ其他酒造ニ用フル元米等ヲ檢査スルコト可有之事

第五條　釀造稅地方廳ヘ上納皆濟期限前非常ノ災害或ハ腐敗等ノ儀有之節ハ其旨直ニ地方廳ヘ屆出主任ノ官員檢査ノ上他ノ有稅酒類ニ變製スルトキハ更ニ其酒類ニ屬スル釀造稅ヲ上納スヘシト雖モ全ク廢棄ニ至ルモノハ其石數ニ係ル釀造稅上納ニ不及候事

但檢査濟ノ腐敗酒ヲ以テ有稅ノ酒類ニ變製候共其酒類ニ屬スル營業稅ハ別段上納不及候事

第七條　酒造營業免許ノ者ハ檢査未濟ノ酒類ヲ販賣シ又ハ自家ノ飲料贈物等ニ供シ候儀ハ不相成候事

但檢査ノ後自飲等ニ供スル分ト雖モ其釀造稅ハ免稅不致候事

第八條　清酒搾リ器械ヘハ主任官員ノ封印ヲ附シ置キ常ニ之ヲ用フルヲ許サス候條使用ノ節ハ其旨屆出開封ヲ請フヘキ事

第三則中

第六條　檢査ノ際其造石數ヲ隱蔽シ未タ賣捌カサル者ハ其酒類ヲ取揚タル上壹石ニ付金七拾五錢ノ割ヲ以テ科料可申付事

第七條　造石檢査未濟ノ酒類ヲ自飲ニ用フル者アル時ハ其石數ニ係ル釀造稅ヲ徵收スルハ勿論壹石ニ付金七拾五錢ノ割ヲ以テ科料可申付事

第八條　檢査官ノ許可ヲ得スシテ猥リニ器械ノ封印解披スル者ハ金拾五圓以下六圓以上ノ科料可申付事

明治八年第百貳拾貳號布告同追加ノ中

第六條　酒造營業免許ノ者ハ何種類ヲ問ハス他家ノ造酒ヲ買受ケ販賣スルニ於テハ受賣營業稅可相納事

第七條　削除

明治十年第八拾壹號布告追加ノ中

第一項中(釀造稅賣捌代價貳拾分ノ壹付五錢ニ年度)ノ貳拾壹字ヲ削除ス

尋テ右改正ノ結果トシテ十一年十月二十二日大藏省達乙第五拾壹號ヲ以テ酒類稅則取扱心得書中改正ヲ加ヘ其第三條及五條ヲ刪除シ更ニ左ノ如キ增補ヲ爲セリ

大藏省達乙第五拾壹號（明治十一年十月二十二日）

今般第貳拾八號ヲ以テ酒類稅則改正增補ノ儀公布相成候ニ付テハ明治八年五月當省乙第七拾六號達酒類稅則取扱心得書第三條及ヒ第五條同拾年十二月當省乙第四拾貳號達同則取扱心得書第五項第七項刪除シ更ニ左ノ通增補候條此旨相達候事

酒類稅則取扱心得增補

一　釀造檢査ハ收稅ノ基礎ヲ定ムル要件ニ付キ酒造家ニ於テ所用ノ諸帳簿ハ勿論其他遺漏無之樣精覈檢査ヲナスヘキ事

一　釀造檢査前ニ於テ隱蔽等ノ奸ナカラシメンカ爲メ既或ハ醪檢査トシテ主任官員臨時派出檢査ヲナスヘキ事

但醸造方法及仕込米ノ石數等爲申立置醸造檢査ノ便ニ供スヘキ事

一 醪又ハ醸造檢査着手ノ季節ニ至レハ豫メ土地ノ景況ヲ斟酌シ粗區域ヲ定メ置キ主任官員出張致シ居リ酒造人ノ申立次第搾リ器械ノ開封竝ニ封印等ニ至ルマテ諸事不取締無之樣取計ヒ申スヘキ事

一 酒もと竝もろみ檢査濟ノ後未タ醸造檢査之ナキ前ニ於テ非常ノ災害ニ罹ルカ若シクハ腐敗等ノ儀有之節ハ直ニ其旨屆出サセ不取締無之樣取計ヒ申スヘキ事

一 酒造營業人ニシテ酒造桶類ニ濾ク而已ニ蒸餾スル燒酎味淋白酒銘酒等ノ製造元ニ用フル爲メニ醸造又ハ蒸餾スル酒類ニ限リ其營業稅竝ニ醸造稅共收入ニ及ハサル事

但本文醸造又ハ蒸餾ノ酒類ハ其右數屆出サセ詳密檢査ヲナスヘキ事

一 古酒竝ニ買入レ酒ハ適宜取締方法ヲ設ケ該期醸造ノ酒類ト區分相立申スヘキ事

一 酒造免許ノ者廢業ノ後猶其殘酒ヲ販賣スルトキハ更ニ受賣免許鑑札ヲ下附スヘキ事

一 葡萄酒及ヒ麥酒（ビール、ユール、ポール、トル、）ノ類ハ營分ノ內醸造稅收入ニ及ハスト雖モ營業稅ハ成規ノ通收入スヘキ事

是ヨリ先キ明治十年十二月布告第八十一號ヲ以テ酒類卸賣小賣ノ間ニ營業稅額ノ區別ヲ設ケタリシカ奸商ノ輩小賣ノ名義ヲ以テ其實卸賣ヲ營ムモノ少カラス斯ノ如キハ畢竟右兩者ノ區別ノ判然タラサルニ座スルモノト認メタルヲ以テ明治十一年十二月二十日大藏省達乙第六十七號ヲ以テ二者ノ差異ヲ明ニシ酒類營業人ニ賣渡スモノヲ卸賣トシ自用人ノミニ賣渡スモノヲ小賣トスルコトヽ爲セリ而シテ明治十年布告第八十一號中酒類受賣營業ノ件ニ關シテハ同年十月大藏

省達乙第四十五號ヲ以テ飲食店等ニテ酒類ヲ買入置キ客ニ供スル者ハ酒類受賣鑑札ヲ受ルヲ要スル旨ヲ公布シタリシカ明治十二年一月十七日大藏省達乙第四號ヲ以テ自今來客ノ自ラ提携セルモノヽ外酒類ヲ來客ニ供スル飲食店等ハ總テ酒類受賣鑑札ヲ受ケシムヘキ旨ヲ達セリ

且ツ從來民間ニ於テ酒類ニ藥品ヲ配合シテ販賣スルモノアリ其ノ賣藥ニ屬スルヤ果シテ酒類ニ屬スルヤニ付テハ由來一定ノ分界ナカリシカハ或ハ地方ニヨリテハ之ニ賣藥鑑札ヲ下附シタルモアリキ是ニ於テカ豫メ之ニ關シテ一定ノ標準ヲ設クルノ必要ヲ認メ明治十二年二月二十六日內務大藏兩卿連署乙第十二號ヲ以テ別記ノ品類ヲ除クノ外ハ總テ酒類稅則ニ據ルヘキモノト定メタリ

大藏省達乙第十二號（明治十二年二月二十六日）

從來酒類ニ藥品ヲ配伍シ販賣候者ハ賣藥免許鑑札下附致來候向モ有之候處右ハ醫藥ニ供スル別紙記載ノ品類ヲ除クノ外酒類ヲ和シ飲料ニ供スルモノハ假令藥品ヲ配伍スト雖モ總テ酒類稅則ニ據リ課稅可致就テハ是迄下附致居候鑑札ハ返納致サセ可申此旨相達候事

但鑑札返納ノ上ハ其品目內務大藏兩省ニ屆出ツ可シ

精劑

酒精　桂皮精
再溜酒精　枸櫞皮精
ホフマン氏鎭痛液　山蔦菜精
甘鹽精　蟻精
迷迭香精
石鹼精
セルヒルリ精
芥子精

甘硝石精
礦砂精
礦砂加阿魏精
複方白芷精
アネース精
芳香精
芳香礦砂精
複方アルモラシア精
カヤフーテ精
龍腦精
コロヽフォルム精

丁幾

亞爾薩丁幾
複方亞爾薩丁幾
芳香酸丁幾
双鸞菊丁幾
蘆薈丁幾
複方蘆薈丁幾(蘆薈沒藥丁幾)
杜松子精
複方杜松子精
ラーヘンデル精
複方ラーヘンデル精
檸檬精
複方マスチック精
英國縮葉薄荷精
椒性薄荷精
薄荷精
ミールシア精
肉豆蔻精
苦味丁幾
ボーメ氏苦味丁幾
アルニカ丁幾
芳香丁幾
阿魏丁幾
亞的兒製阿魏丁幾
双鸞菊精
萆茇精
失鳩答精
實茇答利精
非沃斯精
萵苣精
蕃木鼈精
アルニカ精
コロシクム實精
橙皮精
橙皮丁幾
新鮮橙皮丁幾
バルサム丁幾
萆茇丁幾
安息香丁幾
複方安息香丁幾

ピユッコ丁幾
泥菖丁幾
コロンボ丁幾
複方龍腦丁幾
亞的兒製龍腦丁幾
芫菁丁幾
亞的兒製芫菁丁幾
蕃椒丁幾
益智丁幾
複方益智丁幾
カスカリルラ丁幾
亞的兒製カストル丁幾
カナタ產カストル丁幾
シピリア產カストル丁幾
阿仙藥丁幾
褐色機那丁幾
赤色機那丁幾
複方機那丁幾
キノイジネ丁幾
キラタ丁幾
複方コロロホルム丁幾
黃色機那丁幾
桂皮丁幾
コーンネール丁幾
コルシクム丁幾
コロシント丁幾
失鳩答丁幾
サフテン丁幾
畢澄茄丁幾(キユベバ丁幾)
石鹼丁幾
複方アルモラシヤ丁幾
ジキタリス丁幾
亞的兒製ジキタリス丁幾
續隨子丁幾
榲桲丁幾
錯酸鐵丁幾
鹽化鐵丁幾
亞的兒製鹽化鐵丁幾
林檎酸鐵丁幾
沒食子丁幾
ゲンチアナ丁幾
複方ゲンチアナ丁幾
癒瘡木丁幾
揮發性癒瘡木丁幾(礦砂加癒瘡木丁幾)
綠黎蘆丁幾
ヘレニー丁幾
忽布丁幾
ヒオス丁幾
ヨジウム丁幾
複方ヨジウム丁幾
脫色ヨジウム丁幾
吐根丁幾
ヤーラツバ丁幾

複方ヤーラッパ丁幾
キノ丁幾
ラタニア丁幾
ラリシス丁幾
複方ラーヘンデル丁幾（ラーヘンデル丁幾）
檸檬丁幾
ロベリア丁幾
亞的兒製ロベリア丁幾
リユプリニア丁幾
肉豆蔻丁幾
亞的兒製肉豆蔻丁幾
麝香丁幾
沒藥丁幾
揮發鹽化鐵丁幾（ベスチユヘフ氏經丁幾）
蕃木鼈丁幾
阿片丁幾
安息香阿片丁幾
含電華謨氏阿片丁幾
單阿片丁幾
脫臭阿片丁幾
礦砂精加阿片丁幾
地楡丁幾
複方松芽丁幾
ピレトリユム丁幾
括失亞丁幾
規尼涅丁幾
礦砂精加規尼涅丁幾
ヤーラバ脂丁幾
大黃丁幾
水製大黃丁幾
酒製大黃丁幾
大黃加旃那丁幾
サビナ丁幾
麒麟血丁幾
海葱丁幾
加里加海葱丁幾
麥奴丁幾
遠志丁幾
旃那丁幾
セルペンタリア丁幾
複方スピランチス丁幾
蔓陀羅華丁幾
亞的兒製馬鐵子丁幾
琥珀丁幾
シユンブル丁幾
チユヤ丁幾
トリユタナ丁幾
トキシコデンドリ丁幾
纈草丁幾
亞的兒製纈草丁幾
礦砂精加纈草丁幾
ブアニルラ丁幾

生姜丁幾
強生姜丁幾

酒劑

蘆薈酒
苦味酒
芳香酒
橙皮酒
龍腦酒
機那酒
コロシクム酒
亞的兒製萆茇丁幾
亞的兒製失鳩答丁幾
コロシクム根酒
コロシクム實酒
麥奴酒
鐵酒
枸櫞酸鐵酒（枸櫞酸アンモニア鐵酒）
吐根酒
亞的兒製龍腦丁幾
白黎蘆丁幾
ペプシネ酒
大黃酒
海葱酒
アンチモニー酒
煙草酒
酒石酸加里鐵酒

尋テ同年八月二十一日內務大藏兩卿連署乙第三十五號ヲ以テ前揭品目外ノモノニシテ酒類ヲ和スト雖モ全ク藥性ヲ浸出スルニ止マルモノハ酒類稅則ニ從フノ限リニアラス其種類ニ依リ製藥又ハ賣藥ノ免許ヲ受ケシムヘキモノトシ併セテ酒造營業人及ヒ酒類受賣營業人ニ於テ酒精或ハ再溜酒精ヲ蒸溜シ又ハ販賣スルモノハ酒類稅則中燒酎ノ明文ニ據リ課稅スヘキモノト爲セリ

明治十三年八月七日大藏省達乙第二十九號ヲ以テ酒類稅則取扱心得書中第六條ヲ左ノ如ク更正シ酒造用桶調査方及ヒ丈量法ヲ詳規セリ

大藏省達乙第二十九號（明治十三年八月七日）

明治八年當省乙第七十六號達酒類稅則取扱心得書中第六條左ノ通更正候條此旨相達候事

第六條　酒造桶類卽今所持ノ分ハ勿論自今新調竝輪換減縮等ノ分共爲屆出主任ノ官員調査ノ上其側面ヘ左ノ件々ヲ揭載致スヘキ事

番號

口徑何程

胴徑何程

底徑何程

深サ何程（但口頭ヨリ一寸ヲ減ス）

石數何程

調査ノ年號月日

調査人官姓名

管廳燒印

酒造桶類丈量法

口徑（口頭ヨリ一寸下リタル箇所）胴徑（口底徑ノ中央）底徑（底板兩箇所）ハ孰レモ內測リニテ縱橫ヲ⊕圖ノ如ク度リ此縱橫徑ヲ和シ之ヲ二ニテ除キ以テ定ム深サハ其桶ノ前（呑口等適宜ノ箇所）後（其背後）孰レモ底板ヨリ口徑（口頭ヨリ一寸下リタル箇所）迄ノ間ヲ丈量シ此前後ノ尺度ヲ和シ之レヲ二ニテ除キ以テ定ムヘシ

但尺度ハ孰レモ曲尺ヲ用ヒ分數ニ止ム

同算則

口胴底ノ三徑ヲ各個自乘シ此三個ヲ和シ之レヲ三ニテ除キ以テ實トス之ニ深ヲ乘シ又圓積率七八五四ヲ乘シ而シテ桝法六四八二七ヲ以テ除キ其容量ヲ得ル

但石數ハ合數ニ止ム

每桶ヘ揭載スヘキ番號ハ一家每ニ起號シ桶數ニ應シテ其順號ヲ定ムヘシ

第四項　酒造稅ノ第四期

前段述フル所ノ如ク酒類稅則ハ逐年更革ヲ經、造石高ヲ標準トシテ酒造稅ヲ賦課スルノ外通稅ノ取締ニ付テモ比年令達ヲ發シ漸次其功ヲ奏スルニ至レリト雖モ猶未タ不備ノ點多キヲ免レサルナリ夫ノ受賣營業稅ノ如キ卸賣小賣ノ區別ヲ設クト雖モ均シク小賣ニシテ尙ホ數多ノ段階アリ卸小賣ノ兩者ヲ區別スルノミヲ以テ十分ノ公平ヲ期スルコトヲ得サルナリ加之此等ノ受賣業ニ重課スルノ制度ハ却テ酒類ノ販路ヲ抑制シ稅源ヲ萎靡セシムルノ嫌アリ寧ロ其根本タル酒類造石稅率ヲ高メテ此種ノ營業稅ヲ廢止スルニ如カサルナリ然レトモ其既ニ酒造稅ヲ增徵スルニ及テハ之ト同時ニ自家用酒ニ制限ヲ加フルニ非サレハ酒類ノ販路狹塞ノ奚ニ陷リ稅源ヲ涵養スルノ目的ヲ十分ニ達スルコト能ハサルヘク殊ニ酒類行商人ニ鑑札ヲ附與スルカ如キハ寧ロ煩雜ニ失シテ實益ヲ見サルヲ以テ此等ノ諸項ヲ改正スルノ必要ヲ認メ明治十三年九月布告第四十號ヲ以テ從來ノ酒類稅則ヲ廢止シテ新ニ酒造稅則ヲ制定シ從來ノ受賣營業稅竝ニ行商鑑札附與ノ制ヲ廢シ從來酒類一種每ニ酒造免許稅ヲ徵收シタルヲ改メ一酒造場每ニ酒造免許稅ヲ課スルコトヽシ釀造稅ヲ改メテ造石稅トシ稅率ヲ高メテ舊稅ニ倍課シ自家用酒ニ關シテハ其造石高ニ制限ヲ置キ及ヒ新ニ醫麴營業稅ヲ興シテ酒類製造ニ必要ナル醫麴ニ課稅スル等大ニ其酒稅制度ノ

面目ヲ改メタリ而シテ從來酒造稅ニ關スル法規ノ體裁亦甚タ備ハラス明治八年五月ノ酒類稅則ノ如キモ遂年改正增減ノ爲メ殆ト其大部分ヲ存セス官民共ニ其遷ル所ニ迷フノ狀態ナリシカ此改正稅則ニ於テハ酒稅ニ關スル規定ヲ網羅シ逐條ニ之ヲ明揭セシカ爲メ大ニ法文ノ體裁ヲ具フルニ至レリサレハ明治十三年改定稅則ハ我國酒造稅則ニ始メテ實體的幷ニ形式的整備ヲナセルモノト云フヘシ其全文ハ左ノ如シ

布告第四十號（明治十三年九月二十七日）

今般酒造稅則別冊ノ通右相定本年十月一日ヨリ施行シ從前ノ酒類稅則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事

酒造稅則

第一章 免許鑑札 稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管轄廳ニ願出酒造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒（清酒濁酒其他釀造シタルモノヲ云フ）

二類 蒸溜酒（燒酎其他蒸溜シタルモノヲ云フ）

三類 再製酒（銘酒味淋白酒等釀造蒸溜ノ酒類ヲ調和シ又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノヲ云フ）

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及ヒ造石稅ヲ納ムヘシ其類左ノ如シ

酒類免許稅

酒造場一箇所ニ付 金三拾圓

酒類造石稅

一類壹石ニ付 金貳圓

二類壹石ニ付 金參圓

三類壹石ニ付 金四圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第五條 免許ヲ請フ者ハ每年九月三十日迄ニ管廳ニ願出ヘシ右期日ヲ過クレハ免許セサルモノトス

第六條 免許鑑札ヲ賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシトキハ其旨官廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納稅 造石檢査

第八條 免許稅ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石稅ハ左ノ三期ニ納ムヘシ

第一期 四月三十日限

十月一日ヨリ三月三十一日迄檢査濟石數ニ係ル稅額ノ半數

第二期 七月三十一日限

四月一日ヨリ六月三十日迄檢査濟石數ニ係ル稅額ノ半數

第三期 九月三十日限

七月一日ヨリ皆造檢査濟石數ニ係ル稅額竝前納額ノ殘數

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出檢査ヲ受クヘシ

第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ檢査ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ

第十三條 檢査未濟ノ酒類ヘ檢査濟ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石稅ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條 檢査未濟ノ酒類ヲ屆出ノ上他ノ酒類ニ變製(第一章第二條中一類ノ酒ヲ二類ニ二類ヲ三類ニ變製スル類スル時ハ造石稅ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條 檢査濟ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ檢査濟ノ石數ニ係ル造石稅ヲ納メ更ニ變製ノ石數ニ就テ造石稅ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳ヘ屆出テ檢査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ檢査ヲ受クヘシ

第十六條 皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管廳ヘ申出檢査ヲ受クヘシ

第十七條 前條檢査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石稅ヲ納ムヘシ其製成スルヲ得サル者及ヒ廢棄シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ヲ免除ス

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許稅ヲ納ムヘシト雖モ造石稅ハ之ヲ免許ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒もと其他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ檢査ヲ受クヘシ

第二十條 酒桶瓶類ハ新製修繕ヲ問ハス使用以前管廳ヘ申出其容量ノ檢査ヲ受クヘシ

但賣買等ハ其時々管廳ヘ屆出ヘシ

第三章 禁令 雜令

第二十一條 酢及ヒ酒もとヲ販賣スルヲ許サス

第二十二條 都テ他ノ依托ヲ受ケ酒類ヲ代造スルヲ許サス

第二十三條 檢査未濟ノ酒類ヲ販賣シ又ハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス

第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十五條 造酒(搾リ蒸溜)器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルトキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ヘ屆出再封ヲ請フヘシ

第二十六條 免許ヲ受タル者ハ其節管廳ヘ該一期造酒見込ノ種目石數竝ニ其造リ方法共屆出ヘシ

但種目變換竝ニ見込石數ノ增減等ハ其時々屆出ヘシ

第二十七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋竝ニ諸器械共豫テ管廳ヘ屆出ヘシ

但增減ハ其時々屆出ヘシ

第二十八條 一期造酒屆出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ

戶外ニ掲出スヘシ

第四章 罰金

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ沒收シ免許稅額二倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ

但本文酒類竝ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徵スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 造酒石數ノ檢査ヲ受ケスシテ賣捌キタル時ハ其代價ヲ追徵シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科ス可シ

第三十二條 檢査ノ際酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但未製成ノ酒類(もともろみノ類)ト雖モ隱蔽シタル者ハ本條ニ據テ處分ス

第三十三條 檢査未濟ノ酒類ヲ自由ニ消費シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 前條々ニ明記スルモノヽ外第三章中ノ正條ニ違犯スル者ハ壹圓ヨリ少ナカラス三拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

附則

酒造營業者ニアラスシテ自家飲料ノ爲メ酒類ヲ製造スル者ハ一箇年一石(各種製造スルトキハ其總數ヲ合算スヘシ)ヲ超ヘカラス若シ一石ヲ超ルトキハ總テ本則ニ從フヘシ

右酒造稅則第一章第五條ニ依レハ營業出願期限ハ毎年九月三十日ト定ムト雖モ明治十三年ニ於テハ到底此規定ニ依ル能ハサルヲ以テ同年九月二十八日布告第四十二號ヲ以テ同年ニ限リ十一月三十日迄之ヲ延期セリ

尋テ酒造稅則改定ニ基キ同年十一月二十四日大藏省達乙第三十九號ヲ以テ酒造稅則取扱心得書ヲ制定シ營業免許,容器調査,器械開封造石檢査竝ニ課稅方法等ニ關スル詳細ナル規定ヲ設ケタリ

大藏省達乙第三十九號 (明治十三年十一月二十四日)

本年九月第四十號ヲ以テ酒造稅則御布告相成候ニ付右取扱心得書別紙ノ通相定候條此旨相達候事

酒造稅則取扱心得書

第一款 營業免許

第一項 免許鑑札ハ豫メ授與スヘキ員數ヲ見積リ租稅局ヘ申出之ヲ受取置クヘシ

第二項 免許鑑札雛形及ヒ其記載方第一號圖式ノ如シ

第三項 酒造稅ハ倉庫ノ棟數ト清酒ノ種類トヲ問ハス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ免許鑑札ヲ授與スヘシ

第四項 免許鑑札ハ其年一期有效ノモノトス故ニ引續キ免許ヲ請フ者アルトキハ最初授與シタル鑑札ヲ差出サセ其鑑札ノ裏面ヘ該期ノ免許證印(第五項雛形ノ如シ)ヲ捺シ再ヒ之ヲ授與スヘシ

但鑑札裏面餘白盡キタルトキハ更ニ新鑑札ヲ授與スヘシ

第五項 免許鑑印ハ左ノ雛形ノ如ク各府縣廳ニ於テ調製スヘシ

但其證印方郡區長ヘ委任ノ向ト雖モ各府縣廳ニ於テ之ヲ調製シ相渡スヘシ

明治何年一期
酒造免許之證

細輪廓　字體楷書　印肉朱
寸法竪巾曲尺一寸四分横巾曲尺四分

第六項 免許鑑札ノ授與ハ新規營業ト引續營業ヲ問ハス年々十月一日執行スルモノトス

第七項 稅則第六條免許鑑札賣買讓與ノ節其書換方若シ甲乙兩官廳ニ交渉スルトキハ双方連署ノ書面ニ免許鑑札ヲ添ヘ甲管廳（賣渡讓渡人所在ノ管廳）ニ於テハ乙管廳（買受讓受人所在ノ管廳）ヘノ添翰（該期免許稅納濟且免許鑑札ヲ取置タル旨明記スヘシ）ニ出願セシメ甲管廳ニ於テハ乙管廳ノ添翰ニ據リ書換鑑札ノ下渡方ヲ爲スヘシ

但酒造場轉換ノ爲メ鑑札書換方兩管ニ交渉スルモノモ本項ノ手續ニ據ルヘシ

第八項 廢業ノ者ハ其屆出ノ節免許鑑札ヲ返納セシムヘシ

第九項 廢業竝書換等ノ返納鑑札ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ十年當省乙第七號達ニ據リ不取締無之樣消却スヘシ

第十項 稅則第五條毎年九月三十日迄トアルハ新規又ハ引續共翌期營業免許ヲ出願セシムルノ期限ト心得ヘシ

第十一項 稅則第十八條造石稅免除ノ酒類ト雖モ一期製造見込ノ種目石數等總テ稅則第二十六條ニ依リ屆出シムルハ勿論一期製造ノ分ハ其石數翌期十月中ニ屆出シムヘシ

第十二項 稅則第二十六條造酒見込ノ種目トアルハ清酒濁酒燒酎白酒味淋ト其種目毎ニ揭記セシムル義ト心得ヘシ

但銘酒ハ直酒保命酒桑酒養老酒菊酒紫蘇酒あられ酒南蠻酒等各其酒名ヲ分記セシムヘシ

第十三項 稅則第二十七條酒造ニ屬スル倉庫納屋等ハ其實況詳細繪圖面ニ製シ且諸器械ハ第二號雛形ノ通取調之ヲ差出サシムヘシ

但本文調書中增減及變換等アルトキハ其時々更ニ調書ヲ製シ引換ヲ乞ハシムヘシ

第十四項 稅則第二十八條戶外ニ揭出スヘキ標札ハ左ノ雛形ニ倣ヒ調製セシムヘシ

但石數ハ最初屆出ノ見込高ヲ揭記シ增減アルトキハ其時々札紙ヲ貼付シ之ヲ更訂セシムヘシ

寸法竪巾曲尺三尺横巾製酒種類ノ數ニ依リ適宜定ムヘシ

免許鑑札ノ番號

第何號

清酒何石造
白酒何石造

何府縣郡區町村番地
何國
某

第十五項　營業者ノ屬籍住所ト酒造場ト甲乙兩管廳ニ交渉スルモノハ都テ造酒場所在ノ管廳ニ於テ免許鑑札ヲ授與シ酒造檢査及徵稅方等取計フヘシ

第二款　桶瓶調査

第十六項　稅則第二十條酒桶瓶類調査方ハ第三號書式ノ如ク豫メ調査簿甲乙二帳ヲ製シ置キ新規輪替等調査ノ都度詳細ニ之ヲ記入シ酒造檢査方ノ照據ニ供スヘシ

但甲帳ハ管廳ニ備置キ乙帳ハ營業者ニ下附シ置クヘシ

第十七項　營業者ヨリ前項桶類ノ新調等ヲ屆出タルトキハ其時々主任官出張シテ左ニ掲クル處ノ丈量法及ヒ算則ニ依リ詳密ニ調査ヲ遂ケ桶ノ側面ヘ左ノ件々ヲ掲載シ管廳ノ烙印ヲナスヘシ

番號
口徑　何程
胴徑　何程
底徑　何程
深サ　何程
石數　何程
調査ノ年號月日
調査人官姓名
酒造桶類丈量法

口徑（口頭ヨリ一寸下リタル箇所）胴徑（口底形ノ中央）底徑（底板面ノ箇所）ハ孰レモ內測リニテ縱橫（十）圖ノ如ク度リ此縱橫徑ヲ和シ之ヲ二ニテ除キ以テ定ム深サハ其酒桶ノ前（呑栓等適宜ノ箇所）後（其背後）孰レモ底ヨリ口徑迄ノ間ヲ丈量シ此前後ノ尺度ヲ和シ之ヲ二ニテ除キ以テ定ムヘシ

但尺度ハ孰レモ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨ツヘシ

算則

口胴底ノ三徑ヲ各個自乘シ此三個ヲ和シ之ヲ三ニテ除キ以テ實トス之ニ深サヲ乘シ又圓積率七八五四ヲ乘シ而シテ桝法六四八二七ヲ以テ除キ其容量ヲ得ル

但石數ハ合位ニ止メ勺以下切捨ツヘシ

第十八項　瓶類容量ハ總テ桶類ニ準シ之ヲ査定スヘシ其準シ難キモノハ便宜適實ノ方法ヲ以テ之ヲ査定スヘシ

但番號石數等ハ適宜木札ニ書載シ之ヲ正面ニ附シ置カシムヘシ

第十九項　桶瓶類ノ番號ハ倉庫ノ數ト酒類ノ種別トニ拘ハラス總テ酒造場一箇所每ニ起號シ桶瓶類ノ總數ニ應シテ其順次ヲ定ムヘシ

第二十項　粕桶水桶米浸シ桶ノ類ニシテ全ク酒類ヲ容レサル分ハ丈量ニ及ハスト雖モ番號（前項極瓶類ノ順ヲ逐フヘシ）ヲ記載シ之ニ烙印スヘシ

第二十一項　調査濟ノ桶瓶類賣買讓與又ハ貸借スルトキハ其旨雙方連署ノ書面ヲ以テ屆出サセ其賣買讓與スルモノハ主任官出張ノ上其桶瓶類ノ番號ヲ書換ヘ且調査簿ヲ加除シ其貸借スルモノハ直ニ調査簿ニ記入スヘシ其營業者ニアラサル者ヘ賣渡スカ又ハ破解スルモノハ

桶側面ヘ記載ノ件々ヲ削除シ調査簿ヲ消却スヘシ

但本文賣買讓與等ノ節若シ甲乙兩管廳ニ交渉スルトキハ第七項ニ準シ其手續ヲ爲スヘシ

尤桶瓶類ヘ番號書換及調査簿記入等買受讓受人ニ關スル處分ハ乙管廳ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三款　器械封開

第二十二項　稅則第二十五條器械ノ封緘ハ各府縣廳ニ於テ豫メ一定ノ方法ヲ相立テ搾リ器械ハ酒糟ノ樋口竝男柱ノ孔蒸溜器械ハ兜釜等緊要ノ箇所ヘ嚴重封緘ノ上主任官ノ檢印ヲ捺スヘシ

但封緘ノ爲メ繩類ヲ要スルトキハ堅牢ナルモノヲ用ヒ封紙ハ管廳ノ印章ヲ捺シ且其封緘ハ年月日ヲ記シタルモノヲ用キ弛緩剝脫ノ患ナキ樣取計フヘシ

第二十三項　開封ヲ願出ルトキハ時日ヲ遷サス主任官出張シ使用又ハ洗滌ノ日數ヲ計査シ至當ト思惟スルトキハ其封印ヲ開披スヘシ而シテ使用等ノ日數滿限ニ至レハ再ヒ出張シテ前項ノ手續ニ據リ之ヲ封緘スヘシ

第二十四項　前項封緘竝解披ノ年月日及使用等ヲ許シタル日數ハ第四號書式ノ如ク詳細ニ記入シ營業者ヲシテ調印セシムヘシ

第四款　造石檢査

第二十五項　稅則第十條造石檢査ハ收稅額ヲ定ムル基礎ニシテ最モ緊要ノ件ニ付諸事注意ヲ加フヘシ且檢査ハ營業ノ申出ニ依リ速ニ取計ヒ營業ノ差支トナラサル樣之ヲ處辨スヘシ

第二十六項　檢査季節ニ至レハ各府縣廳ニ於テ營業者ノ多寡及地形ノ難易等ニ據リ管內ヲ數部ニ分チ每部檢査員出張所ヲ設ケ主任官二名以上ヲ駐在セシメ該檢査ニ係ル一切ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ

但檢査ニ關スル諸般ノ手續ハ豫メ營業者ニ達シ置クヘシ

第二十七項　造石檢査簿ハ第五號書式ノ如ク酒造場每ニ甲乙二帳ヲ製シ置キもと、もろみ、製酒等ヲ檢査シ其時々詳細ニ之ニ記入スヘシ

但甲帳ハ主任官之ヲ携帶シ乙帳ハ營業者ニ下附シ置クヘシ

第二十八項　造石檢査ヲ受クヘキ酒類ハ桶瓶等口頭ヨリ一寸ヲ減シ側面記載ノ石類ヲ入置カシムヘシ

第二十九項　造石檢査ノ節ハ每桶査定ノ石數ヲ通算シテ總石數ヲ定ムヘシト雖モ其査定ノ石數ニ充タサルモノハ現在ノ入實ニ就テ其石數ヲ調査スヘシ

但本文入實胴徑ヨリ以下ニ在ルモノハ其口徑（現在ノ入實ト深サトヲ度リ之ニ査定ノ底徑ヲ用ヒ算出スヘシ又胴徑ヨリ已上ニ在ルモノハ該方法ニ依リ胴徑ノ已下已上ヲ區別シ各個ニ石數ヲ算出（胴徑以上ヲ算出スルトキハ胴徑ヲ底徑ニ換用スシ之ヲ合算スヘシ

第三十項　酒類皆造ノ檢査ハ第三期納稅ニ差支ヘサル樣之ヲ完了スヘシ

第三十一項　檢査季節營業者疾病事故アルトキハ其營業熟知ノ代理人ヲ定メ屆出シムヘシ

第三十二項　稅則第九條ニ基キ營業者ヲシテ左ニ掲クル處ノ諸帳簿ヲ製シ詳細ニ記入シ置カシメ造石檢査ノ際之ヲ參照ニ供セシムヘシ

酒造米買入帳　搗米通帳　仕込帳　杜氏仕込帳　酒藏出帳　酒賣上帳　酒貸帳　酒藏米仕拂帳　杜氏並日雇給料帳　荷物判取帳　金錢判取帳　櫂貸帳　積出帳　酒粕糠賣拂帳酒造諸器械賣買控帳　酒粕目方控帳

此他酒粕麴菌シ及銘酒類ニ加味スヘキ品類買入帳等一切

第三十三項　他家ノ造酒ヲ買受ケ販賣スルトキハ其石高及代價等ヲ詳記シタル仕切書又ハ送リ狀等ヲ取置カシメ造石檢査ノ際之ヲ參照ニ供セシムヘシ

第三十四項　稅則第十五條檢査濟ノ酒類ヲ變製（稅則第二條一類ノ酒ヲ二類ニ二類ヲ三類ニ變製スルノ類）スルトキハ該條ニ據ルヘシト雖モ一酒類中ノ變製（濁酒ヲ清酒ニ銘酒ニ味淋ヲ變製スルノ類）ニ係ルトキハ單ニ其變製シタルモノニ就テ課稅ノ石數ヲ査定スヘシ

第三十五項　檢査濟ノ酒類並買入酒等ヲ粕漉ニスルトキハ其時々前以屆出サセ之ヲ檢査スヘシ

第三十六項　酒類ノ火入滓引等ハ造石檢査ノ後之ヲ爲サシムヘシ

第三十七項　稅則第十六條酒類並ニもろみ共非常ノ損害ニ罹リタルトキハ營業者ヨリ其實況ヲ詳記シタル書面ヲ以テ屆出シムヘシ而シテ右屆書ヲ受ケタルトキ時日ヲ遷サス主任官出張シ實際詳密ニ檢査ヲ遂ケ事實相違ナシト認ムルトキハ造石檢査簿上該石數ヲ刪除スヘシ

第三十八項　前項檢査セシ酒類ヲ變製セント欲スルトキハ更ニ變製酒ノ種目並石高共詳記シタル書面ヲ差出サセ調査之上至當ト思惟スルトキハ之ヲ認可シ尙製成ノ上精覈ニ檢査シ之ヲ造石檢査簿ニ記入ス可シ

第三十九項　稅則第十八條造石稅免除ノ酒類ハ檢査ニ及ハスト雖モ他ノ酒類取締ノ爲メ便宜ニ主任官出張シ之ヲ點檢ス可シ

第四十項　稅則附則ニ據リ酒類一ケ年一石以上ヲ製造スルモノハ其旨願出サセ免許鑑札ヲ下付シ免許稅ヲ徵收シ及ヒ造酒檢査ノ上造石稅ヲ徵收スヘキハ勿論其一石已下ヲ製造スル者ト雖モ其酒類ノ種目並造石共屆出サセ實際不取締無之樣取計フヘシ

第五款　課稅區別

第四十一項　造石稅納期已前免許鑑札ヲ賣買讓與シ又ハ廢業スル者ノ檢査濟酒類ニ係ル造石稅ハ其節之ヲ完納セシムヘシ

第四十二項　營業中都合ニ依リ未製成ノ酒類（酒もとヲ除ク）ヲ販賣スル者ハ其旨屆出サセ詳密ニ檢査ノ上其石數ニ應シ稅則第二條ノ類別ニ據リ課稅スヘシ

第四十三項　免許鑑札賣買讓與シ又ハ廢業ノ節未製成ノ酒類（酒もとヲ除ク）ヲ營業者ニ賣渡ストキハ双方連署ノ書面ヲ以テ屆出サセ檢査ヲ遂ケ且製成ノ上ハ更ニ之ヲ檢査シ該酒類ノ石數ニ依リ課稅スヘシ其營業者ニ非ラサル者ニ賣渡ストキ其酒類ニ係ル造石稅ハ第四十一項ノ手續ニ依リ之ヲ完納セシムヘシ

但シ本文酒類賣買ノ節若シ甲乙管廳ニ交渉スルトキハ第七項ニ準シ其手續ヲ爲スヘシ尤製成ノ酒類ヲ檢査シ及其石數ニ係ル造石稅徵收方等ハ乙管廳ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第四十四項　稅則第十八條葡萄酒及ヒ麥酒ノ類トハ總テ西洋酒模製ニ係ルモノヲ謂フ實際疑似ニ渉ルモノハ其製造方法ヲ詳記シ大藏省ヘ稟議スヘシ

第六款 申牒期限

第四十五項 新規營業者人員ハ毎一期分第六號雛形ニ倣ヒ人名表ヲ調製シ其期十月十五日限リ差立租稅局ヘ送付スヘシ

第四十六項 一期造酒見込屆出ノ種目石數ハ第七號雛形ニ倣ヒ種目石數表ヲ調製シ其期十一月十五日限リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

第四十七項 前項屆出ノ後造酒石數ノ增減ハ第八號雛形ニ倣ヒ增減表ヲ調製シ左ノ期限ノ通リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

第一次 三月三十一日マデ 屆出タル分 四月十五日限

第二次 四月一日ヨリ六月三十日マデ 屆出タル分 七月十五日限

第三次 七月一日ヨリ八月三十一日マデ 屆出タル分 九月十五日限

第四十八項 酒稅檢査濟石數ハ第九號雛形ニ倣ヒ石高表ヲ調製シ左ノ期限ノ通リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

第一期 三月三十一日マテ 檢査濟ノ分 四月十五日限

第二期 四月一日ヨリ六月三十日マデ 檢査濟ノ分 七月十五日限

第三期 七月一日ヨリ八月三十一日マデ 檢査濟ノ分 九月十五日限

第四十九項 免許鑑札受拂ハ毎一期分第十號雛形ニ倣ヒ計算表ヲ調製シ翌期十月十五日限リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

第五十項 返納鑑札消却ノ分ハ第十一號雛形ニ倣ヒ人名表ヲ調製シ翌期十月十五日限リ差立

テ租稅局ヘ送付スヘシ

第五十一項 免許稅造石稅ハ毎一期分第十二號雛形ニ倣ヒ稅表ヲ調製シ翌期十月三十日限リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

第五十二項 本書第十一項造石稅免除酒類ノ種目石數ハ毎一期分第十三號雛形ニ倣ヒ種目石數表ヲ調製シ製造見込高ハ其期十一月十五日限リ製成高ハ翌期十月十五日限リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

（書式雛形略）

從來酒精ハ府縣ノ伺指令竝ニ明治十二年八月ノ內務大藏兩卿連署乙第三十三號但書ニ據リ徵稅上燒酎ト同一ニ看做シ來リタリシモ元來同品質ノモノト云フヲ得サルニヨリ別ニ之ヲ揭記スルヲ至當トシ其他實施上納稅期等ニ更定ヲ加フルノ必要ヲ生シタルヲ以テ明治十五年三月二十三日布告第十七號ヲ以テ稅則中ヲ左ノ如ク改正セリ

布告第十七號（明治十五年三月二十三日）

明治十三年九月第四十號布告酒造稅則中左ノ通加除更正ス

第二條ノ內 第二類蒸溜酒ノ割註「燒酎」ノ下ニ「酒精再溜酒精」ノ六字ヲ加入ス

第五條 刪除

第九條ノ內 第一期第二期更正

第一條 四月三十日限

十月一日ヨリ二月中檢査濟石數ニ係ル稅額ノ半數

第二期　七月三十一日限
　三月一日ヨリ六月中檢査濟石數ニ係ル稅額ノ半數

第二十一條　但書　增加
　但事故アリテ酒もとノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限リ賣渡スハ此ノ限ニアラス

第三十二條　但書　刪除
　右奉　勅旨布告候事

尋テ同年十月十二日大藏省達第三十七號ヲ以テ酒造稅則取扱心得書中新規營業者人員ニ關スル報告表ノ雛形及差出期限ヲ改メ次テ十二月二十一日同達第五十二號ヲ以テ當心得書中酒造一期造石見込屆報告表及造酒檢査濟石數報告表ノ雛形及差出期限ヲ改定セリ卽左ノ如シ

大藏省達第三十七號（明治十五年十月十二日）
明治十三年十月一日當省乙第三十九號同第四十號達及附屬雛形中左ノ通更正削除候條爾後之ニ照準調製スヘシ

酒造稅則取扱心得書更正削除

第四十五項　酒造場ノ員數ハ第六號雛形ニ倣ヒ報告表ヲ調製シ左ノ期限通リ差立租稅局ヘ送付スヘシ

第一回　十月ヨリ十二月マテ　免許セシ分　一月十五日限
第二回　一月ヨリ六月マテ　同　七月十五日限
第三回　七月ヨリ九月マテ　同　十月十五日限

第五十項及第十一號雛形　削除

大藏省達第五十二號（明治十五年十二月二十一日）
明治十三年十月一日當省乙第三十九號達中左ノ通更正刪除ス

酒造稅則取扱心得書

第四十六項　刪除

第四十七項　更正

一期造酒見込屆出ノ種目石數ハ第八號雛形ニ倣ヒ報告表ヲ調製シ左ノ期限通リ差立租稅局ヘ送附スヘシ

第一次　二月マデ　屆出タル分　三月十五日限
第二次　三月ヨリ六月マデ　屆出タル分　七月十五日限
第三次　七月ヨリ八月マデ　屆出タル分　九月十五日限

第四十八項中第一期以下及第九號雛形更正

第一期　十月ヨリ二月マデ　檢査濟ノ分　三月十五日限
第二期　三月ヨリ六月マデ　檢査濟ノ分　七月十五日限
第三期　七月ヨリ皆造檢査マデ　檢査濟ノ分　九月十五日限

（雛形略）

然ルニ明治十三年ノ改定稅法施行後歲ヲ閱スルニ隨ヒ法規ノ缺點ヲ利用シテ巧ニ逋稅ノ手段ヲ講究シ稅則違反者亦隨テ多キヲ加ヘ殊ニ薄資ニシテ造石高少ナキ者ハ其業體ヲ重セサルヨリ自

ラ投機ヲ事トスルモノ多キヲ加ヘタルト自家用酒類ニ關スル取締法未タ完備セサルカ爲メ自家用酒ノ釀造者年ヲ逐フテ增加シ是等ノ原因ヨリ酒價ノ低落ヲ來タシ營業者ニ非常ナル痛苦ヲ與フルニ至レリ殊ニ明治十五年一月新刑法ノ實施セラルヽニ及ヒ明治十年布告第十三號府縣條規違犯罰則俄ニ消滅ニ歸シタル爲メ稅則違犯者東西嚮ヲ接シテ起リ納期ニ際シ檢査濟酒類ヲ賣盡シ或ハ酒酒請賣人又ハ酢製造人ニシテ名ヲ自家用酒ノ製造ニ托シ其實密カニ販賣ヲ爲ス等巧ミニ稅則ヲ免カルヽ者アリ加之當時陸海軍備ノ擴張ニ際シ大ニ財政上歲入增加ノ必要ニ迫リタリシヲ以テ明治十五年十二月二十七日布告第六十一號ヲ以テ稅則中ニ改正ヲ加ヘ其稅率ヲ增加シ一定ノ造石高以上ニ非レハ免許ヲ與ヘサルコトヽシ自家用料酒ニハ免許鑑札料ヲ徵シ其ノ製造シタル酒類ノ賣買ヲ禁シテ酒類製造營業者ヲ保護シ併セテ逋稅取締ノ方法ヲ改定シ諸種ノ罰則ヲ定メタリ其全文ハ左ノ如シ

布告第六十一號（明治十五年十二月二十七日）

明治十三年九月第四十號布告酒造稅則左ノ通改正追加ス

但第三條改正ハ明治十六年十月一日ヨリ施行ス

第三條　免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ

酒造免許稅

酒造場一箇所ニ付　金三拾圓

酒類造石稅

一類壹石ニ付　金四圓

二類壹石ニ付　金五圓

三類壹石ニ付　金六圓

第四條二項三項　酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セス

清酒　百石

濁酒　拾石

一類（清酒濁酒ヲ除ク）二類三類　五石

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ

第五條　酒造營業人不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

第十條二項　廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳ヘ申出檢査ヲ受ケ現石數ニ付納稅スヘシ

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一箇所以上ヲ廢シ尙存セル酒造場ヘ其酒類ヲ移ストキハ管廳ヘ屆出且製成ノ上檢査ヲ受クヘシ

第二十二條　他ノ委託ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ラサル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス

第二十三條　檢査未濟ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消糜スルヲ許サス

檢査既濟ノ酒類ヘ檢査未濟ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス

第三十一條　酒類石數ノ檢査ヲ受ケスシテ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徵シ其

酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條 酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

第三十四條 第十四條又ハ第二十條ノ屆出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十五條 第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條ヲ犯シテ檢査ヲ受ケサル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第三十六條 第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス

第三十七條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第三十八條 酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ總テ營業者ヲ處罰ス

酒造稅則附則

第一條 自家用料ノ酒類(飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ及ヒ其他ノ用ニ供スルモノ)ヲ製造スル者ハ管廳ヘ屆出製造免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ムヘシ

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ一期トス

第三條 自家用料ノ酒類ハ一家內ニ於テ一期製造高一石(二種以上製造スルモノハ其總石數ヲ合算ス)ヲ超ユルヲ得ス若シ之ヲ超ユル時ハ總テ本則ニ從フヘシ

第四條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家ノ外ニ於テ之ヲ製造スルヲ得ス

第五條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第六條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ申出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第七條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第八條 第一條第三條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第九條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ト第三十八條ヲ適用ス

斯ノ如ク酒造稅則中ニ改正ヲ加ヘタルヲ以テ明治十六年二月二十日大藏省達第九號ヲ以テ酒造稅則取扱心得書中ニ左ノ追加ヲ爲シ主トシテ自家用料酒製造ニ關スル諸手續ヲ定メタリ

大藏省達第九號 (明治十六年二月二十日)

客年十二月第六十一號布告ヲ以テ十三年九月第四十號布告酒造稅則改正追加相成候ニ付同年十一月當省達乙第三十九號酒造稅則取扱心得書中左ノ通追加候條此旨相達候事

第五十三項　自家用料酒類免許鑑札ハ酒類製造免許鑑札ノ雛形ニ據リ府縣廳ニ於テ調製ノ上酒造營業者ニ準シ之ヲ下渡スヘシ

但鑑札面酒類製造營業免許鑑札トアルヲ自家用料酒類製造鑑札ト記スヘシ

第五十四項　自家用料酒類製造ノ者ハ其種目及造石高ヲ管轄廳ヘ屆出サシムヘシ

但造高ノ增減及ヒ其種目ノ變換等ハ其都度屆出サシムヘシ

第五十五項　自家用料酒類製造免許料ノ徵收及ヒ造石檢査ノ場合ニ於テハ酒造營業者ニ準シ之ヲ取扱フヘシ

第五十六項　自家用料酒類製造免許料及ヒ造石屆高ハ別紙雛形ニ倣ヒ每一期分調製シ翌期十月三十日限リ差立租稅局ヘ送付スヘシ

（別表略ス）

右改正ノ效果トシテ明治十五年度ニ於テ生シタル最モ著シキ現象ハ百石以下ノ小製造家起業セサリシ爲メ營業人員ノ減少シタルコトニシテ增稅ノ實施期タル明治十六年度ニ在リテ恰モ米價低廉ナリシ爲メ一般ニ酒類增石高ヲ增加シタリ然ルニ犯則逋稅ノ奬風ニ至テハ依然トシテ變セス却テ增稅ト共ニ其度ヲ進メ犯則者二千三百人餘稅金不納者五百人其稅金十三萬三千圓餘ノ巨額ニ達シタリ依テ此等奬害ヲ除カンカ爲メ明治十六年六月府縣ニ令シ收稅事務ノ爲メ特ニ一課ヲ設ケ大ニ賦課徵收ノ事務ヲ擴張シ以テ取締方ノ周到ヲ謀ラシメ更ニ同年八月四日第二十五號布告ヲ以テ未納者處分規則ヲ追加シ酒類諸器械等自他ノ所有ヲ問ハス現在品ノ一部若クハ全部ヲ公賣シテ不納金ヲ徵收スルコトヲ定メ同時ニ第二十六號布告ヲ以テ酒造稅則中ニ改正ヲ施シ

稅金完納以前ニ在テハ許可ヲ受ケスシテ酒造諸器械ヲ免許場外ニ移轉スルコトヲ禁シ又此等ノ器械ヲ賣買讓與貸與若クハ所持主ヘ返却スルトキハ納期ニ拘ハラス稅金ヲ完納スヘキ旨ヲ規定シ以テ逋稅ノ防遏ヲ試ミタリ其改正條項左ノ如シ

布告第二十六號（明治十六年八月四日）

明治十三年九月第四十號布告酒造稅則中左ノ通改正ス

第二十條　酒造用諸器械ハ使用以前管廳ヘ申出檢査ヲ受ケ其賣買讓與貸借ハ其時々管廳ヘ屆出ヘシ

造酒著手後造石稅完納以前ニ於テハ管廳ノ許可ヲ得スシテ諸器械ヲ酒造場外ヘ移スコトヲ許サス

酒造用諸器械ヲ賣買讓與貸與及所持主ヘ返却スルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラス檢査濟ニ係ル造石稅ヲ完納スヘシ

第三十四條「又ハ第二十條」ノ六字ヲ削除ス

第三十五條第二項

第二十條第一項ヲ犯シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス

右ノ如ク脫稅防遏ニ關スル規定稍具ハルニ至レリト雖モ收稅官吏ハ法律稅則ニ許ス處ノ酒類製造ニ關係アル諸建物倉庫ノ外ハ本主ノ承諾ヲ得ルニ非レハ現場ニ立入ルコトヲ得サルカ故ニ或ハ酒類ヲ自己居宅外ノ建物或ハ他人ノ家屋內ニ移シ收稅官吏ニシテ犯則物件ノ存スルアランコ

トヲ推知スルモ如何トモスヘカラス仍テ同年十二月二十日布告第四十三號ヲ以テ收稅官吏ニ於テ犯則アリト認知シ若クハ思料シタルトキハ直ニ其場所ニ臨ミ證憑取調ヲ爲スコトヲ得ルノ權能ヲ附與セリ只其職權濫用ノ弊ヲ防カンカ爲メ翌二十一日大藏省達第七十七號ヲ以テ右ノ布告ニ基キテ人民ノ家宅內ニ立入リ證憑取調ノ處分ヲ爲スハ日出後日沒前ニ於テシ且ツ其地ノ戶長若クハ用掛又ハ隣佑ノ內ヲ立合ハシムヘキモノトセリ

是ヨリ先キ六月二十二日大藏省達第四十三號ヲ以テ明治十三年達乙第三十九號ヲ以テ酒造稅則取扱心得書中ニ追加シ酒造石高區分竝類別表雛形竝ニ差出期限ヲ定メ卽チ第五十項ヲ追加シ各酒造場ノ造酒石高竝類別ハ第十一號雛形ニ倣ヒ石高區分竝類別表ヲ調製シ翌期十月十五日限差立租稅局ヘ送附スヘキ旨ヲ定メタリ

而シテ酒類釀造石高最低限ニ關シテハ明治十五年ニ於テ之ニ改定ヲ加フル所アリタリシカ營業者中種々ノ口實ヲ設ケテ其制限ヲ免カレントスル者アリ因テ此弊ヲ矯メンカ爲メ明治十六年十月二十三日大藏省達第六十九號ヲ以テ製造免許ヲ受ケタル後非常ノ災害ニ罹リ酒類釀造元米諸器械等ヲ減損スルノ類ニシテ實際止ムヲ得サルノ事故アルモノヲ除クノ外徒ラニ種々ノ口實ヲ設ケ制限石高ヨリ減却シタルモノハ翌期營業ノ免許ヲ與ヘサルコトヽ爲セリ而シテ從來製酢營業者ノ製造スル酢元用酒類ハ無稅トナシ來リシカ此ノ如キハ酒造業者ニ對シテ大ニ權衡ヲ失スルノミナラス又往々ニシテ犯則ヲ生シタルヲ以テ同年十二月十八日布告第四十二號ヲ以テ更ニ左ノ如キ課稅法ヲ定メタリ

布告第四十二號（明治十六年十二月十八日）

酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第三條免許稅第四條第二項第三項ヲ除クノ外該稅則ニ準據スヘシ

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ檢査未濟ノ酒類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ許サス犯ス者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及酢ヲ沒收ス其既ニ賣捌キタル者ハ代價ヲ追徵ス

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ屆出ヘシ違フ者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

然ルニ又酒造業者ニシテ其酒類ヲ濫賣シ納期ニ至リテ無一物トナリ以テ逋稅ヲ企ツル者比々トシテ相踵キ殊ニ此逋稅準備ノ弊風ハ高知、兵庫、福岡、愛知、福井、富山、長野ノ諸縣ヲ初トシ一時ニ各府縣ニ傳播シ正業者ハ爲メニ酒類ノ販路ヲ妨害セラレ損害ヲ彼ルノミナラス徵稅上一大困難ヲ來スヘキ狀況ヲ呈セリ仍テ明治十七年二月各縣ニ內訓シテ夫ノ逋稅準備ノ所爲アル者ニ對シ適宜取締方ヲ決行セシメ且內務省ニ照會シテ警察上ノ援助ヲ仰キ大ニ警戒ヲ加ヘシム更ニ又三月十四日布告第六號ヲ以テ不納處分規則ニ追加シ酒類竝ニ酒造用諸器物建物ハ自他ノ所有ヲ問ハス其一部又ハ全部ヲ公賣シテ不納稅ニ充ツルコトヲ定メ以テ逋稅準備ノ企圖ヲ爲ス者ニ備ヘタリ斯クテ同年七月以降大藏卿ノ內訓ニ依リ不正所爲ノ確證アル營業者ニ對シテハ稼續營業出願スルモ許可セサルノ方針ヲ採リ或ハ造石稅ニ充ツヘキ抵當品ヲ差出サシメ或ハ保證人ヲ立テヽ納稅義務ヲ擔保スルノ契約ヲ爲サシムル等逋稅ニ關スル取締極メテ嚴密トナリシカ爲メ大ニ犯則者ノ數ヲ減シタルモ尙ホ當時無資無產者ノ名義ヲ假用シテ免許ヲ得ル等ノ奸策ヲ運ラスモノア

ルヲ以テ營業ノ許否ニ付テハ正邪ノ鑑別ヲ誤ラサル樣注意方ヲ府縣ニ令シ同年九月更ニ又不正業者ト確認セルモノト雖モ身元確實ナル保證人ヲ立テヽ出願スルトキハ臨機許可スルコトアルヘキ旨ヲ內訓セリ

明治十三年制定酒造稅則取扱心得書ハ發布以來數次改正ヲ加ヘ條項次第ニ錯雜ヲ極ムルニ至リシカハ明治十七年八月三十日大藏省達第六十四號ヲ以テ之ヲ改定シ十月一日以降實施スルコトヽ爲シ又同年九月十九日主祕乾第三十五號ヲ以テ造酒檢査手續ヲ、同第三十六號ヲ以テ酒造稅則違犯者取扱心得書ヲ制定配付シ各府縣ニ檢査區ヲ設置シ每區檢査員ヲ配シ檢査査察ヲ周到ナラシメタルカ故ニ前年度ニ比シテ犯則ノ數非常ニ減シ造石高稅金共ニ若干ノ增加ヲ來セリ而シテ改定稅則取扱心得書酒造檢査手續及ヒ稅則違犯者取扱心得書ノ全文左ノ如シ

大藏省達第六十四號（明治十七年八月三十日）

明治十三年十一月當省乙第三十九號ヲ以テ酒造稅則取扱心得書相違候處爾後該稅則改正追加相成候ニ付右取扱心得書別冊之通改正候條本年十月一日ヨリ之ニ照準シ取扱ヘシ

酒造稅則取扱心得書

第一款　營業免許

第一項　免許鑑札ハ豫メ授與スヘキ員數ヲ見積リ主稅局ヘ申出之ヲ受取置クヘシ

第二項　免許鑑札記載方ハ第一號雛形ノ如シ

第三項　酒造場ハ倉庫ノ棟數ト清酒ノ種類トヲ問ハス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ免許鑑札ヲ授與スヘシ

但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ檢査濟ノ酒類又ハ酒造用諸器械ヲ藏置スルニ止マルモノハ酒造場ノ附屬トスルコトヲ得ヘシ

第四項　免許鑑札ハ其年一期有效ノモノトス故ニ引續キ免許ヲ請フモノアルトキハ最初授與シタル鑑札ヲ差出サセ其鑑札ノ裏面ヘ該期ノ免許證印ヲ捺シ再ヒ之ヲ授與スヘシ

但裏面餘白盡キタルトキハ更ニ新鑑札ヲ授與スヘシ

第五項　免許證印ハ左ノ雛形ノ如ク各府縣廳ニ於テ調製スヘシ

明治何年一期
酒造免許ノ證

細輪廓　字體楷書　印肉朱
寸法竪巾曲尺一寸四分　橫巾曲尺四分

第六項　引續營業ヲ爲サントスル者ハ每年十月一日マテニ出願セシムヘシ之ヲ過クレハ都テ新規ト心得ヘシ

第七項　二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出シメ會社ヲ設ケ營業ヲ爲スモノハ頭取ノ名ヲ以テ願出シムヘシ

但免許鑑札面ニハ誰外何人ト記シ又ハ頭取ノ名ヲ記載スヘシ

第八項　十五年第六十一號公布以前ヨリ引續營業スルモノハ甲種トシ該公布以後營業スルモノハ乙種トナシ取扱フヘシ

但乙種ニ授與スル免許鑑札ニハ人名ノ肩ニ乙種ノ二字ヲ記入シ又酢元用酒類ヲ製造スル者ハ酢元用ノ三字ヲ冠スヘシ

第九項　稅則第五條代人ハ其營業熟知ノモノヲ以テ定メ實印ヲ捺シタル委任狀ヲ附與セシメ其人名ヲ屆出テシムヘシ

但幼少其他事故アリテ後見人ヲ置クトキハ委任狀ヲ附與スルノ限ニアラスト雖モ後見人事故アリテ代人ヲ置クトキハ本項ニ據リ後見人ヨリ委任狀ヲ附與セシムヘシ

第十項　稅則第六條免許鑑札賣買讓與ノ節其書換方若シ甲乙兩管廳ニ交渉スルトキハ双方連署ノ書面ニ免許鑑札ヲ添ヘ甲管廳（賣渡讓渡人所在ノ管廳）ニ出頭セシメ甲管廳ニ於テハ乙管廳（買受讓受人所在ノ管廳）ヘノ添翰（該期免許稅納濟且免許鑑札ハ取置タル旨明記スヘシ）書換鑑札ノ下渡方ヲ爲スヘシ

但酒造場轉換ノ爲メ鑑札書換方兩管廳ニ交渉スルモノモ本項ノ手續ニ據ルヘシ

第十一項　廢業ノ者ハ其屆出ノ節免許鑑札ヲ返納セシムヘシ

第十二項　廢業竝書換等ノ返納鑑札ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ十年當省乙第七號達ニ據リ不取締無之樣消却スヘシ

第十三項　稅則第十八條造石稅免除ノ酒類ハ其造石ニ制限ナシト雖モ一期製造見込ノ種目石數等總テ稅則第二十六條ニ據リ屆出シムルハ勿論一期製造ノ分ハ其石數翌期十月中ニ屆出シムヘシ

第十四項　稅則第二十六條造酒見込ノ種目トアルハ清酒濁酒燒酎酒精再溜酒精白酒味淋酷酒ト其種目毎ニ掲記セシメ同條但書見込石數ノ增減ハ勿論其造リ方法ノ變換トモ屆出テシムヘシ

但酷酒ハ直シ酒保命酒桑酒養老酒菊酒紫蘇酒あられ酒南蠻酒等各其酒名ヲ分記セシムヘシ

第十五項　稅則第二十七條酒造ニ屬スル倉庫納屋等ノ諸建物ハ其構造詳細繪圖面ヲ製シ且諸機械ノ員數トモ取調免許ノ節之ヲ差出サシムヘシ

但增減及變換等アルトキハ其時々更ニ之ヲ差出サシムヘシ

第十六項　稅則第二十八條戶外ニ掲出スヘキ標札ハ左ノ雛形ニ倣ヒ調製セシムヘシ

但石數ハ最初屆出ノ見込高ヲ掲記シ增減アルトキハ其時々紙札ヲ貼付シ之ヲ更訂セシムヘシ

免許鑑札番號

第何號

清酒何石造

白酒何石造

何府縣郡區町村番地

何某

寸法竪巾曲尺三尺橫巾製酒種類ノ數ニ依リ適宜ニ定ムヘシ

酢元用酒類ヲ製造スルモノハ酢元用何酒何石造ト掲記ス可シ

第十七項　營業者ノ屬籍住所ト酒造場ト甲乙兩管廳ニ交渉スルモノハ都テ酒造場所在ノ管廳ニ於テ免許鑑札ヲ授與シ造酒檢査及徵稅等取扱フヘシ

第二款　諸機械調査

第十八項　稅則第二十條第一項酒造用諸器械中桶類ノ新製修繕ヲ屆出ルトキハ其時々主任官員出張シテ左ニ掲クル所ノ丈量法及算則ニ據リ詳密ニ調査ヲ遂ケ桶ノ側面ヘ左ノ件々ヲ掲載シ管廳ノ烙印ヲ爲スヘシ

但文字ハ磨滅消除セサルモノヲ以テ之ヲ書記スヘシ

番號

口徑　何程

胴徑　何程

底徑　何程

深サ　何程

石數　何程

調査ノ年號月日

調査人官姓名

酒造桶類丈量法

口徑（口頭ヨリ一寸下リタル箇所）胴徑（口底徑ノ中央）底徑（底板両ノ箇所）ハ孰レモ內測リニテ縱橫⊕圖ノ如ク度リ此縱橫徑ヲ和シ之ヲ二ニテ除シ以テ定ム深サハ其酒桶ノ前後左右中心等孰レモ底面ヨリ口徑マテノ間ヲ丈量シ之ヲ和シ五ニテ除シ以テ定ムヘシ

但尺度ハ孰レモ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨ツヘシ

算則

口徑ト胴徑ノ和ヲ自乘シ甲トス

胴徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ乙トス

口徑ト底徑ノ和ヘ胴徑ヲ乘シ丙トス

甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四（乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ヲ乘シ之ヲ二ニテ除シ其容量ヲ得ル

但石數ハ合位ニ止メ以下切捨ツヘシ

第十九項　甕類容量ハ總テ桶類ニ準シ之ヲ査定スヘシ其準シカタキモノハ便宜適實ノ法ヲ以テ之ヲ査定スヘシ

但番號石數等ハ木札ニ書載シ之ヲ正面ニ附シ置カシムヘシ

第二十項　桶甕類ノ番號ハ倉庫ノ數ト酒類ノ種別トニ拘ラス總テ酒造場一ケ所每ニ起號シ桶甕類ノ總數ニ應シテ其順次ヲ定ムヘシ

但桶甕ノ外諸器械ハ番號ヲ附スルニ及ハスト雖モ管廳ノ烙印ヲ捺シ得ルモノハ之ニ烙印ヲ爲スヘシ

第二十一項　粕桶水桶等ノ類ニシテ全ク酒類ヲ容レサル分ハ丈量ニ及スト雖モ番號ヲ記載シ之ニ烙印ヲ爲スヘシ

但酒造場內ニ於テ酒類ヲ容ルヽ桶甕類ハ都テ丈量ノ調査ヲ受ケシムヘシ

第二十二項　調査濟ノ桶甕類賣買讓與貸借又ハ返却スルトキハ其旨双方連署ノ書面ヲ以テ屆出サセ其賣買讓與スルモノハ主任官員出張ノ上其桶甕類ノ番號ヲ書換其貸借スルモノハ假

順番號ヲ記載シ其營業者ニ非サル者ヘ賣渡スカ又ハ破解スルモノハ桶側面記載ノ件々ヲ削除スヘシ

第二十三項　稅則第二十條二項ハ事故アリテ一時酒造場外ヘ移スモノヲ謂フ此場合ニ於テハ其移スヘキ事故及場所トヲ調査シ不取締ナシト認ルモノニ限リ聽許ス可シ

第三款　器械封緘

第二十四項　稅則第二十五條器械ノ封緘ハ各府縣廳ニ於テ豫メ一定ノ方法ヲ相立テ搾リ器械ハ酒槽ノ樋口竝男柱ノ孔蒸溜器械ハ兜釜等緊要ノ箇所ヘ嚴重ノ封緘ヲ爲スヘシ

第二十五項　前項封緘用紙ハ管廳ノ印章ヲ捺シタルモノヲ用ヒ且封緘ノ每次請書ヲ差出サシムヘシ

第四款　造石檢査

第二十六項　造石檢査ヲ爲スヘキ酒類ハ桶甕トモ口頭ヨリ一寸ヲ減シ容レ置カシメ每桶甕トモ記載ノ石數ニ據リ査定スヘシ

第二十七項　前項記載ノ石數ニ充タサルモノハ其現在入實ノ石數ニ據リ左ノ算則ヲ以テ調査スヘシ

入實胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス（此底徑ヲ求ムルニハ口徑ヲ胴徑ヲ減シ空積ノ深サヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ底徑トス）

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ底徑ト口徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及ヒ〇・〇四〇三八四四（乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ尺位ヲ一位トス以下準之）ヲ乘シ得ル數ヲ桶面記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル（十八年十一月第七十六號達ヲ以テ更正）

入實胴徑ヨリ以下ニ在ルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス（此口徑ヲ求ムルニハ入實胴徑ヲ假定ノ口徑トシ入實胴徑ニ充タサルモノハ胴徑ヨリ底徑ヲ減シ現在ノ深サヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之ニ底徑ヲ加ヘテ假定ノ口徑トス）

假定ノ口徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ口徑ト底徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及ヒ〇・〇四〇三八四四ヲ乘シ現在ノ石數ヲ得ル

第二十八項　稅則第二十九條ニ據リ酒造中ハ何酒類ヲ問ハス檢査スヘキニ付酒もと及ヒ醪トモ前以テ申出サシメ必ス之カ檢査ヲ爲スヘシ

但造石檢査ノ際參照ノ爲メ左ニ掲タル所ノ諸帳簿ハ營業者ヲシテ必ス調製シ詳密記載セシムヘシ

酒造米元帳　仕込帳　酒粕目方帳

蒸溜帳　酒藏出帳　酒賣上帳

第二十九項　酒類ノ火入滓引ハ造石檢査ノ後之ヲ爲サシムヘシ

第三十項　造酒中他家ノ酒類ヲ買入ルヽモノハ時々其石數ヲ屆出サセ時宜ニヨリ之ヲ檢査スヘシ

第三十一項　稅則第十五條檢査濟ノ酒類ヲ變製（稅則第二條一類ノ酒ヲ二類ニ三類ニ變製スルノ類ニスルトキハ該條ニ據ルヘシト雖一酒類中ノ變製（濁酒ヲ淸酒ニ味淋ヲスルノ類ニ變製スルトキハ單ニ其變製シタルモノニ係ル

就テ課稅ノ石數ヲ査定スヘシ

第三十二項　稅則第十六條非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ水火震災竝腐敗等人爲ヲ以テ防禦スヘカラサルモノニ限ルモノトス此場合ニ於テハ其實況ヲ詳記シタル書面ヲ以テ届出シメ時日ヲ遷サス主任官員出張シ實際詳密ニ檢査ヲ遂ケ事實相違ナシト視認ルトキハ造石稅免除ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十三項　前項檢査セシ酒類ヲ變製セント欲スルモノハ更ニ變製酒ノ種目竝石數トモ届出サセ製成ノ上尙之ヲ檢査スヘシ

第三十四項　檢査濟ノ酒類竝古酒買入酒等ヲ粕漉ニスルトキハ其時々届出サセ檢査ヲ爲シ尙製成ノ上之ヲ檢査スヘシ但製成ノ上增石スルモノハ其石數ニ課稅スヘシ

第三十五項　濁酒白酒ハ都テ醪ノ儘ニテ檢査シ造石稅ヲ査定スヘシ

第三十六項　稅則第十八條造石稅免除ノ酒類ハ造石檢査ニ及スト雖モ取締ノ爲メ主任官員出張便宜之ヲ點檢スヘシ

第三十七項　十六年第四十二號公布第三項ニ據リ管廳ヘ届出ヘキ製酢ハ取締ノ爲メ主任官員出張便宜之ヲ點檢スヘシ

第五款　課稅區別

第三十八項　造石稅納期以前免許鑑札ヲ賣買讓與シ又ハ廢業スル者ノ檢査濟酒類ニ係ル造石稅ハ其節之ヲ完納セシムヘシ

第三十九項　營業中都合ニ依リ未製成ノ酒類ヲ販賣スルモノハ其旨届出サセ檢査ノ上其石數

ニ應シ稅則第二條ノ類別ニ據リ課稅スヘシ

但未製成ノ酒類ヲ同業者ニ賣渡ストキハ双方連署ノ書面ヲ以テ届出シムヘシ尤甲乙兩管廳ニ交渉スルモノハ製成ノ酒類ヲ檢査シ及ヒ其石數ニ係ル造石稅徵收方等ハ買受人所在ノ管廳ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第四十項　稅則第十八條造石稅免除ノ酒類ハ西洋模製ニ係ル葡萄酒ノ類麥酒ノ類トス其疑似ニ涉ルモノハ製造方法ヲ詳記シ當省ヘ稟議スヘシ

第六款　申牒期限

本款第四十一項ヨリ第四十六項マテ十八年十一月第七十四號達ヲ以テ申牒期限諸表樣式改定ニヨリ削減

第七款　自家用料酒類

第四十七項　自家用料酒類免許鑑札ハ酒類製造營業免許鑑札ノ雛形ニ依リ府縣廳ニ於テ調製ノ上酒造營業者ニ準シ之ヲ下渡スヘシ

但鑑札面酒類製造免許鑑札トアルヲ自家用料酒類製造免許鑑札ト記載スヘシ

第四十八項　自家用料酒類製造ノモノハ其種目及ヒ造石高ヲ管廳ヘ届出サシムヘシ

但造リ高ノ增減及ヒ其種目ノ變換等ハ其都度届出サシムヘシ

第四十九項　自家用料酒類ハ時宜ニヨリ實地檢査ヲ爲シ其他不取締之レナキ樣取計フヘシ

第五十項　自家用料酒類製造免許鑑札料ノ徵收及造石檢査ノ場合ニ於テハ酒造營業者ニ準シ之ヲ取扱フヘシ

第五十一項第五十二項ハ十八年十一月第七十四號達ヲ以テ申牒期限諸表ノ樣式改定ニヨリ消滅

酒類製造營業免許鑑札等ハ略ス

酒造稅則違犯者取扱心得書

第一項　酒稅檢査員其職務ヲ行フニ因リ稅則違犯アルヲ認知シ又ハ違犯アリト思料シタルトキハ左ノ各項ニ據リ證憑ノ取調及告發ノ手續ヲ爲スヘシ

第二項　造酒檢査ノ場合ニ於テ犯則アリト認知シタルトキハ先ツ著手シタル處ノ檢査ヲ了リ然ル後犯則取調ニ著手スヘシ

但時機緊急ヲ要スル場合ニ於テハ此限ニアラス

第三項　犯則取調ニ方リ其事柄他ノ補助ヲ要セサルヲ得サル場合ニ於テハ其現場ヲ退クコトナク便宜ノ手續ヲ以テ最寄檢査員ニ通知スヘシ其通知ヲ受ケタル檢査員ハ速カニ出張シ之カ補助ヲ爲スヘシ

第四項　犯則ニ係ル證憑件ヲ檢舉シタル上ハ其事實ヲ訊問シ第一號書式ニ倣ヒ犯則申立書ヲ作ルヘシ尤其書面ニハ犯則發見ノ景況ト本人ノ陳述トヲ記載シ而シテ其陳述ヲ本人ニ讀聞セ之ニ署名捺印セシムヘシ

第五項　犯則ニ係ル酒類石數器械個數等ハ犯則者ノ面前ニ於テ調査シ其地戶長隣佑又ハ本人ニ管守セシメ其預書ヲ徵スヘシ

但酒類石數等消糜ノ憂慮アルモノハ之ニ封緘ヲ爲シ置クヘシ

第六項　造酒檢査ノ爲メ臨場ノ場合ニ於テ本人竝代理人トモ不在ナルトキハ其家族雇人等ヨリ其事由ヲ明記セル書面ヲ徵シ本人又ハ代理人ノ歸宅ヲ待チ第四項ニ準據シ犯則申立書ヲ

作ルヘシ

第七項　明治十六年第四十三號公布ニ據リ證憑取調ノ爲メ營業者ニアラサルモノヽ家宅ヘ立入ルトキハ家主又ハ其家族ニ其事由ヲ告ケ其地戶長又ハ隣佑等ヲ立合ハシメ直ニ搜査ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ果シテ犯則ヲ發見シタルトキハ第四項ノ手續ヲ爲スヘシ

第九項　前項々ノ取調ヲ了リタル上ハ成ヘク速カニ第二號書式ニ倣ヒ告發書ヲ作リ之ニ犯則申立書及犯則物件預書等ヲ添付シ其地檢事ニ送致スヘシ

但告發書ヲ郵送スルトキハ必ス書留郵便ヲ以テ送致スヘシ

第十項　告發書類ハ確實簡明ニ犯則申立書ハ適實平易ヲ主トシ徒ラニ行文ヲ作爲シ其要領主眼ヲ失ハサル樣注意スヘシ

但起訴ノ資料トナルヘキ證憑ハ勿論事實參考トナルヘキ事物ハ必ス之ヲ添付スヘシ

第十一項　告發事件ニ付裁判所ヨリ召喚シタルトキハ其訊問ニ對シ之カ應答ノ主意書ヲ作リ其事由ヲ併セ收稅長ニ申報スヘシ

第十二項　告發書ヲ送致スルトキハ該犯則者處分濟ノ上宣告書寫回送方ヲ裁判所ヘ照會シ置キ其回送シ來ル宣告書ヲ審案シ若シ不當ノ判決ナリト思惟スルトキハ其意見書ヲ作リ速カニ收稅長ニ送附スヘシ

第十三項　前項々ノ外其實況ニ據リ若シ疑議ニ涉ルモノアルトキハ收稅長ノ指揮ヲ請フヘシ

酒稅檢査手續

第一款　檢査區畫及派出所組織

第一項　酒稅檢査區畫ハ營業者ノ多寡ト地形ノ便否等ヲ考察シ管內ヲ大別シテ部ト爲シ部ヲ分劃シテ數區トナシ每區便宜ノ地ニ派出所ヲ置キ檢査員ノ數ニ從ヒ每區ヲ小分シテ巡回地ヲ定ムルモノトス

第二項　每部ニ監督員一名ヲ置キ府縣廳ヲ以テ所在地トシ一ケ月每ニ擔當部ヲ轉換スヘシ又每區ニ檢査員若干名ヲ置キ巡回地ヲ擔當セシメ其擔當地ハ一巡回卒ル每ニ各員ヲ轉換スルモノトス

第三項　每年十月一日ヲ以テ檢査員派出ノ期ト定メ造酒繁閑ノ期節ヲ察シ人員ヲ漸次ニ增加シ又ハ減減スルモノトス

第四項　派出所ノ位置及ヒ所屬ノ郡區名等ハ豫メ營業者ヘ達シ置クヘシ

但派出所ニハ府縣酒造檢査員何地派出所ト書シタル標札ヲ揭クヘシ

第五項　檢査員出張中ノ酒造檢査ニ關スル一切願屆等其地派出所ヘ差出スヘキ旨豫メ營業者ヘ達シ置クヘシ

但營業者其他ヨリ送達シ來ル文書ハ檢査員ニ於テ受付スヘシ尤不在ノ場合ハ便宜受付ノ方法ヲ設ケ置クヘシ

第二款　監督員及檢査員職務

第六項　監督員ハ各檢査員ノ措置成規例格ニ背カス取扱上區々ノ奬ナク正當ヲ得テ逋稅ノ虞ナキヤ否ヲ視察スルヲ以テ職分トス

但職務上ニ於テ直ニ檢査員ニ指示シ且檢査員ノ勤惰等ヲ收稅長ニ具申スルコトヲ得

第七項　監査員ハ法規成例ニ從ヒ正當ヲ目的トシテ酒稅ニ係ル檢査ヲ爲シ收稅額ヲ定ムルヲ以テ職分トス

第八項　監督員ハ檢査上宜キヲ得テ一府縣內取締方周到セルヤ否ヲ視察センカ爲メ自ラ臨時營業家ニ立入リ又ハ實地檢査ノ立會ヲ爲スヘシ

但一般ノ景況視察ノ爲メ檢査ニ關スル書類ヲ檢査員ヨリ徵スルコトアルヘシ

第九項　檢査員ハ每區共首席者ニ於テ其區內一切ノ事務ヲ主幹シ其責ニ任スヘシ

但首席者事故アルトキハ次席者ニ於テ之ニ代ルヘシ

第十項　檢査員ハ其區內ノ事ニ關スル伺上申報告其他往復ノ文書トモ都テ主幹者ノ名ヲ以テスヘシ

第十一項　監督員ハ部內一巡回ノ日數ヲ定メ期日ニ至レハ府縣廳ヘ會合シ檢査員ハ區內一巡回ノ日數ヲ期日ニ至レハ派出所ニ會合スヘシ

但本項ノ場合ニ於テハ監督員檢査員トモ各巡回中ノ實況ヲ交互通告シ必要ノ書類等ヲ交換シ速カニ其擔當地ヘ分派スヘシ

第十二項　檢査員ハ檢査上便宜ト認ムルコトアリト雖モ專斷ヲ以テ成規外ノ處置ヲ爲スコトヲ得ス

第十三項　檢査上成規例格ニ疑惑ノ件アルトキハ事ノ細大ヲ問ハス都テ主幹檢査ニ於テ收稅長ノ指揮ヲ請フヘシ

但本項ノ順序ヲ履ム能ハサル場合ニ於テハ主幹者ヲ措テ直ニ收稅長ノ指揮ヲ請フコトア

ルヘシ

第十四項　檢査員轉免アルトキハ該檢査員ニ於テ擔當セル書類帳簿等ハ主幹者ヘ引繼ヲ爲スヘシ

但主幹者轉免アルトキハ引渡目錄及演說書ヲ作リ交代ノ者ヘ引繼ヲ爲スヘシ

第十五項　新任檢査員ハ巡回ノ始メニ於テ主幹檢査員ト三日乃至五日間同行シ實地檢査ニ從事スヘシ

第三款　酒造場調査

第十六項　檢査員酒造著手ノ如何ヲ問ハス出張ノ當初必ス區內各酒造場ヲ一巡スヘシ此場合ニ於テハ先ツ營業者ニ自己ノ官職姓名及其事由ヲ告ケ第十七項ヨリ第二十一項マテノ順序ニ從フヘシ

第十七項　免許鑑札ヲ出サシメ鑑札面記載ノ廉ヲ點檢シ事實相違ノ廉アルトキハ訂正ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十八項　酒造場ハ繪圖面及調書ニ對照シ區域ノ內外ハ勿論諸建物ノ構造其他二楷穴藏ニ至ルマテ細密調査ヲ遂ケ若シ相違アラハ夫々訂正セシムヘシ

但本項調査濟ノ上ハ檢査簿ニ記入スヘシ

第十九項　酒造用諸器械（桶甕類トモス以下之ニ準ス）ハ調査簿ニ對照シ遺漏ナク調査ヲ遂クヘシ尤調査濟ノ上ハ檢査簿ニ記入スヘシ

但搾リ器械及蒸溜器械ハ封緘ノ體面如何ニ注意ヲ爲スヘシ

第二十項　現在酒類ヲ調査シ而シテ酒造米買入及杜氏傭入麴室修築等ノ模樣ヲ尋問シ造酒著手ノ期日ヲ豫知シ置クヘシ

第二十一項　酢元用酒類製造營業者ノ諸器械ハ酒造用ト酢造用トヲ區別スルハ勿論其兼用スルモノハ酒造用ノ部分トシテ調査スヘシ

第二十二項　造酒著手後臨時ノ場合ニ於テハ酒造場ハ勿論酒造米仕拂高麴使用高現在等苟モ取締上必用ト視認ルモノハ必ス點檢スヘシ

第四款　酒造用諸器械調査

第二十三項　桶甕類ノ容量調査ハ稅則取扱心得書第十八項第十九項ノ算則ニ遵ヒ調査ヲ遂ケ調査簿ニ登記スヘシ

第二十四項　諸器械（桶甕類ヲ除クノ以下之ニ準ス）ハ使用ノ有無ヲ問ハス烙印ヲ捺シ得ラルヘキモノハ之レニ管廳ノ烙印ヲ爲スヘシ

第二十五項　調査簿ノ桶甕類ヲ賣買讓與貸借又ハ返却シタルトキハ其賣買讓與ニ係ルモノハ番號ヲ改メ調査簿及檢査簿ヲ加除シ其借受ニ係ルモノハ假番號ヲ附シ調査簿ニ朱書スヘシ尤貸渡タルモノハ調査簿ヲ掛ケ紙ヲ爲シテ除キ置クヘシ

但營業者ニアラサル者ヘ賣渡スカ又ハ破解セシトキハ桶側面ノ烙印竝ニ記載ノ件々ヲ削除シ且調査簿及檢査簿ヲ訂正スヘシ

第二十六項　前項桶甕類ノ外烙印アル諸器械ヲ營業者ニ非サル者ヘ賣渡スカ又ハ破解スルモノハ烙印ヲ削除シ檢査簿ヲ訂正スヘシ

第二十七項　造石稅完納前ニ於テ酒造用諸器械ヲ破解又ハ毀損スルモノハ調査簿竝ニ調書ニ其事由ヲ記載シ置クヘシ

第二十八項　新製若クハ買受讓受タル桶甕類ハ調査ノ順次ヲ逐ヒ番號ヲ附記シ諸器械檢査簿ヲ訂正スヘシ

但調査濟ノ桶甕類ニ缺號アルトキハ本項ノ桶甕類ヲ以テ補充スヘシ

第二十九項　廢業者ニシテ調査濟酒造用諸器械ヲ其儘存置セントスルモノハ烙印及桶側面記載ノ件々ヲ必スシモ削除スルニ及ハス

第五款　器械封緘及解披

第三十項　搾リ器械蒸溜器械ヲ封緘及解披スルトキハ其時々受書ヘ登記スヘシ

第三十一項　搾リ器械及蒸溜器械ヲ修繕若クハ洗滌センカ爲メ解披ヲ請フトキハ其事實及日數ヲ審査シ封緘ノ全部若クハ一部ヲ解クヘシ

第三十二項　搾リ器械ハ醪ノ石高蒸溜器械ハ元粕ノ斤量及元酒類石數ニ從ヒ使用日數ヲ査定シテ後之ヲ解クヘシ

第三十三項　解披ノ期滿チ封緘ヲ要スル場合ニ於テハ速カニ出張シテ封緘ヲ爲スヘシ

但封緘用紙ニハ年月日ヲ記入シ檢査員之ニ捺印スヘシ

一　酒槽　云々
二　男柱　云々
三　兜釜　云々
封緘ノ仕樣ハ適實ノ方法ヲ設ケ詳密ニ記載スヘシ

第六款　酒類元檢査

第三十四項　酒酛ハ蒸米麹米等ヲ半切桶ニ和シタル日ヲ以テ酛立ノ日ト定メ巡回ノ都度仕込帳ノ酛立順號ニ對照シ其個數及米水ノ割合等ヲ豫メ點檢シ置クヘシ

但水酛ハ米ヲ浸シ母飯ヲ入レタル日ヲ以テ酛立ノ日ト定ムヘシ

第三十五項　酒酛檢査ハ仕込帳酛立ノ順號ニ對照シ其個數及不熟トヲ審査シテ熟成ノ分ニ限リ檢査スヘシ

但檢査ヲ了リタルモノハ檢査簿ニ登記シ仕込帳ニハ檢印ヲ爲スヘシ

第三十六項　買入酛ハ仕切書又ハ受取證ニ據リ檢査スヘシ尤モ蒸米麹米汲水等ハ其造リ方法ニ據リ仕込帳ノ酛立順號ニ組入レ買入ノ月日トモニ記載セシメ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十七項　檢査濟ノ酒酛數個ヲ一ト桶ニ合併シテ之ヲ使用スルモノハ臨檢ノ時々現在石數ヲ點檢シテ不取締無之樣注意スヘシ

第三十八項　酒酛ハ豫メ調査ヲ遂ケ置クヘシ尤仕込ニ至リ掛米ヲ減シ又ハ酛數ヲ增加シ又ハ既ニ仕込タル醪ヘ之ヲ混和セントスル場合ニ於テハ釀造方法ノ變換屆ヲ爲サシムヘシ

第三十九項　腐敗酛ハ其使用見込ヲ立テサセ檢査ヲ爲シ之ヲ變製セントスルモノハ檢査簿ヲ削除シ更ニ變製酒元トシテ該檢査ニ登記スヘシ若シ之ヲ變製シ得ス販賣又ハ廢棄ト爲スモノハ不取締之ナキ樣注意スヘシ

第四十項　不用ノ酒元ヲ同業者ヘ賣渡ストキハ雙方ヨリ屆出サシメ調査ノ上賣渡人ハ仕込帳ニ其事由ヲ記載シ檢査簿ハ削除シ買受人ハ第三十六項ニ準シテ檢査ヲ爲スヘシ

第四十一項　甲乙二人ノ所ノ免許ヲ受ケシモノ甲ノ酒造場ニテ製造シタルハ酒酛ヲ乙ノ酒造場ヘ移サントスルモノハ前以テ申出サセ調査ノ上甲ハ第四十項賣渡人乙ハ第三十六項買受人ノ手續ニ準シ檢査ヲ爲スヘシ

但醪及製成酒モ本項ニ準ス

第四十二項　酒酛ハ個數ヲ檢査シ若シ其石數造リ方法ヲ對照シ不相當ト思料スル場合ニ於テハ現石數ヲ丈量スルコトアルヘシ

第四十三項　酒酛ハ清酒酛濁酒酛ト區別ヲ立テ仕込帳記載方其他ニ至ルマテ混同セサル樣注意檢査スヘシ

第四十四項　燒酎清酒ノ元ニ供スル原質物ハ釀造酒類酒粕其他何種類ヲ問ハス之ヲ檢査シ檢査簿ニ登記スヘシ

第四十五項　元粕檢査ハ自製ト買入トヲ問ハス粕目方帳又ハ仕切書等ニ對照シテ其斤量ヲ調査スヘシ尤モ多量ニシテ一時調査シ能ハサルモノハ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ調査スヘシ

第四十六項　白酒元ニ供スル爲メ釀造スル清酒ハ酛醪清酒ト順次檢査ヲ遂ケ其石數ハ白酒檢査簿ニ登記スヘシ

但白酒味淋銘酒等ノ元ニ蒸溜スル燒酎ハ燒酎檢査順序ニ從ヒ本項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十七項　酢元用酒類ノ酛ハ清酒酛檢査ノ手續ニ據ルヘシ尤モ酒酛ノ儘酢ヲ製造スルモノヽ如キハ酒酛ヲ以テ造石高ヲ査定スヘシ

第七款　醪檢査

第四十八項　醪ハ巡回ノ都度仕込帳ノ順號ニ對照シ添中留ノ仕込順序ニ從ヒ桶ノ配合方酒酛並ニ蒸米麹米汲水等ノ割合及其熟否ヲ點檢シ置クヘシ

第四十九項　醪檢査ハ留掛ノ日ヨリ數日ヲ經テ全ク熟成沈冷ニ至リシモノニ限ルヘシ而シテ步合ノ當否ヲ判斷シ其石數ヲ査定シテ檢査簿ニ登記スヘシ

但檢査ヲ爲シタルモノハ其時々仕込帳ニ檢印ヲ爲スヘシ

第五十項　醪石數不相當ト思料スル場合ニ於テ若シ仕込タル米水ノ石數ニ誤謬アルコトヲ申出事實相違ナキトキハ造リ方法ヲ訂正セシメ之ヲ檢査スヘシ

第五十一項　檢査未濟ノ醪ヲ場合ニ依リ數仕舞合併セントスルトキハ譬ヘハ二勺仕舞又ハ四勺仕舞ト其分界ヲ立テシメ製酒檢査ニ至リ石數步合等ヲ判別シ易カラシムヘシ

第五十二項　醪ヲ檢査シタルトキハ必ス左ノ檢標ヲ附與シ之ヲ桶側面ヘ貼付セシムヘシ

仕込第何號
桶第何號　三〇八
一醪何拾何石何斗何升何合
年月日　檢査印

三〇八トアルハ端桶入實深サ寸尺ヲ記載スルノ一例ナリ

第五十三項　熟成ノ醪又ハ濁酒ヘ枝掛ケ卽チ掛米ヲ爲サントスルモノハ造リ方法變換ト見做シ著手前屆出サシムヘシ

第五十四項　營業中都合ニ依リ未製成ノ酒類ヲ仝業者ヘ賣渡サントシ双方連署ヲ以テ屆出タルトキハ之ヲ檢査シ賣渡人ノ檢査簿ニハ其事由ヲ記載シ買受人ノ檢査簿ハ酛醪ノ部ヘ更ニ

登記スヘシ

但仕込帳ヘハ其順號ニ組入レ買入月日トモ記入スヘシ

第五十五項　酢元用酒類ノ醪ハ清酒醪檢査ノ手續ニ據ルヘシ尤モ醪ノ儘酢ニ製造スルモノハ其醪ヲ以テ其造石高ヲ査定スヘシ

第八款　製成酒檢査

第五十六項　清酒ノ檢査ヲ爲スニハ槽掛中ニ於テ臨時巡回ヲ爲シ無歩合ヲ點檢スルヲ要ス而シテ其歩合ハ手帳等ニ筆記シテ他日造石檢査ノ參照ニ供スヘシ

但本項點檢スルニハ例ヘハ醪若干石ヲ二勺槽卽チ二回ニ搾リ揚クルモノハ先ツ其一回搾切リノ時日ヲ期シテ臨檢シ搾リ殘リノ現醪石數ヲ計量シ而シテ槽ニ掛ケタル醪石數ヲ得之ニ對スル清酒ノ無歩合ヲ算出スルカ如シ

第五十七項　清酒檢査ニ方テハ醪ノ熟否ト粕斤量ノ多寡ヲ計考シテ醪垂レ肉垂レ歩合ノ當否ヲ判斷シ其石數ヲ査定シ檢査簿ニ登記スヘシ

第五十八項　前項石數計量ノ場合ニ於テハ必ス桶毎ニ蓋ヲ開カシメ口頭ノ一寸明キハ前後左右ノ平均ヲ以テシ端桶ハ稅則取扱心得書第二十七項ニ依リ査定スヘシ

第二十九項　清酒ハ仕舞數ノ分界ヲ立テ檢査スルヲ要ス尤其分界ハ醪石數ノ多寡ト搾リ器械ノ都合トニ據ルヘシ故ニ其分界ハ醪檢査又ハ器械解披ノ時ニ於テ豫メ之ヲ定メ置クヘシ

第六十項　清酒ハ第一號仕込搾リ揚ニ於テ特ニ其垂レ歩合當否ニ注意スルヲ要ス故ニ若シ垂レ歩合相當ヲ得サレハ其目的ニ達スル間ハ一ト仕舞毎ニ檢査ヲ爲シ數仕舞ヲ合併シテ搾

リ揚クルコトヲ許サヽルヘシ

但桶二本ヘ三仕舞ノ醪ヲ合併シタルモノヽ如キハ桶一本毎ニ分界ヲ立ツヘシ

第六十一項　營業者ノ都合ニ依リ搾リ中ニ於テ清酒ノ檢査ヲ請フトキハ第五十六項但書ニ準シ其分界ヲ明瞭ニセサレハ檢査ヲ爲スヘカラス

第六十二項　酒額ノ粕漉ヲ爲サントト申出ルトキハ其酒類石數ハ勿論斤量ヲ檢査シ而シテ醪石數ヲ計量スヘシ尤此場合ニ於テハ營業者ヨリ該石數ヲ明記シタル受書ヲ徵シ置尙製成ノ上其石數ヲ檢査スヘシ

但製成ノ上增石シタルモノハ其增石及事由トモ檢査簿ニ登記スヘシ

第六十三項　檢査既濟ノ新酒ヘ古酒ヲ混和シテ火入レ卽チ煮込ヲナサントスルトキハ前以テ申出サセ該石數ヲ計量シ酒藏出帳ニ記載セシメ之ニ檢印スヘシ尤火入濟ノ上ハ再ヒ調査スルコトアルヘシ

第六十四項　檢査未濟ノ清酒ヲ白酒ノ元ニ供セント申出ルモノアルトキハ其清酒檢査簿ニハ清酒石數ノ外書ニ其石數及事由ヲ記載シ更ニ他ノ檢査簿ニ於テ元檢査ノ手續ヲ爲スヘシ

但燒酎ヲ白酒味淋銘酒等ノ元ニ爲サントスルモノモ本項ニ準スヘシ

第六十五項　非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ事實審査ヲ遂ケ其變製シ得ヘキモノト廢棄ニ屬スヘキモノトヲ區別セシメ變製シ得ルモノハ更ニ變製酒ノ元トシテ檢査簿ニ登記シ變製シ得サルモノ及廢棄セントスルモノハ不取締之ナキ樣適宜處分スヘシ

第六十六項　濁酒及白酒ノ檢査ハ清酒醪檢査ノ手續ニ準據スヘシ

第六十七項　燒酎　精ノ檢査ハ蒸溜帳ニ就キ元粕ノ斤量及元酒類ノ石數其蒸溜方法及器械ノ精粗等ヲ審査シ垂歩合ノ當否ヲ判斷シ其石數ヲ査定スヘシ

但檢了シタルトキハ蒸溜帳ニ檢印ヲ捺シ置クヘシ

第六十八項　味淋銘酒等ノ檢査ハ都テ清酒檢査ノ手續ニ準據スヘシ

第六十九項　買入酒ハ仕切書送狀等ヲ檢閲シ賣主ノ住所氏名及買入ノ年月日石數價格等調査ヲ遂ケ檢査簿ニ登記スヘシ

但檢査ハ可成的販賣及消費以前ニ於テ爲スヘシ

第七十項　味淋銘酒等其釀造方法ニヨリ醪ノ上澄ヲ汲取再ヒ燒酎ヲ加入スルモノアリ是等ハ最初仕込ノ燒酎石數ヲ計量シ次ニ醪熟成ノ期ニ至テ其石數ヲ査定シ尙立會ノ上上澄ヲ汲取ラセ其汲取タル石數及二番掛ニ爲スヘキ燒酎竝ニ掛ケ卒リタル醪石數トモ順次之カ檢査ヲ爲スヘシ

第七十一項　製成ノ酒類ハ石數ヲ檢査シタル時々左ノ檢票ヲ附與シ之ヲ桶側面ヘ貼付セシヘシ

但古酒買入酒ト雖モ調査シタルトキハ本項ニ準據スヘシ

仕込第何號
桶第何號　三五〇
一何酒何拾何石何斗何升何合
年月日　檢査㊞

三五〇トアルハ端桶ノ入實深サ寸尺ヲ記載スルノ一例ナリ

第七十二項　酒精ヲ蒸溜セシ爲メ燒酎ヲ溜セントスルトキハ其著手以前燒酎石高ヲ計量シ再溜シタル酒精ノ歩合當否ヲ判斷シ其石數ヲ査定スヘシ

第七十三項　再精酒ノ元ニ供セン爲メ檢査ヲ受ケタル酒類事故アリテ製造スルヲ得ス見込石高ヲ減却セントスルトキハ其元酒類ハ更ニ其石數ヲ檢査シ稅則第二條ノ類別ニ據リ檢査簿ニ登記スヘシ

但元酒類ノ儘翌期ヘ持越シ製造セントスルモノハ第七十四項ニ準シ其手續ヲ爲スヘシ

第七十四項　味淋銘酒等皆造期限迄ニ製成スルヲ得ス其醪ノ儘翌期ヘ持越スモノハ其年度ノ見込石數ヲ減却シ更ニ翌期ノ見込石數ニ附加シ檢査簿ハ兩期トモ其石數及事由ヲ記載スヘシ

第七十五項　稅則第十八條造石稅免除ノ酒類ヲ點檢スルトキハ其製造方法及之ニ調和スル品質等ヲ見分其製造石高ヲ調査スヘシ

第七十六項　酢元用酒類ノ製成酒檢査ハ其同酒類ノ檢査手續ニ準據スヘシ

第七十七項　酢元用酒類ヲ以テ製造シタル酢ノ石高ハ勿論酒粕及他ノ酒類ヲ以テ製造シタルモノト雖モ取締ノ爲メ臨時點檢スルコトアルヘシ

但本項ノ場合ニ於テハ製造石高ヲ檢査スヘシ

第七十八項　右酒現在高ノ調査ハ十月中ニ於テ爲スヘシ其場合ニハ先ツ自製ト買入トヲ區別シ自製ハ藏出帳買入ハ仕切書送リ狀等ニ據リ石數ヲ調査シ藏出帳ニ差引差殘及ヒ火入量リ減等ヲ記セシメ之レニ檢印ヲ爲シ尙檢査簿ヘ登記スルモノトス

但皆造檢査ニ際シ現在石高ヲ調スル場合ト雖モ本項ニ準シ藏出帳ニ記入セシム

第九款 諸帳簿調査

第七十九項 酒造ニ關スル諸帳簿ハ營業者ニ於テ其調製及記載方等怠ラサル樣臨檢ノ每次之ヲ示諭スヘシ

第八十項 造酒檢査ノ每次左記ノ帳簿ヲ必ス調査スヘキハ勿論尙酒造關係ノ諸帳簿ト雖モ閱スルコトアルヘシ

但諸帳簿ヲ檢閱シタルトキハ小計通計等ノ要所ヘ檢印ヲ捺シ置ヘシ

一 酒造米元帳
二 仕込帳
三 蒸溜帳
四 酒粕目方帳
五 酒類藏出帳
六 酒類賣上帳

第八十一項 皆造檢査ノ際ハ酒造一般ニ關スル諸帳簿ヲ精密ニ調査シ之ニ檢印ヲ捺スヘシ

第十款 帳簿調製及雜件

第八十二項 桶甕類容量調査簿ハ第一號樣式ノ如ク甲乙二帳ヲ製シ調査ノ時々之ヲ加除更正スヘシ

但甲帳ハ管廳ニ備ヘ置キ乙帳ハ營業者ニ下附シ置クヘシ

第八十三項 酒類造石檢査簿ハ第二號樣式ノ如ク酒造場每ニ甲乙二帳ヲ製シ檢査ノ時々之ニ記入スヘシ

但甲帳ハ檢査員之ヲ携帶シ乙帳ハ營業者ニ下附シ置クヘシ

第八十四項 器械封緘請書ハ第三號樣式ノ如ク調製シ甲乙檢査簿ニ添付シ封緘及解披ノ時々記入スルモノトス

第八十五項 酒類見込石高臺帳ハ第四號樣式ノ如ク調製シ其時々又ハ增減アルトキ之ニ記入スルモノトス

第八十六項 酒類檢査濟石高臺帳ハ第五號樣式ノ如ク調製シ檢査ニ係ル石數ヲ一ケ月每ニ記入スルモノトス

第八十七項 巡回日誌ヲ調製シ巡回ノ都度豫メ巡回日割及町村名ヲ記載シ派出所ニ備ヘ置クヘシ

第八十八項 檢査手帳ヲ調製シ造酒檢査ニ關スル一切ノ事項ヲ細大遺漏ナク其時々筆記シ他日ノ參照ニ供スヘシ

但手帳ハ豫メ各檢査員一定ノ書式ヲ設ケ置クヘシ

第八十九項 臨檢日誌ヲ調製シ乙號造石檢査簿ニ添附シ置キ臨檢ノ每次年月日及臨檢査ノ事由ヲ摘錄シ之レニ捺印ヲ爲スヘシ

第九十項 左記ノ書類ハ十月十五日迄ニ取纒メ整理スヘシ

但增減又ハ變換等ノ屆書ハ調査濟ノ後順次綴込ミ置クヘシ

一 酒造用器械調
二 酒造用繪圖面
三 酒造種目見込石高
四 酒造釀造方法

第九十一項 左記ノ書類其他酒造ニ關スル一切ノ書類ハ調査濟ノ上其類別ニヨリ綴込ミ置クヘシ

一 酒造著手屆
二 酒類造石檢査願
三 營業者代理委任屆
四 酒造犯則ニ關スル書類
五 諸往復文書

第九十二項 左記ノ書類ハ參考ノ爲メ各派出所ニ備ヘ置クヘキモノトス

一 酒造稅則及之ニ關スル諸規則
二 前年度造酒檢査簿

第九十三項 丈量器械及燒印等ハ所用ヲ見計ヒ豫テ派出所ヘ備ヘ置クヘシ

第九十四項 器械封緘用紙ハ所用ヲ見計ヒ豫テ派出所ヘ備ヘ置クヘシ

第九十五項 檢査證票用紙ハ豫テ印刷シ所用ヲ見計ヒ派出所ヘ備ヘ置クヘシ

第九十六項 納期ニ至リ若シ不納者アルトキハ速カニ其人名ヲ通報スヘキ旨所轄郡役所ヘ豫テ協議ヲ遂ケ置クヘシ

第十一款 申報手續

第九十七項 主幹檢査員ハ區內檢査上ノ事跡ヲ一箇月每ニ取調翌月五日限リ其區派出所ヲ差立收稅長ヘ報告スヘシ其目左ノ如シ

但報告書ハ第六號ヨリ第十二號迄ノ樣式ニ倣フヘシ

一 酒類檢査濟石高
二 造酒種目見込石數及增減
三 古酒現在石高
四 酒造場員數並營業者人員及增減
五 犯則事由人員
六 酒類垂步合調

第九十八項 每納期ニハ其納額ニ係ル酒類檢査濟石高ヲ一人別限リ取調左ノ期限ニ從ヒ收稅長及郡區長ヘ報告スヘシ

第一期 三月五日限
十月一日ヨリ二月中檢査濟石數

第二期 七月五日限
三月一日ヨリ六月中檢査濟石數

第三期 九月五日限

七月一日ヨリ造檢査濟石數

第九十九項　非常ノ損害ニ罹リ造石稅免除スヘキ酒類ヲ檢査シタルトキハ其實況及檢査ノ顚末ヲ詳記シ其時々收稅長ヘ報告スヘシ

第百項　監督員ハ檢査ノ實況及酒造一般見聞ノ事項ヲ一ヶ月每ニ取調收稅長ヘ報告スヘシ

從來酢元用酒類ハ明治十六年十二月布告第四十二號ヲ以テ取締上酒造稅則ニ準據シ納稅セシメ來リタリシモ實際飲料ニ供セサルモノニ對シ酒稅ヲ賦課スルハ其當ヲ得サルモノナルカ故ニ明治十八年六月十六日大藏省主祕乾第三十八號內達ヲ以テ檢査手續第四十七項ヲ左ノ如ク改正シ實際飲料ニ供シ得ラルヽ外ハ課稅セサルコトヽ爲セリ

酢元用酒類ノ酢ハ清酒酢檢査手續ニ據ルヘシ尤飲料ニ供シ得ラルヘキモノハ酒酢ヲ以テ造石高ヲ査定スヘシ

尋テ同年十一月十三日大藏省達第七十六號ヲ以テ稅則取扱心得書第二十七項入實胴徑以上ニアル端桶石數ノ算出方ヲ左ノ如ク更定セリ

入實胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス（此底徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ胴徑ヲ減シ空積ノ深サヲ乘シ二倍シ全深サニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ徑トス）

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ底徑ト口徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ容積ノ深サ及〇.〇四〇三八四四（乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分ヲ乘シ位ニ止メ尺位ヲ一位トス以下準之）

得ル數ヲ桶面記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル

上來述フル如ク酒造稅ハ其稅率漸ク重キヲ加フルニ隨ヒ其取締方法モ亦逐次嚴密ヲ加ヘ漸ク犯則者ノ數ヲ減シタリト雖モ茲ニ本邦居留ノ清國人中ニ本邦人ト共謀シテ酒類ヲ釀造シ無稅販賣シテ不正ノ利益ヲ圖ラントスルモノ東京及新潟ニ於テ發覺セシヲ以テ政府ハ本邦駐劄ノ同國公使ニ照會シテ密造ヲ禁止セシメ同時ニ十二月十八日主祕坤第八十六號ヲ以テ各開港場ノ府縣ニ示達シ不正營業者アル每ニ當該府知事縣令ヨリ該國理事者ニ照會シ其都度理事ヨリ差止ムヘキモノトセリ而シテ又夫ノ自家用料酒ノ取締ニ付テハ曩ニ明治十五年第六十一號布告ヲ以テ酒造稅附則ニ改正追加シタル以來著々監査ヲ怠ラサルニ拘ラス多數ノ農民中無免許製造ノモノナキニ非ス現ニ明治十八年中ノ免許出願者ハ前年ニ比シ減少ノ傾向アリ因テ同年十二月十日府縣ニ內訓シテ一層嚴密ノ檢査ヲ爲シ逋稅者ナカラシメンコトヲ期セリ然レトモ十五年ノ附則改正ハ未タ多少ノ缺點ヲ免カレスシテ酒類受賣人及旅店飲食店ノ如キ業體ノモノト雖モ尙ホ均シク自家釀造ヲ禁セラレサルヲ以テ其釀造酒ヲ買入タル酒ニ混合シテ販賣シ又ハ來客ニ供シ不正ノ利得ヲ圖ルモノアリ加之免許鑑札ノ取締完全ナラサルカ爲メ彼此之ヲ貸借讓與シ又ハ他人ノ委託ヲ受ケテ製造シ若クハ名ヲ受贈ニ藉リテ制限超過ノ犯跡ヲ暗マサントスルモノアリ此等ノ爲メ酒類ノ販路著シク壅塞シ正業者ノ因難ヲ訴フルモノ所在竝ヒ起ル是ニ於テカ政府ハ明治十九年七月二十八日勅令第六十六號ヲ以テ酒造稅則附則ヲ改正シ酒類ノ受賣營業者飲食店旅店竝ニ之ト同居ノ者ハ自家釀造ヲ許サス且ツ他人ノ委託ヲ受ケテ製造シ又ハ免許鑑札ノ賣買讓與貸借ヲ禁シタリ尋テ八月二十四日大藏省令第二十七號ヲ以テ自家用料酒製造ニ關スル規則ヲ定メタリ

其全文ハ左ノ如シ

勅令第六十號（明治十九年七月二十八日）

明治十五年十二月第六十一號布告酒造稅則附則左ノ如ク改正シ明治十九年十月一日ヨリ施行ス

酒造稅則附則

第一條　自家用料ノ酒類（飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ及其他ノ用ニ供スルモノ）ヲ製造セント欲スル者ハ其旨管廳ヘ屆出免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ムヘシ

第二條　免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一期トス

第三條　自家用料ノ清酒ヲ製造スルヲ得ス

第四條　左ニ掲クル者ハ自家用料ノ酒類ヲ製造スルヲ得ス

一　酒類受卸小賣營業者

一　飲食店又ハ旅籠屋營業者

一　前二項ノ營業者ト同居ノ者

第五條　自家用料ノ酒類ハ一家內ニ於テ一期製造高一石（二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ合算ス）ヲ超ユルヲ得ス

第六條　自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家外ニ於テ之ヲ製造シ又ハ他ノ委託ヲ受ケ之ヲ製造スルヲ得ス

第七條　自家用料ノ爲メ製造ジタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第八條　免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ得ス

第九條　自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第十條　第一條第三條第四條第五條第六條第七條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其製造酒類及容器ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

第十一條　第八條ニ違ヒ鑑札ヲ貸渡讓渡タル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ之ヲ借受買受讓受ケテ酒類ヲ製造シタル者ハ第十條ニ依リ處分ス其未タ酒類ヲ製造セサル者ハ其罰鑑札ヲ貸渡賣渡讓渡タル者ニ同シ

第十二條　此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

大藏省令第二十七號（明治十九年八月二十四日）

勅令第六十號ニ基キ自家用料酒類製造者心得左ノ通之ヲ定ム

自家用料酒類製造者心得

第一項　酒造稅則附則第一條ノ屆書ニハ該期造酒ノ種目及製造見込石高ヲ記シテ差出ヘシ

第二項　前項屆出ノ後造酒種目ノ變換及ヒ製造高ヲ增減スルトキハ其時々管廳ヘ屆出ヘシ

第三項　免許鑑札ヲ受ケタル者ハ自家用料酒製造ノ標札ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四項　免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ改名代替轉居セシトキハ其旨管廳ニ屆出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第五項　第一項免許屆書式第三項標札書式ハ府縣知事ノ定ムル所ニ據ル

第六項　第二項第三項第四項ヲ犯シタル者ハ一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

而シテ酒造稅ノ納期ニ付テハ酒造稅則第九條ニ於テ之ヲ三期ニ分チ其第三期納稅ハ前二期半數

ノ殘額及ヒ第三期檢査濟ノ全額ヲ合セ皆納セシムル規定ナリシカ營業者ノ實況ヲ觀ルニ第三納稅期ハ酒造業者一般ニ金融ノ活潑ナラサル時期ナルカ故ニ右第三納期ニ際シ往々稅金ノ調達ニ苦ミ止ムヲ得ス製造酒類ヲ廉賣シ以テ其稅額ニ充ルモノアリ爲メニ市場ノ酒價ヲ紊亂シ損失ヲ蒙ルモノアルノ結果徵稅上ニ影響ヲ及スノ虞アリ特ニ京攝地方ノ如キハ每年九月之ヲ輸出シ其翌月五日ニ至リ代金預收ヲ爲スノ慣例ナルカ故ニ旁々納期更正ノ必要アリ因テ同年十二月十六日勅令第七十九號ヲ以テ明治十三年布告第四十號酒造稅則第九條中第三期造石稅納期ヲ九月三十日トアルヲ十月三十一日ニ改メテ以テ納稅者ノ便宜ヲ計レリ是ヨリ先キ本邦人ノ朝鮮國ニ渡航シ同國ニ於テ課稅ナキヲ奇貨トシ名ヲ居留人ノ需用ニ藉リ日本酒ヲ製造シテ之ヲ內地ニ輸入スルモノアリ前年中其處分方ニ付キ調査ヲ爲シタルコトアリシモ關稅竝ニ運送賃ノ失費上ヨリ敢テ內國ノ酒類營業者ニ大害ヲ及ホスノ程度ニ達セス且ツ輸入額モ亦多額ナラサリシカ故ニ之カ檢束法ヲ設クルニ至ラスシテ止メリ然ルニ彼等奸黠ノ徒ハ漸次多額ノ資本ヲ投シ其設備ヲ大ニシ巨額ノ石高ヲ製造シ續々之ヲ內國ノ沿海諸港ニ致シテ課稅酒類ト價格ヲ爭ヒ不正ノ利ヲ射ンコトヲ謀ルモノアリ依テ內地正業者ヲ保護センカ爲メ同年七月二十八日勅令第六十一號ヲ以テ朝鮮國ニ於テ製造シ日本國ニ輸入スル日本酒類ニハ當分ノ內左ノ割合ヲ以テ海關稅ヲ徵收スルコトト爲セリ

釀造酒一石ニ付	金四圓
蒸溜酒一石ニ付	金五圓
再製酒一石ニ付	金六圓

然ルニ又當時稅法上模造葡萄酒及ヒ麥酒類ハ無稅ナルヲ奇貨トシ種々異樣ノ製法ヲ考ヘ少量ノ葡萄酒ニ他ノ酒類及ヒ香料藥品ヲ混和シテ全量ノ造石稅免除ヲ請フモノアリ如此脫稅ヲ企ツルモノ續々輩出シ其弊害少カラサルヲ以テ翌二十年十一月十九日府縣ニ內訓シテ之カ標準ヲ示シ奸策ニ備フル所アラシメ且疑似ニ涉ルモノハ取扱心得書第十項ニ據リ本省ヘ稟議セシム

第一免稅スヘキ葡萄酒及麥酒ノ類

一　葡萄酒ハ左ノ種品ヲ以テ製造シタルモノ

一　酒母酒酊（イーストフード）

二　葡萄菓實（葡萄・山葡萄）

三　魚膠（アイシングラツス酒ノ澁濁ヲ去リ透明ナラシムル劑料）

二　麥酒ハ左ノ種品ヲ以テ製造シタルモノ

一　酒母酒酊

二　麥（大小麥・玉蜀黍・馬鈴薯ノ類）

三　葎艸（ホツプ麥酒ニ揮發性ノ香油苦味ノ原質及少量鞣酸ヲ與ユル劑料）

四　魚膠（アイシングラツス時トシテハ寒天ノ代用ス酒ノ澁濁ヲ去リ透明ナラシムル劑料）

右ノ外製造上缺クヘカラサル香味染料又ハ色澤料ヲ加フルモノアルトキハ其製造方法及效用ヲ具シテ稟議スヘシ

第二　葡萄酒麥酒ニ類似シテ免稅セサルモノ

一　葡萄生汁液ニ必要ノ香味染料ヲ加ヘタル外尙ホ各種ノ香味藥劑ヲ投合シ何々葡萄酒ト

稱スル類

二　既製ノ普通葡萄酒（赤白ヲ問ハス）ニ更ニ香味藥劑等ヲ投合シ精製シテ何々葡萄酒ト稱スル類

二　西洋模製法ニアラスシテ葡萄液又ハ麥汁其他菓實等ノ汁液ニ二三ノ香味藥劑ヲ調合シ精製シテ何々葡萄酒又ハ麥酒若クハ新發明何々酒ト稱スルモノノ類

四　葡萄酒又ハ其絞リ殼麥汁又ハ其絞リ粕及其他ノ菓實等ニ或物質ヲ調合シ又ハ調合セサルモ蒸溜シ葡萄「ブランデー」麥「ブランデー」等ト稱スル類

而シテ酒類ノ容器ハ酒造々石高ニ直接ニ關係アルヲ以テ曩ニ酒造稅則取扱心得書並ニ明治十八年大藏省達第七十六號ヲ以テ其測算法ヲ示シタルコトハ前ニ述ヘタル所ノ如シ然ルニ近時胴張桶ト稱スル異樣ノ容器ヲ製造使用スルモノ多ク從來ノ丈量法ニ據リ算定スルトキハ多少課稅額ヲ脫スルノ虞アルヲ以テ明治二十一年四月二十四日大藏省訓令第二十號ヲ以テ稅則取扱心得書第十九項ヲ左ノ如ク更正シ適宜算出方法ヲ定ムヘキ旨ヲ達セリ

第十九項　甕類及胴張桶其他異樣ノ桶類ニシテ前項丈量法及算則ニ據リ實量ヲ得難シト認ムルモノハ便宜適當ノ方法ヲ以テ之ヲ査定スヘシ

但甕類番號石數等ハ木札ニ書載シ之ヲ正面ニ附シ置カシムヘシ

當時海外航路ノ擴張渡航移民ノ增加ト共ニ本邦酒類ヲ支那、朝鮮、露領浦潮斯德、布哇等ヘ輸出シ之カ販賣ヲ計ル者アリシカ其輸出額ハ逐年增加ノ實況ヲ呈セリ而シテ煙草醬油稅則ニ在テハ既ニ輸出品ニ對スル戻稅ノ制アリ依テ之ニ準シ明治二十一年七月十一日勅令第五十四號ヲ以テ輸出酒類戻稅規則ヲ發布シ以テ同年八月三日大藏省令第八號ヲ以テ輸出酒類戻稅規則施行細則ヲ定

メタリ其全文左ノ如シ

勅令第五十四號（明治二十一年七月十一日）

輸出酒類戻稅規則

第一條　內國ニ於テ造石稅ヲ賦課シタル酒類ヲ外國ニ輸出スルトキハ輸出港稅關ノ檢査ヲ受ケ置輸入港稅關ヲ通過シタル證憑ヲ得テ之ヲ輸出港稅關ニ差出シ造石稅ノ下戻ヲ請フコトヲ得但其證憑ヲ得タル後滿三ケ年以內ニ差出ササル者ハ其效力ヲ失フヘシ

第二條　造石稅ノ下戻ヲ受ケタル酒類ヲ本邦ニ輸入シタルトキハ輸入港稅關ノ檢査ヲ受ケ陸揚ノ際其戻稅ハ之ヲ還納スヘシ

第三條　本則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條　本則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

大藏省令第八號（明治二十一年八月三日）

本年七月勅令第五十四號輸出酒類戻稅規則施行細則左ノ通リ定ム

輸出酒類戻稅規則施行細則

第一條　酒類ヲ外國ヘ輸出セントスルモノハ其酒類ノ種目石數及容器ノ箇數輸入地名積入船名等ヲ記載シタル書面ヲ輸出港稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ請ヒ檢査濟ノ證明書ヲ受クヘシ

第二條　酒類ヲ外國ニ輸入シタルトキハ該港ノ陸揚免狀及輸出港稅關ノ證明書ニ必ス在留本邦領事ノ檢印ヲ受ケ當初輸出ノ稅關ニ申出テ造石稅金ノ下戻ヲ請フヘシ

第三條　外國ニ輸出シ造石稅下戻ヲ受ケタル酒類ヲ更ニ輸入スル時ハ其酒類ノ種目石數及量器ノ箇數ト當初稅金ノ下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記載シタル書面ヲ輸入港稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ受ケ造石稅ヲ還納スヘシ

第四條　造石稅金下戻及還納ノ際石數ノ合位稅金ノ厘位ニ滿タサル端數ハ之ヲ切捨ツヘシ

而シテ此ノ稅則ノ厲行セラレ取締ノ嚴密ヲ加フルニ隨ヒ內地ニ於テハ漸次犯則者ノ數ヲ減セルニ拘ラス當時營業者カ法網ヲ免カルヽノ奸策トシテ稅法施行ナキ沖繩縣ニ酒造場ヲ設ケ其製成セル酒類ヲ內地ニ輸入スルモノアリ特ニ該縣特有ノ產物タル泡盛酒ハ一般酒價ノ高貴ニ伴ヒ連年其輸出額ヲ增加シ其極內地ノ有稅酒ト競爭シ鹿兒島縣下ノ如キハ殆ント之カ爲メニ壓倒セラレントスルノ勢アリ依テ酒類價格ノ平準ヲ得セシメンカ爲メ內地ノ酒價及稅率ヲ酌量シ明治二十一年三月二十一日勅令第十二號ヲ以テ沖繩縣酒類出港稅則ヲ定メ同地製造酒類ノ出港スルモノニ課稅スルノ制ヲ設ケタリ

斯クテ沖繩縣ヨリ生スル弊害ハ漸ク之ヲ防止スルコトヲ得タリシト雖モ同一ノ弊害ハ北海道ヨリモ生セリ是ヨリ先キ明治六年以降該道酒造稅ハ適宜ノ處分ニ任セタリシヲ以テ函館支廳所在地ヲ除クノ外ハ地方適宜ノ法令ヲ發シ稅率ノ如キモ一般稅率ニ比シ低率ヲ用ヰ取締法モ亦自然寬宥ノ傾アリ然ルニ年ヲ經ルニ隨ヒ輕稅寬宥ヲ奇貨トシ密造ノ弊少ナカラサルノミナラス該道ヨリ廉價ノ酒類ヲ奧羽地方ニ輸出スル者漸ク加ハリ大ニ酒價ノ變動ヲ來セリ因テ內地ノ酒價ト平準ヲ保タシムル爲メ二十二年九月二十八日法律第二十四號ヲ以テ該道中從前稅則ヲ施行セサリシ地方ニ對シ特別ノ稅率ヲ定メテ酒造稅則ヲ施行スルコトヲ公布シ十月二十五日大藏省令第十四號ヲ以テ同則施行細則ヲ定メ同時ニ稅取扱上及檢查手續等ニ關スル訓令ヲ發シタリ此等諸規定ノ全文左ノ如シ

法律第二十四號

北海道ノ內明治十三年九月第四十號布告酒造稅則ヲ施行セサル地方ニ本年十月一日ヨリ本則ヲ施行ス但稅率ハ當分左ノ通定ム

酒造免許稅

酒造場一箇所ニ付　金貳拾圓

酒類造石稅

一類一石ニ付　金二圓

二類一石ニ付　金三圓

三類一石ニ付　金四圓

稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

大藏省令第十四號

酒造稅則施行細則

第一條　酒造營業ノ免許ヲ得ントスル者ハ其製造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數ト製酒ノ種類トヲ問ハス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ願出ヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ檢查濟ノ酒類又ハ酒造用諸器械ヲ藏置スルニ止マルモノハ酒造場ノ附屬トスルコトヲ得ヘシ

第二條　引續酒造營業ヲ爲サントスルモノハ每年十月一日マテニ願出ヘシ

第三條　二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出會社ヲ設ケ營業ヲ爲サントスル者ハ頭取ノ名ヲ以テ願出ツヘシ

第四條　酒類ノ火入滓引ハ造石檢査ノ後之ヲ爲スヘシ

第五條　檢査濟ノ酒類並古酒買入酒等ヲ粕漉セントスルトキハ其時々屆出檢査ヲ受クヘシ但製成ノ上增石スルモノハ其石數ニ課稅スルモノトス

第六條　營業中都合ニ依リ未製成ノ酒類ヲ販賣スル者ハ其旨屆出檢査ヲ受クヘシ

第七條　稅則第十六條非常ノ損害ニ罹リタル酒類アル場合ハ其實況ヲ證明シ直ニ管廳ニ屆出ツヘシ

第八條　造石稅納期以前免許鑑札ヲ賣買讓與シ又ハ廢業スル者ハ檢査濟酒類ニ係ル造石稅ハ其節之ヲ完納スヘシ

附則

第九條　第二條願出ノ期限ハ本年ニ限リ來ル十一月三十日迄トス

明治二十二年十二月法律第三十二號ヲ以テ國稅滯納處分法ノ發布セラルヽヤ同法ハ從來ノ營業停止又ハ釀造酒器械諸建物等自他ノ所有ヲ問ハス其全部又ハ一部ヲ公賣シテ徵收スル等ノ處分ハ其認メサル所ナリ且特約保證ノ如キモ素ト行政上一時ノ權宜ニ出タル處分ナルカ故ニ法律上ノ效力ニ乏シク爲メニ逋稅手段ヲ逞ラス者輩出セリ是ニ於テカ翌二十三年七月八日法律第四十九號ヲ以テ現行酒造稅則ヲ改正補修シ一定ノ事項ニ該當スルモノニ限リテハ保證物ヲ提供シ若クハ保證人ヲ立ツルニ非レハ免許ヲ與ヘサルヘク且所有不動產ノ價格造石稅ノ四分一ニ滿タサルニ至リタル場合ニ之ヲ補充セサレハ納期ニ拘ハラス稅金徵收ヲ爲ス旨ヲ規定シ同時ニ納稅者ノ便宜ヲ圖リ納期ヲ四分シ最終期ヲ一月十五日ト爲シ且ツ酒類ノ腐敗等ニ因リ廢棄ニ屬スルモノハ納期以前直ニ申告ヲ爲ストキハ造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得ヘキ旨改定セリ其改正全文ハ左ノ如シ

法律第四十九號（明治二十三年七月八日）

明治十三年九月第四十號布告酒造稅則中左ノ通改正シ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

左ニ揭クル事項ノ一ニ當ル者ハ納稅保證ノ爲管廳ニ於テ相當ト認ムル所ノ保證物ヲ差出スカ若クハ資產ヲ有スル保證人ヲ立ツルニアラサレハ前項ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

一　第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條ノ處罰ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者

二　酒類造石稅ノ滯納處分ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者

三　所有不動產ノ價額造石稅四分ノ一ニ滿タサル者保證物ノ種類及保證人ニ要スル條件ハ大藏大臣之ヲ定ム

第九條　造石稅ハ左ノ四期ニ納ムヘシ

第一期　四月十五日限

十月一日ヨリ翌月三十一日マテ檢査濟ノ石數ニ係ル稅額ノ半數

第二期　八月十五日限

二月一日ヨリ五月三十一日マテ檢査濟石數ニ係ル稅額ノ半數

第三期　十一月十五日限

六月一日ヨリ九月三十日マテ檢査濟石數ニ係ル稅額ノ全數竝ニ第一期第二期ニ係ル殘納額ノ半數

第四期　一月十五日限

第十一條　營業免許後不動產ヲ賣渡讓渡及抵當トシ其現在スル價額造石稅四分ノ一ニ滿タサル場合ニ於テハ第一條第二項ニ依リ更ニ保證物ヲ差出スカ若ハ保證人ヲ立テシムヘシ

前項ノ保證物ヲ差出サス若ハ保證人ヲ立サルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラス檢査濟酒類ニ係ル造石稅ヲ納メシムヘシ

第十六條　檢査濟酒類納稅以前ニ於テ腐敗シ若ハ天災其他避クヘカラサル事故ニ依リ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ管廳ニ申出テ檢査ヲ受ケ其造石稅ノ免許ヲ請フコトヲ得

第十七條　前條檢査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石稅ヲ納ムヘシ

第二十條第三項ヲ削除ス

尋テ八月二十日右ノ改定ニ基キ施行上ニ關スル取扱規則ヲ定ム稱シテ酒造稅則施行細則ト云フ卽チ左ノ如シ

大藏省令第二十號（明治二十三年八月二十日）

明治十三年九月第四十號布告酒造稅則施行細則左ノ通相定メ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

但明治十七年八月第六十四號當省達及明治二十二年十月第十四號省令ハ同日ヨリ廢止ス

酒造稅則施行細則

第一條　稅則第一條第一項ニ從ヒ製造免許ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ造石見込高ヲ記シ其酒造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數トニ拘ハラス總テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ之ニ關スル地所建物ノ坪數ヲ圖面ニ製シ願書ニ添ヘ管廳ニ差出スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖トモ檢査濟ノ酒類又ハ酒造用諸器械ヲ藏置スルニ止マルモノハ管廳ノ許可ヲ受ケ酒造場ノ附屬ト爲スコトヲ得

稅則第一條第二項ニ依リ保證物又ハ保證人ヲ要スルモノハ願出ノ際保證物又ハ保證人ヲ定メ認可ヲ受クヘシ

免許ヲ受ケタル後造石見込高ヲ增加シ又ハ土地建物等ニ異動ヲ生シタルトキハ其時々屆出ヘシ

免許ヲ受ケタル者ニシテ翌期ニ引續キ營業ヲ爲サントスルモノハ其年十月一日マテニ願書ニ鑑札ヲ添ヘ管廳ニ差出シ免許ノ證印ヲ受クヘシ

稅則第一條第二項一二ノ年數ハ處罰ハ宣告ノ日滯納處分ハ完結ノ日ヨリ免許願出ノ日マテ滿三年トス

第二條　酒造場ヲ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ニ申出鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

他ノ管轄地ヘ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ニ申出添書ヲ受ケ之ヲ移轉地ノ管廳ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

第三條　免許鑑札ヲ賣買讓與セントスルトキハ雙方連署ノ書面ニ鑑札ヲ添ヘ管廳ニ申出鑑札

ノ書換ヲ請フヘシ若シ他管廳ニ交渉スルトキハ前條ノ手續ニ依ルヘシ

第四條　稅則第一條二項ニ依リ徵スヘキ保證物ノ種類左ノ如シ

有利公債證書

大藏省證券

日本銀行株券

正金銀行株券

國立銀行株券

政府ノ保護ヲ受クル會社株券債券

府縣郡市町村ノ公債證券

土地建物

第五條　前條保證物ノ保證價格ハ左ノ割合ニ依テ定ム

一　公債證書ハ明治二十三年勅令第四號第三條ノ價格ニ依ル

二　大藏省證券ハ其券面ノ金額ニ依ル

三　銀行會社株券債券府縣郡市町村ノ公債證券ハ價格十分ノ八

四　土地建物ハ價格十分ノ六

第六條　稅則第一條二項三ノ所有不動產ノ價格及保證物トシテ差出スヘキ株券債券公債證券不動產ノ價格ハ各地現賣買ノ價格ヲ標準トシテ地方長官之ヲ定ム

前項ニ依リ定メタル價格ニ付異議アルトキハ地方廳及其所有者ヨリ各二名ノ評價人ヲ選ミ

價格ヲ評定セシメ其評定價格ノ平均ニ依リ之ヲ定ム

第七條　稅則第一條二項ニ依リ立ツル所ノ保證人ハ不動產ヲ有シ又ハ所得稅ヲ納ムル丁年以上ノ男子ニシテ地方長官ニ於テ相當ト認ムルモノニ限ル

第八條　保證物ハ土地建物ヲ除クノ外管廳ニ於テ保管スヘシ

第九條　當初ノ造石見込高ニ依リ其營業ヲ免許シタルノ後更ニ增石スルトキハ之ニ相當スル保證物ヲ徵シ又ハ保證人ヲ立テシムヘシ

第十條　保證ヲ徵セスシテ營業ヲ許可シタルモノ其造石數ヲ增加シタル爲メ其所有不動產價格造石稅四分ノ一ヲ下リタルトキハ保證物ヲ徵シ又ハ保證人ヲ立テシムヘシ

第十一條　稅則第十一條營業免許後不動產ヲ賣渡讓渡及抵當ト爲ス場合ニ於テハ其不動產ノ位置番號名稱種類段別又ハ坪數及土地臺帳記入ノ地價地租ヲ詳記シテ管廳ニ屆出ツヘシ

第十二條　酒造用容器ハ左ニ揭クル方法ニ依リ其容積ヲ量リ所轄租稅檢查員派出所ニ申出檢查ヲ受クヘシ但シ容器ニハ番號烙印及石數ノ記載ヲ受クヘシ

酒造桶類丈量法

口徑（口頭ヨリ一寸下リタル箇所）第一胴徑（口徑ヨリ全深四分ノ一下リタル箇所）第二胴徑（口底徑ノ中央）第三胴徑（第二胴徑ヨリ全深四分ノ一下リタル箇所）底徑（底面ノ箇所）ハ何レモ內測リニテ縱橫⊕圖ノ如ク度リ此縱橫徑ヲ和シ之ヲ二ニテ除シ以テ定ム深サハ其酒桶ノ前後左右中心等孰レモ底面ヨリ口徑マテノ間ヲ丈量シ之ヲ和シ五ニテ除シ以テ定ムヘシ

但尺度ハ孰レモ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨ツヘシ

算則

(一)

第二胴徑以上ノ分

口徑ト第一胴徑ノ和ヲ自乘シ甲トス

第一胴徑ト第二胴徑ノ和ヲ自乘シ乙トス

口徑ト第二胴徑ノ和ヘ第一胴徑ヲ乘シ丙トス

甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及〇、〇四〇三八四四乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ尺位ヲ一位トス ヲ乘シ之ヲ四ニテ除シ其容量ヲ得ル

但石數ハ合位ニ止メ以下切捨ツヘシ

(二)

第二胴徑以下ノ分

第二胴徑ト第三胴徑ノ和ヲ自乘シ甲トス

第三胴徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ乙トス

第二胴徑ト底徑ノ和ヘ第三胴徑ヲ乘シ丙トス

甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及〇、〇四〇三八四四ヲ乘シ之ヲ四ニテ除シ其容量ヲ得ル

右(一)(二)ヲ合算シ滿量桶ノ石數ヲ得ル

第十三條　酒造用容器ヲ修繕シタルトキハ使用以前管廳ノ檢査ヲ受クルモノトス

第十四條　甕類及胴張桶其他第十一條ノ丈量法及算則ニ依リ實量ヲ得難シト認ムルモノハ便宜適實ノ方法ヲ以テ之ヲ測定スヘシ

第十五條　稅則第十條ノ檢査ヲ受クヘキ酒類ハ其容器ノ口頭ヨリ一寸ヲ減シ容レ置クヘシ其入實容器測定ノ全數ニ充タサル端數ハ左ノ算則ニ依ルヘシ

入實第一胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス此底徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ第一胴徑ヲ減シ空積ノ深サヲ乘シ四倍シ全深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ底徑トス

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ底徑ト口徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及〇、〇四〇三八四四ヲ乘シ得ル數ヲ桶面記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル

入實第一胴徑ヨリ以下ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス此口徑ヲ求ムルニハ第一胴徑ヨリ第二胴徑ヲ減シ之ニ容積面ヨリ第二胴徑マテノ入實深ヲ乘シ四倍シ全深ニテ除シタルモノニ第二胴徑ヲ加ヘ假定ノ口徑トス

假定ノ口徑ト第二胴徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ口徑ト第二胴徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ容積面ヨリ第二胴徑マテノ入實深サ及〇、〇四〇三八四四ヲ乘シタルモノニ第二胴徑以下ノ石數ヲ加ヘ現在ノ石數ヲ得ル

入實第三胴徑以上若クハ以下ニアルトキハ前項ニ準據スヘシ

第十六條　稅則第十七條ニ依リ酒類ヲ變製セントスルトキハ更ニ其變製スヘキ酒類ノ種目及石數ヲ屆出テ製成ノ上尙檢査ヲ受クルモノトス

第十七條　檢査未濟ノ酒類腐敗其他ノ事故ニ依リ減量若クハ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ所轄

租稅檢査員派出所ニ屆出檢査ヲ受クヘシ

第十八條　稅則第十八條造石稅免除酒類ハ一期中製造石高ヲ翌期十月中ニ屆出ツヘシ

第十九條　檢査濟酒類及古酒買入酒等ヲ粕漉ニスルトキハ其時々屆出檢査ヲ受ケ尙製成ノ上檢査ヲ受クルモノトス但此場合ニ於テ增石スルモノハ其石數ニ課稅スルモノトス

第二十條　清酒ハ搾リ揚ケ滓引以前濁酒白酒ハ醪ノ儘其他ノ酒類ハ製成ノ上造石數ノ檢査ヲ受クヘシ

第二十一條　造石稅納期以前免許鑑札ヲ賣買讓與シ又ハ廢業スルモノヽ檢査濟酒類ニ係ル造石稅ハ其節之ヲ完納スヘシ

第二十二條　營業人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ

酒造原品受拂帳

仕込帳

酒粕目方帳

蒸溜帳

變製酒類原品受拂帳

酒類倉出帳

酒類賣上帳

酒類買入帳

第二十三條　此細則ニ關スル帳簿記入方其他書式等ノ手續ハ地方長官之ヲ定ム

附則

第二十四條　第十二條ハ此細則實施以後新調修繕ニ係ル分ヨリ施行ス

第二十五條　第十五條ノ場合ニ於テ舊丈量ノ容器ニ係ルモノハ左ノ算則ニ依ルヘシ

入實胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス（此底徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ胴徑ヲ減シ容積ノ深サヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ底徑トス）

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ底徑ト口徑トヲ相乘シテ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及〇、〇四〇三八四四（乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ヲ一位トス以下之ニ準ス）ニ止メ尺位ヲ乘シ得ル數ヲ桶面記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル

入實胴徑ヨリ以下ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス（此口徑ヲ求ムルニハ入實胴徑ニアルモノハ其胴徑ヲ假定ノ口徑トシ入實胴徑ニ滿タサルモノハ胴徑ヨリ底徑ヲ減シ現在ノ深サヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之ニ底徑ヲ加ヘテ假定ノ口徑トス）

假定ノ口徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ口徑ト底徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及〇、〇四〇三八四四ヲ乘シ現在ノ石數ヲ得ル

然ルニ右施行細則第二十條ニ依レハ清酒ハ搾リ揚ケ滓引前、味淋銘酒類ハ製成ノ上檢査ヲ爲ス旨ヲ規定セルモ均シク搾リ上ケ滓引ノ上製成スヘキ酒類ニシテ彼此檢査時期ヲ異ニスルハ不權衡ナルヲ以テ同年九月二十五日大藏省令第二十三號ヲ以テ同條中「清酒以下「滓引以前」マテノ十一字ヲ削リ「製成ノ上」ノ下（滓引ヲ要スルモノハ滓引以前）ノ割註ヲ加ヘ以テ此不權衡ヲ防止セリ是ヨリ先キ明治十五

年第六十一號ノ改正布告アルヤ第四條ニ於テ新規營業免許ヲ受クルモノニ對シ造石制限高ヲ定メ以テ薄資小製造者ノ濫造ヲ防キ尋テ明治十六年大藏省達第六十九號ヲ以テ營業中種々ノ口實ヲ設ケ制限石高ヨリ減造セルモノハ詮議ノ上翌期營業ノ免許ヲ與ヘサルヘキ旨ヲ令達シタルモ此達ハ素ト稅則ノ秩序ヲ保全スルニ過キサル一時ノ權宜法ニ止リ法律上明文アルニ非ス却テ行政上紛紜ヲ釀スノ種子タルヲ以テ明治二十三年十月二十二日大藏省達第四一一九號ヲ以テ右達ヲ廢止セリ而シテ清酒醑醪ノ中ニ混和スヘキ燒酎ニ付テハ從來酒造稅則第十二條ノ造酒保存料ト看做シ課稅シ來リタリシモ右ノ規定タル畢竟脫稅ヲ豫防スルノ趣旨ニシテ製成檢査後ニ於テ生スル場合ニ適用スヘキモノナレハ之ヲ製成檢査以前ニモ適用スヘキモノトセンカ一旦課稅ノ燒酎ヲ清酒醪ニ混和シ製成ノ上更ニ課稅ヲ受クルノ嫌アリ因テ明治二十四年一月二十九日各府縣ニ內達シテ自今混和ノ際檢査ヲ受ケタル分ニ限リ課稅セサルヘキ旨ヲ以テセリ

越ヘテ明治二十七年七月十一日大藏省令第十四號ヲ以テ酒造稅則施行細則第二十四條ヲ改正セリ蓋シ該則第十條ニ於テ酒類容器大量及算出方法ヲ規定シタリト雖モ發令ノ當時舊丈量濟容器ニ對シ一時ニ改測ヲ爲サンコトハ官民ノ勞費少ナカラサランヲ虞レ附則ヲ以テ新調修繕ノ分ヨリ新丈量法ヲ實施スルコトヲ規定シタリ然ルニ爾來新舊錯雜檢査上甚タシキ手數ヲ要スルノミナラス自然歩合上ニモ關係ヲ及ホスヲ以テ玆ニ之カ改正ノ必要ヲ生シ仕込桶及ヒ檢査用ニ供スルモノハ必ス改測ノ容器ヲ使用スヘキモノト爲シタルナリ改正文左ノ如シ

第二十四條　仕込桶及稅則第十條ノ檢査ヲ受クヘキ酒類ヲ容ルヽ桶類ヲ除クノ外官廳ノ都合ニ依リ漸次第十二條ニ依リ改測スルコトヲ得但新調修繕ニ係ル分ハ其時々第十二條ニ據リ

改測スヘシ

第五項　酒造稅ノ第五期

明治二十七八年戰役後財政ノ必要ニ依リ歲入ノ增加ヲ計ルニ當テ產額ノ多クシテ而カモ人生ノ必需品ニアラサル酒類ノ稅ヲ增加シ之ニ依テ國庫ノ財源ヲ補フコト最モ策ノ得タルモノナルヲ以テ造石稅ノ稅率ヲ增加シ且營業者ノ便益ヲ謀ルト同時ニ脫稅ノ取締ヲ爲スニ付キ從來ノ法規ノ不備ヲ補正スルノ必要ヲ認メ明治二十九年法律第二十八號ヲ以テ酒造稅法ヲ改正公布シタリ今其新稅法改正ノ要點ヲ擧レハ左ノ如シ

一　酒造免許稅ヲ廢シ一般ノ營業稅法ニ依ラシムルコト

二　造石稅率ヲ增加シタルコト（從來一石四圓ノ割合ナリシ濁酒ヲ六圓、同シク一石四圓ノ割合ナリシ清酒及一石六圓ノ割合ナリシ白酒、味淋ヲ七圓、從來一石五圓ノ割合ナリシ燒酎酒精ヲ八圓トセルコト）

三　從來三類酒ト稱シタルモノヽ內白酒味淋ヲ除ク外ハ特別法ノ支配ヲ受ケシムルコト

四　清酒製造ニ限リテ免許ニ制限ヲ置クコト

五　造石稅ノ納期ヲ繰下ケタルコト

六　清酒ノ滓引減量ヲ許シタルコト

七　腐敗酒等免稅ノ條件ヲ明ニシタルコト

八　納稅保證ヲ一般ニ及ホシ造石稅半額ニ相當スル保證物ヲ提供セシムルコト

九　制裁ノ規定ヲ完備セシムルコト

而シテ本稅法施行ト同時ニ明治十三年九月布告第四十一號醫麴營業稅則明治十六年十二月布告第四十二號酢造營業者酢ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スルモノ酒造稅則ニ準據スルノ件及明治二十二年九月法律第二十四號北海道未施行地ニ酒造稅則ヲ施行スル件ノ三者ハ孰レモ廢止セラレタリ而シテ右明治十六年布告廢止ノ理由ハ舊法ニ於テ酢元ハ酒造用酒母醪ト等シク酒類中ニ包含セラレシモ新法ニ於テハ酒母醪ヲ酒類ト見做サヽルヨリ隨テ單ニ此等ヲ製造シ酢元ニ供スルモノハ製酒ト云フヲ得サルニヨリ醫麴營業ト共ニ之ヲ營業稅法ノ支配ニ一任シタルニ外ナラス又北海道酒造稅法ノ廢止ハ新法第四條ニ於テ特ニ其課稅法ヲ定メタルニヨリ單行法ノ必要ナキニ至リタルヲ以テナリ改定稅法ノ全文ハ左ノ如シ

法律第二十八號（明治二十九年三月二十七日）

酒造稅法

第一條　此ノ稅法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒濁酒白酒味淋燒酎酒精ノ六種トス

第二條　酒類ヲ製造セントスル者ハ製造場一箇所每ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其製造ヲ廢止セントスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三條　其年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一酒造年度トス

第四條　酒類ヲ製造スルモノニハ其造石數ニ應シ左ノ割合ニ從ヒ造石稅ヲ課ス

第一種（清酒、味淋、白酒）	一石　金七圓	
第二種（濁酒）	一石　金六圓	
第三種（燒酎、酒精）	一石　金八圓	

但當分ノ內北海道ニ於テハ渡島國一圓後志國ノ內八郡（磯谷郡、歌棄郡、壽都郡、太櫓郡、瀨棚郡、久遠郡、奧尻郡、島牧郡）膽振國ノ內一郡山越郡ヲ除ク外各種一石ニ付金一圓ヲ減ス

第五條　新ニ清酒製造ノ免許ヲ受クル者ハ造石高百石以上ニ非レハ許可セス

第六條　造石稅ノ納期ヲ分テ左ノ四期トス

第一期　七月一日ヨリ同十五日限

前年十月一日ヨリ其年四月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額四分ノ一

第二期　九月一日ヨリ同十五日限

同上

第三期　翌年一月一日ヨリ同十五日限

同上及其年五月一日ヨリ九月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額二分ノ一

第四期　翌年三月一日ヨリ同十五日限

前納額ノ殘數

第七條　政府ハ酒類ヲ製造スル者脫稅又ハ逋稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキハ前條ノ納期ニ拘ラス造石稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

第八條　酒類ノ造石數ハ製成ノ時之ヲ査定ス

酒類ノ造石數ヲ査定スルハ容器ノ容量ニ依ル但シ清酒ニ限リ命令ノ定ムル處ニ依リ査定石數百分二以內ノ滓引減量ヲ控除スルコトヲ得

犯則其他ノ事故ニ依リ前各項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就テ之ヲ